

Ⅲ 学校評価自己評価

1. 学園保幼小中一貫教育報告一覧

学 園 名	「目指す子ども像」、教 育 目 標
1 峰山学園	【教育目標】 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 【目指す子ども像】 「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」 「思いやりのある子ども（徳）」 「進んで心と体を鍛える子ども（体）」
2 大宮学園	(1) 教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成 (2) 目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識をもち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 【教育目標】 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進
4 丹後学園	「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 「教育目標」 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
5 弥栄学園	教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 目指す子ども像 (知) 知識と技を磨き、活用する子 *自ら課題に取り組む（自主的な姿勢） (徳) 自他の良さを知り、共に伸びる子 *仲間と知恵を絞る（対話的な学び） (体) 心身を鍛え、何事もやりぬく子 *解決策を探り、自信をつける（深い学び）
6 久美浜学園	[教育目標] 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 [目指す子ども像] (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2. 京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
1 峰山こども園	“笑顔でつながろう。心とこころ!!” ～はなそう・つたえよう・みんなのおもい～ (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2 大宮こども園	人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成 ・健康で安全に活動する子ども ・身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども ・人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども ・素直で思いやりがあり積極的に関わり合う子ども
3 網野こども園	『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』 ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成 <テーマ> 『どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがかがやいて』
4 丹後こども園	・主体的に環境に関わり自分で考え判断し行動する園児を育む。 ・遊びや生活の中で様々な体験をしながら、ものの見方や思いやりの気持ちを育む。 ・地域とともにある園づくりを進める。 ・保育教諭同士が互いに学び合える組織づくりを進める。
5 弥栄こども園	「みんな だいすき つながるえがお」 ～やってみたい！もっとやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
6 かぶと山こども園	こども園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持った たくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～いっぱい遊ぼう！一緒に遊ぼう！友達っていいな～ 1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら主体的に生きることができる力を育てる。 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 3 学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども
9 しんざん小学校	1 一人ひとりが自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	「学校教育目標」（長期目標） ◆自他を尊重し、自ら学ぶ こどもの育成 「目指す学校像」 ◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】
12 大宮南小学校	大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ こどもの育成」 大宮南小学校 目指す学校像 (1) 学級づくりを基盤にして、質の高い授業づくりを迫及する学校 (2) 全ての児童が大切に育てられている人権的風土のある学校 (3) 家庭・地域と共にある信頼される学校
13 網野北小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園保幼小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成」 【目指す子ども像】 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども
17 丹後小学校	教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ＜目指す学校像＞ 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校
18 宇川小学校	夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 ○目指す子ども像 (1) 言葉で伝え合い、主体的に学ぶ子(知) (2) 自分を大切にし、人を思いやれる子(徳) (3) 粘り強く身体を鍛える子(体)
19 吉野小学校	1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。 2 確かな学びの力と豊かな人間性を育み、一人一人が大切にされる「心の教育」の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の保幼小中一貫教育を校種間における様々な取組等を充実させながら推進する。 5 ICTを効果的に活用し、授業改善を図る。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
20 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
21 久美浜小学校	教育目標【久美浜学園全体】 「ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心を持ち 根気強く努力する子どもの育成」 目指す子ども像【久美浜学園全体】 （１）意欲的に質の高い学力を身に付けようとする子ども（知） （２）自ら正しく判断、行動し、豊かな心を持つ子ども（徳） （３）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども（体） 重点目標【久美浜学園全体】 「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」 ～ 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 ～ 指導の重点『学力の向上』 ①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長 ③家庭学習時間の確保 校訓「一生懸命」を意識した教育活動の推進
22 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — １ 基礎・基本の徹底 ２ 主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） ３ 家庭学習時間の確保
23 かぶと山小学校	１ 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」 ２ めざす児童像 （１）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 （２）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 （３）心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子
24 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】（社会的自立につなぐ教育） ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTを活用した授業改善の推進と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止
25 大宮中学校	１ 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 ２ 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 ３ 健康な体と豊かな心の教育の充実 ４ 信頼され、開かれた学校づくり ５ 教職員の資質能力の向上 ６ 大宮学園保幼小中一貫教育の推進
26 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 １ 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 ２ 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 ３ 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 ４ 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
27 丹後中学校	開校８年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性を信じそれに果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
28 弥栄中学校	１ 全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 ２ 主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 ３ 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 ４ 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てていく。 ５ 未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。
29 久美浜中学校	＜久美浜学園＞ 指導の重点：学力向上 （１）基礎・基本の徹底 （２）主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） （３）家庭学習時間の確保 ◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前のできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 １ 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 ２ 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ３ 不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善 ４ 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 ５ 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」

令和 3 年度 峰山学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【教育目標】

「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」

【目指す子ども像】

「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」

「思いやりのある子ども（徳）」

「進んで心と体を鍛える子ども（体）」

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動）」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

(1) 確かな学力の育成

言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）

※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。

ア 生徒指導の 3 機能を生かした授業を進める。

授業の中で目指す児童生徒の姿（3 目標）

①自己決定をしている

②自己存在感を感じている

③共感的な人間関係をはぐくんでいる

そのための指導方法（3 視点）

①主体的に活動する場面が設定された授業

②本時の目標が明確で「わかる」授業

③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ 目標と指導と評価の一体化を進める。

（ア）目標から単元総括テストを作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計

（イ）単元総括テストの蓄積と検証

(2) コミュニケーション能力の育成

確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の 3 機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）

ア 生徒指導の 3 機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）

イ 自己肯定感を高める取組（特別活動）

（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組

（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組

(3) 評価を見通した取組の充実

ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実

イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け	(1) 児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について ○年度当初の研修会は各校での開催となったが、峰山学園の児童・生徒の実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。 ○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組に生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。 (2) 学校経営及び進行管理 ○月 1 回の定例経営会議を校長会として開催し、学園内の教育課題の把握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して保幼小中一貫教育を意識して経営を行うことができた。 ○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組等を把握することができた。 ○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主

		任が担任会に入り、中学校数学科の教員が5・6学年担任会に加わっている。また小中の教務主任が担任会に加わることで、学習指導部会と連携した組織となり、より充実した活動ができた。 ○担任会が研究組織として機能していくことを年度当初に学習指導部会で確認し活動を進めたことにより、一貫教育の取組の見直しを行うことができた。単元総括テスト作りを通して、単元の指導構想、教材観、評価観、指導力観に繋がる論議を通して教師の指導力向上に繋がる一助となった。また5・6年担任会では、中学校数学科担当の先生からの意見や指導の実態を聞くことができ、小から中に繋がる指導の一貫性をより意識することができた。 ○1年担任会後半には、こども園から園長、担任が参加し保幼小の接続がスムーズにいくように連携を深めた。接続を意識したこども園の実践から小学校の指導を振り返る機会となった。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり (2) 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 (3) 単元総括テストの作成と交流 (4) 京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (5) 学力充実期間等の設定 (6) 中1ふりスタ (中学校1年生集中振り返り学習) (7) 全ての学年でのふりスタ (8) 家庭学習がんばり週間の実施 (9) 中学校体験授業 (10) 「5年生・6年生の心構え」の検討 (11) 二分の一成人式(小学校4年生)、立志式(中学校2年生) (12) こども園、小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 (13) アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善 (14) 不登校にかかる事例研「不登校の子どもと家庭への小中連続した支援の在り方について」の実施	就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。 本年度も、0期、Ⅰ期～Ⅲ期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。各校園では「(0)Ⅰ期～Ⅲ期における『目指す姿』(教育課程)を職員室に掲示する等、担任会で峰山学園の児童生徒につける力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。 (1) 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有 ○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 (2) 就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導について研究を行った。 ○年間12回校園長会を実施し、連携を深め、10年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、1年担任会(こども園の参加)・教育課程会議の取組で、一貫した園児・児童の支援を行うことができるようにしてきた。 ○●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることを踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムも1年担任会で検討し改善・実践する。 ○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、0期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしよう確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに0期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。 ○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。 ○1中学校4小学校だから実施する必要がある「中学校体験授業」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業(小中連携加配)」(体育)にも取り組むことができた。 ●コロナ禍では「小学校合同校外学習」の実施は難しいが、ICT活用等の工夫をして可能な限り小中連携について追究する。 ○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ○小中の家庭学習の在り方についてⅠ期の「与えられた課題を確実にやり切る力」からⅢ期の「授業と関連した自主学習の力」を付ける家庭学習の指導の改善を図った。中学校の実践を参考に小5、小6が使用する「家庭学習週間シート」で目標に向かって自分で家庭学習計画を立てる仕組みを整え実践を進めることができた。

		○各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、豊かな人間関係の構築を目指して学級経営、授業の場で生徒指導の3機能を生かす視点を意識した指導を行い、概ね落ち着いた状況で生活できている。 ○生徒指導部会のアンケートを実施することで児童・生徒の実態をつかみ、SNSに係る指導を小・中学校で進めることができた。 ●情報機器やSNSにかかる指導については、PTAとの連携が今後必要である。 ○「二分の一人式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。 ○夏季研修会の全体会で教育支援部担当者から、中学校の不登校傾向児童、配慮を要する児童生徒への組織的な対応の具体を共通確認した。情報の接続の重要性、認識の共通理解、対応の一貫性が未然防止に繋がっていることを認識でき、小中の丁寧な連携が成果に繋がっていることを確認できた。 ○部会にはSC、SSWの参加依頼も行い、対応を検討した。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通じた研修会 ウ 担任会を通じた研修 (2) 「集団の中で豊かに人とかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 体育祭等 オ 生徒指導の3機能を生かした「わかる・できる」授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組	○『『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点』『生徒指導の3機能を生かした授業』について小中学校ともに各校で授業研究に取り組み、授業改善を前進させることができた。 ○一部オンライン開催・誌上開催となったが、全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流及び共有化を図ることができた。 ○峰山中学校合唱祭（中止）・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができ、引き続き、取組内容等を検討し実施していく。 ●感染予防が必要な中、小学校合同校外学習・合同授業等を通して小中の交流を深め、豊かな学習を創り上げるために何ができるか探っていく。 ●交流会が実施できない中、保幼小中の教職員及び峰山高等学校との授業研究等を通して今後も連携を深めていく。
家庭、地域との連携、情報発信	(1) 家庭・地域への情報発信 (2) 学校支援ボランティアの活用 (3) 家庭との連携	○学園の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）と連携した峰山学園PTA統一目標を策定したり、具体的にPTA挨拶運動（峰山学園PTAみんなでおはよう運動及び交通安全指導）を実施したりすることができた。 ○学校運営協議会を通じて学園の取組等を関連機関や地域に発信してもらうことで、学園の取組への理解や安全面での協力に広がりが見られるようになった。 ○学園だより・ホームページ・リーフレット等により学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ○学園内の教育活動の充実を図るために各校の希望を聞き、地域性を生かした教育活動の展開を目指して積極的に学校支援ボランティア等の活用を図ることができた。コロナ禍で未実施となった取組もあるが人材のパイプが広がった。市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができた。 ○SNSについて、各小中学校で実態に合わせてPTAと連携して取り組むことができた。今年度はSNS講演会も小学生、中学生、保護者の3部制で実施できた。今後もSNSに関わる指導をPTAと連携して進めていく。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
《成果》 1 児童生徒、教職員アンケート結果より ・峰山学園の保幼小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。 2 峰山学園の教職員のアンケートから、確実に保幼小中一貫教育で目指している一貫した指導が浸透してきていることが伺える。今年度は、秋に授業研究会を実施でき、各校や学年会等で授業について小・中学校の教員が学園の授業改善の目標を意識して研究を進めている状況が確認できた。 3 学園経営及び進行管理について ・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要があり、組織改編を行った。 ・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 ・担任会の活動内容（総括テスト、学習の振り返り）を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践に取り組むことが出来た。 ・学園が標榜している授業改善の3つの柱（授業を見る視点、生徒指導の3機能、目標と指導と評価の一体化）に焦点化した実践を進めることができた。 4 10年間を見通した一貫した取組について ・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担任会に位置付け学習指導部と連携しながら（言葉の力の育成：思考する力・判断する力・表現する力）に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 ・生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 5 オンラインではあったが、夏季研修会の全体会の中で、峰山学園が研究指定を受けてから10年間、小中一貫教育に係る取組を展開し、大きな課題であった学力の向上、不登校の改善についての成果を全教職員で確認することができた。 ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、「(0)Ⅰ期～Ⅲ期に目指す姿」を強く意識をし、各期に身に付けさせる力を明らかに指導することができた。 ・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ・各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一成入式」「立志式」にも取り組み、成長を実感し自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。 ・「小中学校で共通確認する指導の視点」に基づき、各校で実態に応じた授業づくりに関わる	《改善方策》 ○令和4年度は、現体制（1中学校4小学校2こども園の組織図及び組織体制）で運営していく。 ○担任会の取組の継続・発展 - 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③0期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。 ○小4（Ⅰ期とⅡ期の節目）に」焦点化して研究推進してきたが、今後それぞれの節をより確かなものにするために研究・実践の幅を広げていく。6・3制のもとで定着している教育課程の意識や行事・取組等を検討し小中一貫した教育課程の無理のない移行を図る。 ○こども園から小学校への連続性、効果的な接続の在り方について今後より一層重点的に取り組み、学園の保幼小一貫した教育の実践を目指して研究を推進していく。 ○小・中学校教員の研修会 - 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。 ○令和4年度の目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、保幼小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。 【令和4年度】 1 目指す子ども像 - 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） - 思いやりのある子ども（徳） - 進んで心と体を鍛える子ども（体） 2 教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 3 目指す教師像 - 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 - 人間的魅力にあふれている教師 - 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 - 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師 4 学園経営方針 (1)一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 - ア 自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。 - イ 自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることのできる取組を進める。 - ウ 粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることができる取組を進める。 (2)「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 - ア 児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。 - イ 「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組む、専門性の向上を図る。 - ウ 10年間を見通して、一貫性・系統性のある指導を行う。 - エ 互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。 - オ 保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。 (3)保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】 - ア PTA・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。 - イ 保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。

研究を進め、秋季研修会で小学校2校の授業研究会を行った。具体的な児童生徒の姿から、よりよい授業づくりの在り方について学び合うことができた。協議を通して目指したい指導生徒の姿や授業づくりで大切にしたい視点を明確化したり共有化させたりすることが出来た。 ・保幼小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を行い、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ・不登校の未然防止に向けて、学園内で気になる子どもの情報交流をすることで、幼児期・学童期の過去の様子や家庭の情報などを得ることができ思春期の時期の変化に即した支援や指導に繋がった。 ・現場ですぐに活用できる内容として、愛着障害の特徴や種類、それに応じた支援等、重要な事柄をSSWの講義で学ぶことができた。それぞれのステージで移行支援シートを丁寧に作成し、引き継いでいることも不登校の解消につながっている。 ・SC・SSWの専門的な見立てからも学び、状況改善に向けての取組を進めることができた。 ・相談部による校内サポートなど学校が組織として継続して支援をすることを推し進めてきた結果、不登校の未然防止につながった。 ・SNS講演会については、児童生徒向けと保護者向けを実施できた、主催、運営等の役割分担が整った。 ・コロナ禍ではあったが、ペアやグループでの学習形態を計画的に取り入れることで、子ども達のつながりを育み、学習意欲の向上や不登校の未然防止につながることができた。 《課題》 1 令和4年度学園経営に向けて (1) 組織体制及び運営上の改善 ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を目指した指導をさらに進める。 (2) 令和4年度に向けての重点的な課題・取組の方向 【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】 ・令和4年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。 【学園指導の重点】 ・特に「確かな学力の育成」に関する取組では、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組を更に進める。 ・「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践のわかる化を進める。 ・夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組の大きな節としていく。特に、保幼小中連携に焦点を当てた取組とする。 ・授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の3機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践	ウ 市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を進める。 ○学園指導の重点 指導の重点「確かな学力の育成(授業研究)」「コミュニケーション能力の育成(生徒指導・特別活動)」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。 (0) I～Ⅲ期における「目指す姿一覧」を意識した指導を今後も積極的に行う。 (1) 確かな学力の育成 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。(授業研究) ※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。 ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める 授業の中で目指す児童生徒の姿 (3目標) ①自己決定をしている ②自己存在感を感じている ③共感的な人間関係をはぐくんでいる そのための指導方法 (3視点) ①主体的に活動する場面が設定された授業 ②本時の目標が明確で「わかる」授業 ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業 イ 目標と指導と評価の一体化を進める (ア) 目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計 (イ) 単元総括テストの蓄積と検証 ウ ICT・ロイロノートの活用することにより、生徒指導の3機能(3目標・3観点)を生かすとともに「対話的・主体的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを行う。 (2) コミュニケーション能力の育成 確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。(生徒指導・特別活動) ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動(積極的な生徒指導) イ 自己肯定感を高める取組(特別活動) (ア) 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 (イ) 集団の中で豊かに人と関わることができる取組 (ウ) 一人一人の居場所を確保し不登校の解消につながる取組 (3) 評価を見通した取組の充実 ア 学園評価・学校評価結果に基づく学園経営の充実 イ 教育評価・指導評価結果に基づく教育実践の改善 ○ 保幼小中一貫教育の具体的な内容 1 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて (1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け 2 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 (1) 峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課程の作成 ア 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり イ 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導
---	--

を積み上げる。 - 一人1台タブレットの導入に伴い、ロイロノートの活用が幅広く図られ「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善が行われた。今後は9年間の指導の系統性を整え、さらなる効果的な活用を推進する。 「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。 - 不登校の解消に向けて、今年度の取組を継続するとともに、関係機関との連携を更に深め、個に応じた対応から社会的自立につながる指導を展開する。 - 生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間関係の構築を目指す。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。 「5・6年生の心構え」について年度初めに共通確認し、学園で足並みをそろえた指導を行うことができた。 - 特別支援を要する生徒が繰り返し問題行動を起こすなどの特徴が見られる。指導や支援の方法をより一層工夫・連携していく必要がある。 - 学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見通しを持ち、学園学校運営協議会での評価により指導の改善を図る。 - 教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。 - 保護者、地域の方々の評価については変更を加える。 【保幼小中一貫教育の具体的な内容】 0期・Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。 (3) 令和4年度に向けての年間計画・行事の見直し コロナ禍で制限もあり配慮が必要だが、保幼小中一貫教育の取組を継承・発展する視点と、実態に応じて見直す視点をもつ。	- 小6児童の不安感や中1生徒の困り感の再検証峰中（中1）ギャップの捉え直し - 単元総括テストの作成と交流と検証 - 京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 - 学力充実期間等 - 乗り入れ授業 - 小学校高学年での一部教科担任制（音楽科） - 中1生集中振り返り学習 - 全ての学年でのふりスタ - 中学校体験授業（年2回） - 二分の一成入式（小4）、立志式（中2） ウ 0期Ⅰ期～Ⅲ期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。 - 新学習指導要領で児童生徒を主語にして授業改善の視点が示されていることを踏まえ、現在の指導方法を中心とした「小中学校で共通確認する指導の視点」について見直しを行う。 「5・6年生の心構え」については、児童生徒の実態を踏まえ、検討を継続していく。 エ 園小接続を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 - アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証 3 子ども、教職員の交流と協働 (1) 「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化⇒教職員の協働及び教職員の交流 - ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 - イ 授業を通じた研修会 - ウ 担任会を通じた研修 (2) 「集団の中で豊かに人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 - ア 峰山中学校合唱祭 - イ 部活動体験 - ウ 合同授業・学びの交流等 - エ 峰山中学校体育祭 - オ 生徒指導の3機能を生かした授業実践 - カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 - キ クリーンキャンペーン - ク SNS講演会（峰山学園主催、運営：運営会議・峰山学園生徒指導部） 4 家庭、地域への積極的な情報発信 (1) 峰山学園学校運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信 (2) 中学校区の家庭教育の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）を踏まえた「峰山学園」PTA統一目標の設定 (3) 「峰山学園」PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 学園の教育活動に支援体制（学校支援ボランティア等）の機能化と充実 (5) SNS講演会（保護者向け）については、小中一貫校PTAの取組として位置付け、各校PTAの計画等にも組み入れる。地域にも発信し地域と連携した取組に広げていく。
--	--

令和3年度 大宮学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- (1) 教育目標
自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成
- (2) 目指す子ども像
- 意欲的に学び、チャレンジする子ども (知)
 - 自他を大切にし、思いやりのある子ども (徳)
 - 心身を鍛え、活動的な子ども (体)

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- (1) 経営の重点・連携教育活動の重点
- ①連携・体験活動の充実を経営の重点とし、『ICTを活用した精選(効果的・効率的視点での充実・改善)と教職員のニーズへの対応』をキーワードとする。
 - ②保幼小、小中へのより円滑な接続のための連携教育活動を新型コロナウイルス感染症の状況を見定めながら実施していく。
- (2) 「育成すべき基盤となる力」としての人権教育・特別活動の充実
- ①全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する。
 - ②「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成のための授業づくりと特別活動の充実を進める。
- (3) ICTの積極的活用も含めた連携教育活動の充実
- ①汽水域を中心とした効率的・効果的な連携教育活動の精選・充実を図る。
 - ②汽水域以外の連携教育活動を創造する。
- (4) 大宮学園授業研究・合同研究の充実
- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を目指した授業研究を行う。
 - ②全教科・教科外指導力の向上を目指した合同研究(教職員のニーズに応じた研修)を推進する。
- (5) 学園経営と各校経営の円滑な推進のための学園組織体制・組織運営
- ①学園経営的会議(経営・運営・教育課程)の効率的な運営を行う。
 - ②各部会の組織的・効率的な運営を行う。
 - ③学園予算策定・執行の組織的・効率的な運営を行う。
- (6) 外部連携の仕組みの強化・充実
- ①学園広報の強化・充実に努める。
 - ②大宮学園小中一貫校PTA、園所保護者会との効率的な連携を進める。
 - ③大宮学園学校運営協議会での熟議と具体的活動(見守りとセットのあいさつの取組)を推進する。

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての園・学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。 (2) 学園内の全ての園・学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。 (3) 学園内の全ての園・学校が、学園の子どもの実態・課題、学園重点方針等を各校の経営計画へ位置づける。 (4) 学園保幼小中一貫教育推進部会による理論・実践研究成果を各校に波及させる。	(1) 学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の2園所、3校での共通化に取り組んだ。 (2) 学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。 (3) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。 (4) 最大の課題となる不登校について、共通認識と連携の在り方について協議を重ね、指導支援に生かした。特に、教育支援部会で事例研究を通して不登校への理解と支援の在り方について研修を積み重ねることができた。 (5) 引き継ぎシートを活用した児童生徒の支援の引き継ぎを丁寧に行うとともに、SCやSSWの活用を進めた。

就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 大中校区保幼小中一貫校教育課程の編成 ① 汽水域指導プログラムの推進等 ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・5・6年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年2回） ② I期・II期・III期の学習への円滑な接続 ・アプローチプログラム、小1スタートカリキュラム（5歳児担任・1年担任） ・夢・未来式の実施（小4年生・中3年生） ・小4・中1ふりスタ ・中学校定期テスト模擬体験 ・春季休業中の共通宿題（6年生） ③ 家庭学習の充実 ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 (2) 学力充実向上に関する取組の進行管理 ① 学力調査と分析 ② 学力向上のための授業充実・授業力向上 (3) 生徒指導・教育相談に係る情報の共有と連携 ① 5・6年生の心得、共通の生活の決まり ② 情報モラル教室 ③ 保幼小中連携シート (4) モデルカリキュラムに係る推進	(1) 大中校区保幼小中一貫校教育課程の編成について ① 汽水域指導プログラムの推進等について ・小中連携加配の乗り入れ授業（音楽）と英語専科教員による外国語の授業を実施し、児童の実態把握や指導に効果があった。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があった。 ・体験入学や授業体験の実施により、入学への楽しみや期待につなげることができた。 ② I期、II期、III期の学習への円滑な接続について ・保育園と小学校との連携のもと、小1プロブレムの解消に向けての取組を行うことができた。 ・小4と中3で、夢・未来式に取り組んだ。 ・6年生を対象に中学校定期テスト模擬体験（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 ③ 家庭学習の充実について ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 (2) 学力向上に関する取組の進行管理について ① 学力充実部に新しく学習指導主任や研究主任を加えてで学力分析を行うとともに、視点を明らかにした大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。 ② 教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。 (3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続 ① 学園として小中各校、一貫校PTAで情報モラル学習を実施し、SNSの安全な利用について学ぶことができた。 ② 事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。 (4) モデルカリキュラムに係る推進について ① 学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。（新型コロナの感染状況を注視しながら） ② 今後もモデルカリキュラムに係る研究を推進していく必要がある。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 連携・体験活動 ① 人権意見発表会（学校毎） ② 合唱祭 ③ 体育祭 ④ 部活動体験 ⑤ 体験授業 ⑥ 花いっぱい運動（学校毎） (2) 幼児・児童・生徒交流活動 ① 児童会・生徒会交流活動 ② 挨拶運動 ③ 生徒会アドバイス ④ 児童会・生徒会スローガン ⑤ 園児と中学生との合同避難訓練 (3) 教職員の交流と協働 ① 担任会（小小担任会、1年担任と5歳児担任、6年担任と中1担任） ② 授業研究に向けた取組の推進 ③ 合同研修・実践交流会の実施	(1) 連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について ① コロナ感染防止による連携・体験活動の精選や変更を行わざるをえなかった。（合唱祭・体育祭は中学校のみで実施） ② 児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、状況を判断しながら実施できた。 ③ オンラインでの交流も実施でき、今後活用がさらに求められる。 (2) 教職員の交流と協働について ① 合同授業研究会や子ども園保育所の公開を通じて、幼児から小中学校への接続やその意義、授業研究の一貫性等大きな学びがあった。 ② 3部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。 ③ 保幼小中教員の交流は一定進んだが、勤務の関係で保育所・こども園の先生方との交流が難しい。

家庭、地域との連携、情報発信	(1) 中学校区の家庭教育課題を踏まえた大宮学園 P T A 統一目標の策定 (2) 大宮学園 P T A による「家庭のやくそく」の取組 (3) 大宮学園 P T A 統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 大宮学園運営協議会（大宮学園コミュニティ・スクール）への動きづくり (5) 「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発	(1) 大宮学園 P T A の目標策定とともに、配布済の「令和版家庭の心得」を啓蒙することができた。 (2) 大宮学園 P T A 事業計画に基づき、「元気におはよう挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計画的に実施することができた。 (3) 大宮学園運営協議会との協働を進め、「見守りとセットの挨拶の取組」を広く大宮地域に波及できるよう取組を進めた。会員の皆様の思いや期待を運営に生かすことができた。 (4) 学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。 (5) 学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。
----------------	---	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
【成果】 (1) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営の統括、一貫した教育指導・活動を充実させることができた。 (2) 経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程会議等各会議で一致して進めるシステムがさらに機能してきた。 (3) すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組を推進することができた。 (4) 視点を明確にした授業研究会や夏季研でのことも園保育所の公開を通じて、幼児から小中学校への接続やその意義、授業研究の一貫性等大きな学びがあった。 (5) 保幼小中の不登校状況である園児や児童生徒、配慮や支援の必要な子どもの状況を共通認識し、支援の在り方を探ることができた。 (6) 不登校及び不登校傾向児童生徒に絞って事例研究を進めることで不登校に陥る背景の多様さと小中学校で配慮すべきポイントについて共通理解を進めることができた。 (7) 学園の経営会議（校長）、運営会議（教頭）の両方で担当指導主事から具体的な資料を基に不登校の状況について確認する機会が設けられることで、教育支援部を中心として事例研究を通して不登校児童生徒の理解と支援について研究を深めることができた。 (8) 校種間連携の必要性への意識が高まり、大宮中学校の小学校在籍時の欠席状況の情報提供（未然防止の観点）及び不登校傾向となった生徒に絞った小学校在籍時の学習の状況や欠席状況の情報提供（早期対応の観点）が進んだ。 (9) 大宮学園運営協議会では、積極的に意義ある取組を進めていただいた。（見守りとセットのあいさつの取組） (10) 新型コロナ感染防止の視点でいろいろな対応が求められる中、経営会議を中心として情報を共有し、共通認識を持って学園経営を行うことができた。	【課題】に対して (1) 学園評価を受け、保幼小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園保幼小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 ①市の教育課題改善のため、保幼小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確実に行う。 ②その具現化に向け焦点化した大宮学園保幼小中一貫教育の重点策定を行う。 ア 確かな学力の育成に向けて、「言語活カリキュラム」の具体的指導の一貫性を図る。 イ 人権意識の育成に向けて、「人権教育カリキュラム」を実施する。また、実施に向けた協議を大切にする。 ウ ICT の積極的活用も含めた連携・体験活動を充実させる。 エ 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働を進める。 (2) 大宮学園保幼小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 ①教職員の保幼小中一貫教育の意識を向上させる。事業の継続から指導の一貫性へのステップアップを図る。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善について、焦点を絞って研究を推進する。 ③「言語カリキュラム」と「人権カリキュラム」を一貫した指導の内容面として捉え、日々の授業の中で生かしていく。 ④連携教育活動を効果的・効率的に進める。 ⑤担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。 (3) 不登校にかかる状況の把握、不登校児童生徒への指導支援の在り方と連携について学園として取組を進める。

(11) コロナ禍ではあったが、小中連携事業の他、小小連携、幼保連携も可能なことを実施でき、継続した取組にできた。 【課題】 (1) 学園評価を受け、保幼小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園保幼小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 (2) 大宮学園保幼小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 (3) 不登校・特別支援教育・就学指導に係る学園課題に対して、さらに実践研究を積み重ねる。 (4) 教育支援が必要な幼児・児童生徒や、特別支援及び教育相談における校種間連携の仕組みを整え、校種間の円滑な接続を推進する。 (5) 大宮学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働をさらに進め、より地域とともにある学園（学校）を目指すとともに、地域に根差していくための工夫を考える。	①児童生徒の円滑な接続のための個別記録の活用及び不登校・不登校傾向児童生徒に特化した事例研究を継続して行う。 ②教育相談、不登校、家庭支援に係る情報交流と指導の在り方について継続して研究を進める。 (4) 保幼小連携事業・保幼小連携事業・小小連携事業・小中連携事業を通じた接続連携を強化する。 (5) 大宮学園運営協議会の来年度の方向性を踏まえ、来年度当初の協議会で具体的な提案を行い、活動を通してより地域とともにある学園（学校）を目指す。 (6) 新型コロナウイルス感染防止を徹底し、経営会議が各会議・部会の進捗状況を把握し、事業や取組を推進していく。
---	--

令和3年度 網野学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】	
あ：明るく元気に進んで学ぶ子	【知】 意欲的に学習に取り組む子ども
み：みんななかよく支え合う子	【徳】 規範意識をもち、仲間と支え合う子ども
の：のびのび生き生きやりぬく子	【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども
【教育目標】	
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進	

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 確かな学力の育成	
ア 主体的に学ぶ力とコミュニケーション能力の育成	
(ア) 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業の実現	
(イ) 指導と評価の充実（指導と評価の一体化）	
(ウ) ICTの活用による授業改善	
(エ) I期、II期、III期のゴールの姿となる指標づくり	
イ 補充学習の充実	
(ア) 基礎基本を定着させるための個別補充学習	
ウ 家庭学習の充実	
(ア) 授業とつながる自主的な家庭学習の実現	
(イ) 家庭と連携した学習習慣の定着の取組み	
(ウ) 家庭学習の指標づくり	
(2) 規範意識の醸成	
ア 学習規律の確立	
イ 生活習慣の確立	
(3) 豊かな人間性の育成	
ア 自尊感情の醸成	
イ コミュニケーション能力の育成	
ウ 将来を展望する力の育成	

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	ア 学園内の全ての学校園所が、教育目標、目指す子ども像の共通化 イ 学園内の全ての学校園所が、学園経営方針・目指す子ども像の経営方針へ位置付け ウ 学園内の全ての学校園所が、「これだけは！」の各学校園所の経営方針へ位置付け	○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議で確認したことを、各会議・部会等で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。また、今年度より事務部会の部長が経営会議に出席し、学園の経営に参画することができた。 ○学園評価アンケートを実施・分析を行い、次年度の計画の改善に活かすことができた。 【網野学園児童生徒アンケートより】 児童生徒アンケート肯定率80%以上の項目数 小1 (19/19) 小2 (10/19) 小3 (16/19) 小4 (18/19) 小5 (12/20) 小6 (19/20) 中1 (15/20) 中2 (14/20) 中3 (15/20) 概ね肯定的に捉えている学年が多い。 ・中学校は授業規律が身に付いてきている。自分で考え行動する力に繋がっており学校としての指導や取組みが成果として表れている。 ＊学校のきまりを守る。 1年:100% 2年:99% 3年:99% ＊時間を守る 1年:96% 2年:98% 3年:98% ＊服装や姿勢 1年:96% 2年:97% 3年:92% ・小学校においては、学年間、各学校間の差が見られる。 ○「網野学園保幼小中一貫教育だより」「網野学園保幼小中一貫教職員だより」「網野学園学校運営協議会だより」を通して、各学校園所・各部会・学校運営協議会の取組みを共有することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	ア 0期、I期、II期、III期の指導目標を踏まえた系統的な指導 ・I期、II期、III期のゴールの姿となる指標づくり	○児童の実態を学年部会で交流しながら指標について協議し、推進会議を中心にI期、II期、III期のゴールの姿となる指標を作ることができた。 ○小学校から中学校への円滑な接続を目指し、「6年生中学校部活動体験」「6年生中学校授業体験」を行った。今年度は、部活動体験を6月に

	・学力向上システムプログラムの見直しと活用 ・学力充実月間 ・家庭学習の手引きの活用・家庭学習がんばり週間の取組 ・6年生中学校授業体験 ・6年生部活動体験 ・6年生単元総括テスト ・6年生学年末テスト ・6年生春季休業中の課題 ・中1ふりかえり集中学習 ・小4ふりかえり学習 ・京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 イ 落ち着いた環境をつくるための規範意識の醸成 ・「これだけは!」「これだけは!」(授業編)の取組みの推進 ・生徒指導・教育相談に係る情報共有 ・乗り入れ授業、小小連携授業、小中連携授業 ・アプローチプログラム・スタートカリキュラムの作成と実践、検証 ・長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムの作成 ウ 思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係づくり ・生徒指導の3機能を生かした教育活動 ・アルミ缶回収・ボランティア活動 ・挨拶運動 ・不登校等学校不適応への対策及び未然防止	実施でき、中学校3年生が中心となった活動を体験することができたことで、部活動への不安解消と期待、部活動選択の一助に繋げることができた。また、中学校授業体験はもとより、日々の小中連携加配教員による授業(算数科)を小学5・6年対象に行ったことで、不安を軽減し、中学校への憧れを抱くと同時に学習に向かう力の高まりが見られるようになった。「6年生中学校体育祭取組見学」については中止となったため、映像等で取組みの様子が伝わるように工夫した。 ○情報モラルの学習について小学4年生と中学生を対象に、篠原嘉一氏(NIT情報技術推進ネットワーク)を講師にオンラインによる出前授業が実施できた。SNS、ゲーム等の使用におけるトラブルを知ることができ、今後の使用について見直すきっかけとなった。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保幼小連携部で共有して連携を進め、短規モデルプランスタートカリキュラム、短期モデルプランアプローチプログラムの実践や検証を行うことができた。また、網野学園各園所の実態に合わせてカリキュラムの編成を見直すことができた。 ○今年度、保幼小連携部を中心に令和4年度版長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムを作成することができた。 ○第2回全体研修会で各園所の公開保育参観を通して実態を把握し、実践発表を通して教育・保育について教職員一同が共通理解を図ることができた。 ○小中合同アルミ缶回収ボランティアに取り組むことで、子どもたちは網野学園の一員であることを意識することができた。また、中学生が小学校に出向き一緒に活動することで、児童会本部役員にとっては、中学生が自信をもって思いを表現し伝える姿に憧れをもち、目指す姿を学ぶ機会になった。中学生にとっては、小学生が一生懸命に取り組む姿を見て、アルミ缶回収に取り組む意義を考える機会となった。また、小学1年生から6年生までが中学生から小学校時代に頑張ってもらいたいことを聴くことで、中学生をより身近に感じることができた。 ○不登校傾向及び不登校児童生徒について経営会議や運営会議で状況を共有するとともに、教育相談部を中心に事例研究会を行い、具体的な対応について協議することができた。また、園所から小学校へ、小学校から中学校への引継ぎシートで確実に情報を引き継ぎ、スムーズな接続ができるようにしている。今後も、10年間を見通して、学校園所が家庭との連携を進めながら、一人一人の幼児児童生徒が、学校園所に適応できる力を身に付けていけるようにしていく必要がある。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	ア 目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流 (7) 教職員の合同研修会・実践交流の実施 (4) 授業研究会、園所参観を通じた研修 (6) 学年部会を通じた研修 イ 「自尊感情」と「コミュニケーション能力」の向上を目的とした交流事業 (7) 6年生網野中学校合唱祭参加 (4) 6年生体育祭取組見学 (6) 6年生部活動体験 (エ) 合同校外学習及び学びの交流 (オ) 小中合同交流事業(友だち交流会等) (カ) 小学校体験授業時の1年生との交流 (キ) 5歳児交流会	○6年生中学校授業体験は、各小学校の児童をグループにして活動させたことで、個々の児童が交流する機会となり、中学校入学後のイメージをより具体的にもつとともに、同学年の仲間を知ることができ不安軽減に繋がった。 ○推進会議が中心となり、「単元構想シート」に基づいた授業改善を各校で進めることができた。網野学園授業研究会を2回実施し、事後研究会とともに実践交流を行い授業づくりについて協議することができた。 ○園所の先生方の授業研究会への参加、第2回全体研修会等での公開保育・実践発表の実施により、就学前から小学校への接続及び連続性のある指導等について網野学園教職員への共通理解を図ることができた。 ○各学校で招聘した講師による講演や研修会へ参加するなど、連携した学びの場を設定すること

		ができた。 ○保幼小連携部には校長、教頭それぞれ1名が入り円滑な連携を進めることができた。 ○養護部会を必要に応じて開催し、児童生徒の実態等の共有を図ることができた。
家庭、地域との連携、情報発信	ア 網野学園学校運営協議会の取組み (ア) 網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が目標や課題を共有・協議し、具体的な取組みを推進して学園の教育環境づくりを進める。 (イ) 網野学園保幼小中一貫教育の推進に向け、学校（PTA）園所（保護者会）、家庭、地域社会が連携・協働して取り組む。 イ 京丹後市PTA協議会網野小中一貫校PTAの取組み (ア) 網野小中一貫校PTAとして、「学園合同挨拶運動・交通安全運動」等、一体となって取り組む。また、学園の「目指す子ども像」の実現に向け、保護者会とも連携して取り組む。 (イ) どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！」（家庭編）の取組み ・ 基本的生活習慣の確立 ・ 規範意識の基礎の確立 ・ 家庭学習の習慣化 (ウ) 「子育て講演会（ゲーム・ネット講座）」を網野学園と網野学園小中一貫校PTAと共催で実施する。	○網野学園学校運営協議会を計画的に実施し、学校・家庭・地域が一体となった必要な教育支援について意見交流し、学校づくりへの参画意識の高揚に繋がった。 ○学期に一度、網野学園合同挨拶運動・交通安全運動を設定して保護者だけでなく関係団体や地域の方々と協力し、全ての学校で実施することができた。 ○どの家庭でも幼児から大切に「網野学園『これだけは！』（家庭編）」のリーフレットを保護者に配布し、保護者へ保幼小中一貫教育で大切にしたい視点を知っていただき、協力していただくことができた。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが中心となり、学園だより、ホームページ、リーフレット等を通して、学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○学校支援ボランティア等を活用し、網野町の住民が教育活動に積極的に参加できる取組みを進めることができた。 ○子育て講演会に篠原嘉一氏（NIT 情報技術推進ネットワーク）を講師とし、オンデマンドで動画配信することができ、保護者がSNS等について学べたことは、家庭での生活習慣の確立を図る上で有効であった。来年度は、講師を招聘して講演会を実施したい。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
(1) 組織体制及び運営上の改善 ○運営会議を定期開催し、学園内の教育課題を共有し、教育目標・目指す子ども像の実現に向けた経営を行うことができた。また、今年度より事務部長が毎回参加することで、経費等の面からもより一層保幼小中一貫教育を進めることができた。 ○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議が中心となり、各会議・部会等で組織的に進めることができた。 ○運営会議、推進会議、領域部会の取組の進捗状況を把握し、成果・課題を整理し、総合調整や改善に努めた。 △各領域部会で、それぞれの課題に沿って計画的に実施することができたが、生活習慣とSNSの関連性等、領域部会等が連携して課題解決に向けて検討していく必要がある。	(1) 組織体制及び運営上の改善 ○経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組みを提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長・教頭は、経営会議に連絡報告及び決済を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組みを進める。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各学校園所への訪問、各会議・部会への参加を行い、状況把握と内容整理、調整を図る。 ○「確かな学力の育成」に向けた大きな柱として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。 ○網野学園の授業研究のテーマを基盤にして各校の授業改善を図る。なお、授業研究の教科については、それぞれで決定し研究を深める。 ○児童生徒の生活習慣やSNSとの関連性の改善に向けて養護部会と生徒指導部会の連携を図る。 ○保幼小連携部会の担当者が同一校にならないよう調整し体制を組む。 ○令和4年度、第1回研修会（5月2日）第2回研修会（8月18日）第3回研修会（2月17日）の年3回の研修会を節目として研究を深める。 ○第2回全体研修会（夏季）については、網野学園小中学校全教職員で園所参観を行い、幼児の実態把握や教育・保育実践について共有化を図る。また、網野学園教職員が学べる場として講師を招聘し研修を深めていく。 ○学年部会については、年4回実施する。（5月・6月・7月・1月）授業日における開始時刻は午後4時からとするが7月は午後3時からの設定とする。各小学校の授業公開と関連させたり、計画に沿った十分な準備をする等見通しをもったりして運営し、限られた時間の中で学年部会の研修の充実を図る。 ○小5、小6学年部会については担任と中学校数学、

(2) 重点的な課題・取組について 教育目標・目指す子ども像・学校経営方針について ○教育目標及び目指す子ども像の実現に向けてPDCAサイクルで学園経営を行うことができた。 ○園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究を意欲的に進めた。また、網野学園全教職員による園所参観及び全体研修会での園所の実践報告を通して、園所の教育・保育の理解を更に進めることができた。 ○中学校卒業までの目指す姿の共有と系統的な教育、一貫した指導の継続を行うため、推進会議をもとに指標づくりをすることができた。 ○重点的な取組内容として、平成28年度より「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。行動連携「これだけは」については基礎的なことでもあり、網野学園がスタートしてから継続して取り組む中で積み上がりつつある。 確かな学力の育成について △「確かな学力の育成」については、網野学園の最重要課題であるため、授業づくりを中心に研究を進めてきた。児童生徒アンケート結果から学習意欲、学習内容の理解については肯定的な評価(90%)が高い。しかし、自分の考えをもち交流することは学校間・学年間に差が見られる。また、家庭学習について小中の接続をより丁寧に指導し、学習時間はもとより、自ら学習する力を育成する必要がある。 ○小学6年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、単元総括テストを作成し、実施することができた。 ○推進会議を中心に授業研究会を年2回実施し、学園のテーマである『主体的・対話的で深い学び』の実現を通して確かな学力を育成する」をもとに、授業実践を深めることができた。	英語担当教員、小学校理科専科で構成する。(配置があれば) 5年部会…中学校英語科担当教員・小学校理科専科 6年部会…中学校数学科担当教員 ○学年の課題から必要に応じて学年部会を開催できるものとする。 ○領域部会については、必要に応じて開催する。 (2) 令和4年度に向けての重点的な課題・取組の方向 教育目標・目指す子ども像・学校経営方針について ○教育目標「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進」及び目指す子ども像の実現に向けて、PDCAサイクルで学園経営を行う。 ○園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究を意欲的に進めていく。また、子どもたちの成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園所と小学校との連携を一層進める。 ○令和3年度に作成した指標を基に、その実現に向けた経営を行う。 確かな学力の育成について ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通した授業づくりについて、研究・実践を推進会議が中心となり進める。なお、学力向上に関する内容について協議する際は、小中連携加配も推進会議に参加する。 ○網野学園「これだけは！」(授業編)から更に進んで、授業づくりの視点や留意点に重点をおいた授業改善を進め、確かな学力の育成を目指す。更には、非認知能力を伸ばすことが認知能力を伸ばすことに繋がることから「学びに向かう力、人間性の涵養」の観点から「主体的に学ぶ力」、「コミュニケーション能力」の育成に視点をおいた授業実践を行う。 ○GIGAスクール構想による一人1台のタブレットを活用した授業改善を進め、実践を積み上げる。 ○単元全体を構想することで、授業のゴールの姿を明確にし、子どもが主体となる授業づくりを進める。子どもの活動時間を確保し、学力の向上を目指す。 ○確かな学力を身に付けさせるため、推進会議が中心となり、各校の実態や状況を交流し授業改善に活かす。また、各種テストの分析を丁寧に行い、課題に対して各校の実態に応じた手立てを講じる。 ○学園として、家庭学習・基礎学力の定着に取り組む。特に家庭学習については保護者とも連携し、家庭学習習慣の定着・内容の充実(自主的な学習)を目指した取組みを更に進めていく。 ○小学6年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、引き続き単元総括テストを作成し、実施する。 ○小学4年生においては、1期の最終学年であり、基礎基本の定着に向け小4ふりかえり学習を継続して実施する。 ○学園としてⅠ期からⅢ期までの指導指標を示し、家庭学習における目指す子どもの姿を児童生徒、教職員、保護者が共有し家庭学習に取り組み、確かな学力を付けていく必要がある。また、園所においても保護者の協力を得ながら、家庭学習ががんばり週間を同一時期に実施する。
---	--

規範意識の醸成について

- 「規範意識の醸成」については、児童生徒及び教職員アンケート結果や児童生徒の状況から中学校においてはほぼ定着（99%）してきている。小学校では、学校間、学年間に差が見られ更に定着させるための取組が必要である。
- △行動連携『どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める」を挙げている。しかし、網野学園生徒指導部のアンケート結果からも、大きな課題になっている。

豊かな人間性について

- △「豊かな人間性」については、アンケート結果から学年が上がるにつれ、自己肯定感や自尊感情にかかわる項目が低くなっている。
- △学園評価アンケートから「自己肯定感」や「将来の夢や目標」をもつ児童生徒の割合が学年が上がるにつれ、減少する傾向にある。
- 不登校傾向児童生徒について毎月挙げるとともに、経営会議、運営会議等で確認し実態交流を行った。
- 引継ぎシートを丁寧に作成し、園所小間、小中間の繋ぎを確実にすることで不登校の解消に繋げている。
- 教育相談部で事例研修会を実施し、不登校児童の事例をもとに児童生徒とのつながりや家庭支援の手法等を学ぶことができた。また、SCやSSWの専門機関と連携を図り、状況改善に向けての取組を進めることができた。

保幼小中一貫教育の具体的な内容

- 網野学園Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期のゴールの姿を各学年部会で実態交流をもとに育てたい力を確認し、進め会議を中心に指標づくりを行うことができた。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策のため、変更を余儀なくされた行事や取組があったが、工夫をしながら多くの事業や行事を実施することができた。
- 保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各会議、各部会等に参加し経営会議での方向性等について把握し、整理したり調整したりしながら、目的に沿った連携や取組を進めることができた。各園所・小学校を訪問し、各校の授業や取組を便り等で発信し学園内の各園所小通学校間をつなぐことができた。
- 保幼小中一貫教育学園コーディネーターが網野学園運営協議会の事務局を務め、地域学校協働本部地域コーディネーターと共に、丁寧な連携を進める中で、保護者・地域の方々の学園運営への参画意識の高揚につながった。

規範意識の醸成について

- 網野学園「これだけは！」、網野学園「これだけは！」（授業編）の見直しと改訂を推進会議を中心に行い、各校で継続して取り組み、落ち着いた環境づくりを進める。
- 情報モラルについての出前授業を小学4年生、中学生、網野学園保護者を対象に網野中学校を会場として実施し、経営会議、運営会議が主体となって運営する。保護者の部（子育て講演会）については、主催は網野学園とし、運営は運営会議が行う。また、PTA及び保護者会とも連携を進める。
- 社会的にもゲームやインターネットの使用による健康被害（ゲーム依存症）が問題になっていることから、自己コントロールができる力を身に付けるために、生徒指導部と養護部が連携しながら、系統的な指導を進める。

豊かな人間性について

- 自己肯定感をもち将来を展望できる力を育むことができるよう、より一層豊かな人間性を育む学習や活動を取り組んでいく必要がある。
- 多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限りの確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていく。重点的な取組内容の中の「豊かな人間性の育成」に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組を進める。

保幼小中一貫教育の具体的な内容

- 作成したⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期のゴールとなる「指標」を目指して実践し、改訂を行う。
- 部活動体験は中学3年生が活動している6月に実施する。また、6年生対象入学説明会・中学校授業体験は11月に実施する。
- 5歳児が一堂に会し、他の園所の仲間と交流を深めるため、5歳児交流会を実施する。
- 短期モデルプランアプローチプログラム、短期モデルプランスタートカリキュラムの検証は、保幼小連携部と小1学年部が中心となり行う。
- 長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムを実践し見直しを行う。
- 各園所は近隣の小学校行事等の見学を通して、子どもたちが小学校施設への出入りや行事を知る機会を設定する。
- 学園の課題である「基本的生活習慣の確立」「規範意識の基礎の確立」「家庭学習の習慣化」について網野学園小中一貫校PTAとして、園所保護者会とも連携し課題解決に向けて取組を進める。
- 就学前から中学校卒業までを見通した家庭との連携を進める上で、園所保護者会との連携を進める。
- 網野学園学校運営協議会での交流・協議を通して、更に学校・家庭・地域が参画意識を高め、一体となって教育力のある学校づくりを目指す。
- 学園評価アンケートについては、指導と評価の一体化の視点から、年度当初に評価内容等の見直しとその周知を行い、目標達成を意識した実践ができるようにするための改善を図る。

令和3年度 丹後学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】
 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】
 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】

教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- ①研究主題を『主体的・対話的で、深い学びの授業づくり ～生徒指導の3機能を生かして～』として、「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」のどの機能をどのように生かすかなどを重視する中で、国語を中心に教科等の特質に応じた見方・考え方を踏まえた「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善を行い、確かな学力の育成につなげる。
 ②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保幼小接続に係わる事業・小小連携合同事業と3つの事業の充実を目指す。
 ③丹後学園の取組や事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。 ②重点教科を「国語」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。学年部会では、算数科の授業づくりも検討・交流し充実させる。 ③全体研修会、授業を通した研修会(3回)、学年部会を通した研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。 ④月1回の計画的な経営会議(校園所長会議)を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。	○昨年からの新型コロナウイルスの影響で行事に対して制限があり、経営方針や計画について、予定どおりに進めることができなかったが、リモートでの授業や、部活動見学、授業体験等は実施することが出来た。(10月27日の中学校の公開授業は実施できた) また、昨年度、立ち上がった丹後学園学校運営協議会の委員の方々には、挨拶運動や授業や体験活動等の参観をとおして、小中の連携や子どもたちの実態を見ていただく機会となった。 ○経営会議を定例化し、運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保幼小接続部会の取組の進捗や実践後の成果・課題を交流し、今後の方向性を示し取組を進めることができた。 ○国語を小中がともに重点に置き、授業の公開や事後研が実施できた(小中共に実践してきた説明文について、小中の一貫した指導が確認できた)。 ●一斉学年部会でICT活用に関わる使用頻度や指導した内容等、中学へ入学するまでの実態を把握しておくことや中学校での定期考査について小学生の不安解消をしていく。(定期考査のガイダンス、体験実施等) 《事務局会議(代表・庶務・学園コーディネーター)》 ○事務局会議を開催し、学園内の教育課題を把握し、教育目標の達成に向け経営会議等の調整・事務作業を行った。 ○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、各校での年度初・末全体研修会、夏季研を充実させるために事前準備、事務作業等を進めた。 ○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。 ○教育目標、目指す子ども像を保幼小中で確認し、子どもたちの成長と発達の特性や課題を共有して適切な指導を継続してきた。また、指導については一貫性や連続性を意識した実践ができた。 ○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、全て

		の学校等が中学校を卒業する姿を想定し、生きる力の育成につながる指導ができた。(自立につながる意図的な指導) ●次年度さらに保幼小中一貫教育を推進していくため、0 期からⅢ期の各段階でつけるべき力の指導方法の適時性や一貫性・連続性の研究をしていく必要がある。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から国語を研究し、指導の方向を2小学校でそろえる。 ③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。 ④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組を展開する。 ⑤小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園と小学校との連携を進める。 ⑥中1ギャップ解消のため小学6年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。	○昔話や物語をもとにした創作劇や地域と連携し、地域から学ぶ学習結果の発表は、大きな自信となった。(探求し、伝える内容をわかりやすく工夫した表現や、友達を思いやり協力したり折り合いをつけたりしながら味わう達成感、成就感が次の課題へ挑戦しようとする意欲を高めた。) ○「中学校授業体験、部活動見学」「小学校合同校外学習」「丹後こども園・宇川保育所合同での1年生と5歳児のなかよし交流会」等、コロナ禍の制限がある中、効果的に進めることができた。(つけるべき力をつけるべき時期につける、小学生や中学生の自信につながる取組) ●育てたい力が、より検証しやすい取組の計画と予想される課題に対する改善策の検討を進めることである。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	①2小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。【2小学校合同事業】 ②教職員全体研修会・授業研究会を年間3回実施するとともに、保幼小接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。 ③中学校1年生入学後1カ月ごろの状況及び出口となる中学3年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。(第Ⅱ期及び中3の公開授業)【小中合同事業】 ④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの活用、保幼小接続部会でのスタート研修会【保幼小接続に係わる事業】 ⑤保幼小の子ども…5歳児と小1年生との交流会(2回) 保幼小の教職員…5歳児と小1担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」	○小、中学校の授業公開と事後研が実施でき、小学校の指導が中学校でつながり、連続し発展してきていることを振り返る意義ある機会となった。 ○本年度の夏季研修では、子どもたちに確かな学力と豊かな社会性を身につけることがとても重要であると講演された内容を教職員全体で確認できた。 ○小小合同行事、小6部活見学、小6授業体験、ふれあい交流会等は中学校生活への不安を解消する機会になった。新たに今年度は、園所の交流行事を行うことができた。 ●行事の精選や実施形態の工夫が要る。(ICTの活用等)
家庭、地域との連携、情報発信	①「丹後学園学校運営協議会」の機能化と充実を図る。(年間2回) ②「丹後学園だより」等を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。 ③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に努める。	○予定していた年間計画は、延期や中止をせざるを得ない実状もあったが、実施形態や実施期日を変更したり、時間差を設けたり参観等工夫をしながら教育活動を行った。 ○年度初めに詳細が確定できなかったが、小中一貫校PTAと市教委とともに教育講演会を開催し、子どもの自尊感情を高めることや子育ての基本軸となること等を保護者、地域住民と学ぶことができた。 ○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園学校運営協議会、町内民生児童委員、主任児童委員、保護司、各種団体の方々に保幼小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。 ●保幼小中一貫教育の成果として顕われた子どもたちの成長を広く発信し、地域住民へ学園のめざすところがさらに浸透するようにさせていくことである。 ※次年度は、10月28日(月)予定している教育講演会を学園PTA行事として、位置付ける。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
今年度の成果 ①導入準備期間を含め7年間行ってきた実践を活かして、本実施6年目の丹後学園の経営を行った。組織や会議について当初計画したことが、コロナ禍で、変更を余儀なくされたが、安全を優先し、可能な範囲で実施できた。 ②丹後学園運営協議会（名称：丹後学園教育応援会）を立ち上げて2年目で、地域への啓発に心がけ、限られた参観者であったが、活動が前へ進んだ。 ③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組の実践を進め、『主体的・対話的で深い学び』による指導改善をテーマに掲げ、各保園小中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保園小の接続に関する学園としての研修が進んだ。 ④小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」で発信した「丹後学園」の研究の深化・検証の推進を行った。 ⑤小学校間（校区2小学校）の学年ごとの合同学習、修学旅行等を行い、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。 ⑥2学期末に6年生の授業参観と懇談をもつことによって、小中の連携の円滑な接続が組織として積極的にできた。小学校においては、3学期にどのような力をつけて中学校に送り出せばよいのか見通しをもつことができ、中学校においては、余裕をもって各学校の集団の雰囲気や児童の実態や課題などの把握ができ、入学後の見通しがもてた。 ⑦小学校在籍中15日以上欠席のある児童の個別記録「丹後学園教育相談ファイル」を作成し、実態や指導・支援のあり方を円滑に中学校に接続する予定である。 ⑧限られた中であってもリモート研修などの工夫を重ね、小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解を深めることができた。また、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、各校ごとの授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学3年生の姿を共有することができた。 ⑨昨年に引き続き、算数・数学の指導に加えて、読む力の育成を重点に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。 今年度の課題 ①今年度の研究テーマを継承しながらも、児童生徒の実態から、次年度は読む力の育成カリキュラムの系統性の教科研究を深めていく。 ②学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用の模範的な研究を進める。	○経営会議は、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。 ○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。 ○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保幼小接続部の4部会とする。 ○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進捗管理、検証等を行う。（※研究のテーマ「主体的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の3機能を生かして～」を追究し、国語を重点教科として論理的に思考し、読む力を高め、適切な判断と表現ができる力をつけることを目指す） ○令和3年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通した取組の充実」を設定していく。 ○「確かな学力の育成」に関しては、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についての研究・実践や各教科の目指す資質・能力のために生徒指導の3機能を授業にどのように活かすかを研究する。具体的には、文章を正しく読み取り、じっくり考え、適切な表現ができることをめざす。授業研究の教科として『国語』（児童生徒の実態、課題克服の必要性があるため）。また、算数についても課題克服のため、学年部会で授業づくりを検討したり、総括テストを活用・実践したりして指導の検証や児童の学力実態を把握し、授業改善につなげる。 ○「コミュニケーション能力」に関しては、発達段階の各期におけるコミュニケーション能力に係る言語活動の評価のポイントを学園で共有し、各園所学校の保育・教育活動、各部会（4部会）の事業内容に、コミュニケーション能力の育成につながる計画を立案し行う。相手を思いやる心や折り合いをつけたり、協調したりする寛容な心の育成が人間関係の基盤となり、良好な関係の構築につなげていく。 ○「目標と指導と評価の一体化」に関しては、学年部会では、課題となる算数の単元に着目し、これまで作成した総括テストの活用及び授業研究を行い、授業改善を図る。また、中学校では授業における指導目標をもとに指導した結果を定期テストで分析し、具体的な改善策を導き実践する。また、市保幼小中一貫教育授業研究については、学園全体で、就学前から10年間の学びを学園として今後どのように進めていくべきか、保幼小中一貫教育モデルカリキュラムに示されている計画や指導に照らし、言語活動や学び方等の中から、本学園が重点としている内容を再整理していく。 ○学園評価については、2学期末までに児童生徒、保護者、教職員、学校関係者（学校評議委員、学校運営協議会委員、民生児童委員）が、教育目標の達成に関わる内容をアンケートに回答し、その結果を分析する。成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。 ○保幼小接続部として、保育所・こども園の保護者に対して、小学校で必要な力や社会性など一緒に学べる機会を設定していく。 ○小学校で気になる児童が、中学校で適応しにくくなることもあるので、児童の見立てや支援、家庭との連携を大切に教育相談活動を行い、小学校での様子（本人・家族・医療との連携等）を丁寧に記録に残し、中学校につないでいく。 ○学園PTAと連携し、「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習習慣の確立を目指した取組を更に進めていく。 ○ケース会議等を通じて、本人を取り巻く生活環境や保護者の生育歴等の実情を踏まえるとともに、子の将来を見据えた指導の支援策を関係機関と連携を図り、対応していく。

令和3年度 弥栄学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

教育目標

「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」

目指す子ども像

- (知) 知識と技を磨き、活用する子 *自ら課題に取り組む (自主的な姿勢)
 (徳) 自他の良さを知り、共に伸びる子 *仲間と知恵を絞る (対話的な学び)
 (体) 心身を鍛え、何事もやりぬく子 *解決策を探り、自信をつける (深い学び)

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進
 - ・授業実践力等の向上 (他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて)
- 2 自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の3機能を生かした実践の推進
 - ・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬
- 3 教育活動全体を通して「思いやる心」の育成
 - ・教科としての道徳の授業改善
 - ・情報を吟味し精査する力の育成

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	①学園の組織改編及び進行管理 ・教育課程会議に学力充実部を統合する。 ・特活部を廃止し小中の交流活動の企画立案や連絡調整は運営会議が行う。 ・学年会を学年ごとの開催や、低学年部、中学年部、高学年部の開催など協議内容で変更する。 ・特支担任会を学年会に位置づけるとともに、教育支援部を廃止する。 ②目指す児童像の実現につなげるための子どもの実態把握・分析 ・学力や生活、家庭環境等、より深い子どもの実態把握と分析を進める。 ③一堂に会した全体研修会の実施 ・4/30 第1回全体研修会〈各校〉 ・8/19 第2回全体研修会〈弥栄中〉 ・2/17 第3回全体研修会〈各校〉	○令和2年度の総括をもとに学園組織体制の改編を行ったことで各会議や部会ごとの役割分担が明確になった。 ○各会議や各部で学園内の幼児児童生徒の交流を様々な視点から行うことで、指導や取組みの方向性を決めることに役立った。 ○第2回の全体研修会では、教育課程会議から児童生徒の学力の実態と分析の報告があり、学力課題と授業改善の方向性について共通理解を深め、学園全体で取組むことの重要性が再認識できた。 ●コロナ禍のため、第1回と第3回の全体研修会が紙面による実施となった。学園全体で集まり、学び交流する機会が第2回の一回だけになったのは非常に残念であった。第3回では、不登校に関わる講演を計画していたが中止となり教育相談に関する研修と交流の場を持つことができなかった。全体研修会が開催できなくても、学園の方針、教育目標、重点課題、取組みの柱等を各学校や園で周知徹底し、学園全体でさらに共通認識を深めていきたい。来年度は、全体会が学園の教職員にとって、さらに実践力を高められる研修の場となるようにする。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	①学力向上と授業づくりの取組み ・6/16 第1回合同授業研究会〈弥栄小〉 ・11/17 市保幼小中一貫教育授業研究会〈弥栄中〉 ②授業改善における各期のゴールの姿の共有 ・『主体的・対話的で深い学び』における目指す姿」を活用し、発達段階を踏まえた指導を推進する。 ③学園教職員による弥栄こども園参観 ・8/17 弥栄こども園参観〈中止〉	○6月の合同授業研究会(弥栄小)、11月の京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会(弥栄中)では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「生徒指導の3機能を生かした学級経営」を授業改善に生かしていくために、保幼小中の教員が一緒になって事前研修会を行い、授業づくりを行った。指導の中で保幼小中のそれぞれが大切にしているところを交流しながら指導案づくりをすることができ、発達の段階に応じた小中の継続性のある授業づくりをすることができた。 ○教育課程会議が作成したⅠ期からⅢ期の「主体的・対話的で深い学び」における目指す姿を踏まえて、2学期からの授業実践のポイントを焦点化することにより、授業改善の視点が明確になった。 ○学園の児童生徒のアンケートでは、「国語の勉強は好きだ」の肯定的評価が9ポイント、「算数(数学)の勉強は好きだ」の肯定的評価が8ポイント、昨年に比べて増加した。また、「話し合い学習では、司会や記録などの役割を決めて話し合

		っている」の肯定的評価が7ポイント、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的評価が5ポイント昨年に比べて増加した。この結果から学習に対する意欲、学習内容の理解が高まり、ペアワークやグループワークが授業に積極的に取り入れられたことで、子ども同士お互いの意見を尊重する態度が育ってきているように考えられる。 ●コロナ禍で、こども園の参観ができにくい状況にある。こども園の実践を知ることは小中学校においても大切なことであるので、今後も継続して計画していく。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	①幼児・児童・生徒交流 地域の特性を取り入れ10年間を見通した連続的な活動を実施する。 ・学年交流活動 ・小中連携活動 ・保幼小連携活動 ②学年担任会の設定 ・4/20.8/19.1/7 計3回 ③いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談の体制づくり ・学園内の情報共有 ・SCによるストレスマネジメント授業の実施 ・小中連携に係る引継ぎシートの効果的な活用 ④情報を吟味し精査する力の育成 ・講師を招聘しての学園情報モラル教育を開催する。	○こども園の年長児と弥栄小、吉野小の1年生が合同交流を行い、一緒に楽しく活動することができた。学園の重点課題や研究主題を踏まえ、系統的な視点を持った園小の接続、小・小の効果的な交流ができた。 ○弥栄小と吉野小の同学年で交流行事や合同の取組を実施した。合同の取組みでは、両校の児童に役割を分担するなどして児童が主体的に取り組めるように心がけた。また、児童の実態に応じた「付きたい力」を検討し、交流行事の事前指導に役立てた。 ○学年会では、交流行事や合同の取組みの運営について児童数や児童の実態に応じて、子どもたちに力をつけられるように協議しながら取組を行った。また、教材研究や授業の指導に関して、授業実践や単元計画、指導方法等を交流し、自校の実践にいかすことができた。 ○部活動体験（5年：見学、6年：体験）では、中学校の部活動が実際の様子を知り、中学生と交流できたことを大変喜んでた。入学したらどの部活に入りたい等、中学への入学に対する期待を寄せる声がきけた。中学校に入学することに対する不安の一つに先輩との関係をあげられるが、実際に部活動で中学生と交流することで、先輩のやさしさに触れ不安の軽減につながった。中学生にとっても、自尊感情、自己有用感を感じられる生徒指導の3機能をいかす取組みになった。 ○今年度、小学6年生の中学校授業体験は、実技(体育)と5教科(英語または数学のどちらか選択)を実施した。中学校の体育館や教室で授業体験を行うことで、中学校の授業の雰囲気に触れ、中学校入学が楽しみであると期待を高めた。 ○経営会議をはじめ、各会議、各部会で園児、児童、生徒の状況(生徒指導の状況、不登校、家庭環境等)を交流し、学園全体で情報を共有し各校、園での指導にいかした。 ○スクールカウンセラーによるストレスマネジメントの授業や、児童生徒や保護者に対するカウンセリングの実施により、学園全体の園児、児童、生徒や保護者の様子を把握して頂いている。そのうえで、教育相談部会へ出席していただき、専門的な助言や見立てによって、子どもや保護者への対応や不登校の未然防止につなげた。 ○引継ぎシート等をもとに小中の連携や交流を密にして、配慮を要する生徒への丁寧な対応をすることができた。 ○情報モラル学習会では、発達の段階に応じた講演をいただき、児童生徒のみならず教師も、情報モラルに関する多くの学びを得ることができた。中学生の中には、講演のメモを家に持ち帰り、保護者に対してスマホの設定について注意喚起するなど、効果は絶大なものであった。 ●コロナ禍で保幼小中の交流行事の多くを変更や中止せざるを得なかった。交流行事は小学校入学や中学校入学に対する子どもたちの不安を軽減することに大きな役割を果たしていただけに、入学後の子どもたちの様子をこれまで以上に丁寧な対応が必要である。

家庭、地域との連携、情報発信	①家庭、地域との連携・情報発信 ・弥栄学園運営協議会との地域連携・教育環境づくりを進める。 ・弥栄学園便り等による広報活動を積極的に行う。 ・学校行事等において学校支援ボランティアを積極的に活用することを通して交流を深める。	○弥栄学園運営協議会の活動が2年目となった。コロナ禍で学園の取組みを参観していただく機会が限られていたが、熱心に参加していただき、地域の方として学校の外から見た弥栄学園について貴重な意見を頂くことができた。 ○地域のボランティアの方々に、こども園や各学校の教育活動や交流事業に快く多くの支援を頂くことができた。子どもたちと地域の方々との交流や学園に対する理解が深まり、学園・家庭・地域が連携した「横の連携」を深めることができた。 ○こども園、各学校が、たよりやホームページで取組みを発信するとともに、保幼小中一貫コーディネーターが学園だよりの発信や弥栄学園運営協議会の取組みをコーディネートして、広く学園の活動について啓発を行った。 ●学園の活動や教育目標に対してさらなる理解や協力を得るために、啓発活動と同時に運営協議会と学園PTAと連携した活動にも取り組んでいきたい。
----------------	---	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
1 弥栄学園経営及び進行管理 ○数部門を統合して本学園の規模に応じた組織改編を行った。その結果、ライン組織が明確になって各会議が組織的に機能し、経営会議のスムーズな進行管理につながった。 ●年3回の全体研修会は、教職員の共通理解と相互信頼をもたらし、協働体制を固める原動力になるものである。これを最大限に重視して学園経営に反映させたかったが、今年度も感染症対策等のため開催直前で変更し、集合型の研修会は1回のみとなった。 2 授業づくりの取組み ○計画通り年2回の授業研究会を実施することができた。学園の研究を整理し、授業実践につなげる大切な取組みとなった。今年度は教育課程会議がリーダーシップを発揮し、事前研において園小中教員が指導案作成に携わることができた。 ●教育課程会議が中心となり、研究授業に至るまでの日程や研究の方向付け、実践と検証、まとめと今後の課題など、研究を推進するための具体的な計画を綿密に立てる必要がある。 3 交流連携の取組み ○交流・連携しやすい校園数等をいかし、今年度も園児・児童・生徒の交流活動を計画した。残念ながら感染症等の影響でいくつかの交流活動が中止等になったが、教育活動の連続性・協働性につながっているものと考えた。 ●例年通りの活動とならないように目的や交流活動の経緯等を担当者間で共通理解しなければならない。 4 いじめ・不登校に関する情報の共有化 ○経営会議をはじめ、各会議、各部会で子どもの状況（生徒指導の状況、不登校、家庭環境等）を交流することで、一人一人の不適応の要因になっている悩みや困難の解決、障害の克服に向けて組織的な援助・指導につなげている。 ●学校における教育相談の対象は、不適応や問題行動等のある子どもではなく、すべての子どもであることを念頭に、学習指導や生徒指導等に教育相談の機能を生かすように努めなければならない。 5 家庭、地域への啓発、情報発信 ○こども園、小学校、中学校がそれぞれに、たよりやホームページで各校園の取組みを発信するとともに、学園ニュース（教職員向け）、保幼小中一貫教育だよりの（保護者、地域向け）や学園ホームページでタイムリーに情報を発信し、学園の動きを広報した。また、学園のリーフレットを作成し、保護者や弥栄学園運営協議会、その他地域の方々に配布したり、弥栄学園運営協議会で学園の活動を紹介したりして、弥栄学園の活動についての啓発を行った。 ●行事の参観の中止や延期等により、子どもたちの様子が地域・保護者に伝わりにくくなっていることがアンケート結果から明確となった。	1 経営会議においては、学園の組織が効果的に機能するように連絡調整、伝達、諮問等を明確にした会議運営を行う。全体研修会の開催は、コロナ禍を想定してオンライン開催も計画しておく。 2 これまでの弥栄学園の授業改善や令和3年度の京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会で得られた成果の蓄積をいかして、引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりに弥栄学園全体で取り組む。 3 連携活動の取組みにあたっての目的を明確化するとともに関係者で共有し、学園全体での取組みとなるようにする。 4 いじめ、不登校等の解消に向けて学園の教育相談機能をさらに充実させる。（教育相談に対する教員一人一人の意識を高めるための研修会の企画等） 5 コロナ禍を想定してより積極的な公開や情報発信を工夫する。

令和 3 年度 久美浜学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【教育目標】 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」 【目指す子ども像】 (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども
--

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 中期的な展望(取組の見通し)

年度	教職員の意識	学力	ギャップ(不登校)
R3 (6 年次)	・新学習指導要領への対応 ・学力向上の方策を全職員で検討	学力向上試案の策定(教育課程会議)	接続期の校種間連携充実事例研の継続
R4 (7 年次)	学力向上の方策を全職員で検討・実践 新学習指導要領で求められている資質・能力の育成	学力向上方策の実践、改善(全学年)	学校に起因する不登校人数の減少事例研の継続
R5 (8 年次)	↓	↓	早期対応、情報共有の徹底(全職員の共有)
R6 (9 年次)	↓	府・全国学力テスト・調査全学年平均以上(学園)	↓
R7 (10 年次)	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ 次の 10 年を見通し新たな取組の構築	府・全国学力テスト・調査全学年平均以上(全学校)	早期対応、情報共有の徹底(全職員の共有)

(2) 重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

(3) 指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) ③家庭学習時間の確保

(4) 取組の柱

ア 10 年間(就学前から中学校卒業まで)の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上 (ア) 久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。(対話と理解) (イ) 目指す授業として、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの主体的に学ぶ力を伸ばすための教育活動を進める。 イ 各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校(園)づくり、授業づくり (ア) 生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。 (イ) 各学校の重点研究をもとに、各学年単位をベースに授業研究を進める。特に「主体的に学びに向かう力」を育成する授業づくりの取組を進める。 (ウ) 基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきるとともに、当たり前のことが当たり前にできる雰囲気づくりを進める。 ウ 子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化 (ア) 共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事・授業 (イ) 豊かな教科指導を目指す指導交流(保幼小連携、小小連携、小中連携) エ 保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。 (ア) P T A、学校運営協議会、地域学校協働本部事業との連携 (イ) 家庭学習時間の確保に向けた連携
--

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有	(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧な、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。 ア 年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による協議を通して、共有を進める。 イ 年 3 回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充	○久美浜学園 7 校園が 1 つの目標に向かう中で、本年度も教職員が交流する機会が少なかったが、ICT 活用や取組の工夫により、教職員及び児童生徒園児の交流を確実に実施し、「理解と対話」の継続を図ることができた。 ○10 月のみの授業公開・交流会となったが、保幼小中の教職員による貴重な対面での協議を行うことで、協働的な指導の充実に向けたよい機会となった。

	実を図る。 (2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、PDCAで改善を図りながら共通理解を深める。	○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、具体的な実践共有の場である連携部会の運営のあり方等を改善しつつ、引き続き目標やめあて、指導内容を振り返りながら進めていく。
就学前から中学校卒業までを一貫した指導、教育課程	(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成 ア 考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進 イ 郷土への愛着と誇りをもち、人とつながる力を育てる学習の推進 ウ 保幼小の接続を中心とした教育課程編成 (2) 重点指導 ア 学力向上 (ア) 授業規律の確立 (イ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり イ 不登校の解消 (ア) 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (イ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化 (ウ) 自尊感情の高揚 (エ) 保幼・小・中の連携強化 ウ 今日の課題(情報機器の安全な取り扱い) (ア) 「法やルールに関する教育」の推進 (イ) 人権教育の推進	○学園テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を各校で追求し、ICTを活用した授業づくりを進め、学園公開授業及び各小中学校で研究成果を共有することができた。 ○ICTを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか、各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にICTを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。 ○学園独自で作成したアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。 ○拡大教育課程会議の新設や「学力向上プログラム」の検討等、付けたい力の明確化・具体化を検討することができた。次年度は、その検証と実践を進めていく。 ○久美浜学園「身に付けたい言語能力表」や小中共同指導事項を確認・検討して取り組んだ。 ○PTA・保護者を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。 ○教育課程会議では家庭学習時間の確保、養護部会ではメディアに係る保健指導系統表の作成、生徒指導部では情報機器に関するアンケートを行い、メディア・コントロールを学園全体で進めた。 ○教育相談部会では、学園全体概要をまとめ、学園全体で共有できた。また、その傾向から今後の取組を考えるよい機会となった。 ○学校生活の充実感を味わわせることや基本的生活習慣の確立を各校で図ること、教育相談部における事例研を通して、不登校の未然防止、解消に取り組んだ。 ○情報機器の望ましい活用(情報モラル)のための特別講演会を小3・4年生、中学1・2年生対象に実施した。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働 ア 中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議 イ 児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組の推進 ウ 「主体的に学ぶ力の伸長」の系統性を意識した指導を目指す授業研究 (2) 学校、校種間をまたがった指導の推進 ア 小小連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働 イ 振り返りスタディ等指導面での協働 (3) 幼児児童生徒の行動連携 ア 保幼の連携 イ 保幼小の連携 ウ 小小連携 エ 小中連携	○全体会・公開授業・交流会等の教職員の行動連携の取組は限られたが、少人数で集まる部会を中心に実施した。夏季全体研修会では、「開かれた教育課程」に向けて、教職員の地域への具体的な理解を図ることができた。保幼小中の指導の連続性をより確かにするために、実際に子どもの姿を見ることがや教職員の交流を次年度以降も継続的に計画していく。 ○回数は限られたが、各校の授業研究会の案内を发出し、相互参観ができた。また、ICTの活用について、教育課程会議で各校の取組を集約し、学園だより等によって情報発信することで、各校の実践を広めることができた。 ○保幼小連携では、幼児児童との交流ができず、体験入学も短時間での実施となった。保幼小の連携の重要性を鑑み、連携のあり方を検討していく必要がある。 ○小小連携事業では、同学年によるオンラインを活用した交流も実施し、コロナ禍の中での3小学校による連携のあり方を模索することができた。 ○小中連携では、部活動及び授業体験のみの実施となったが、児童アンケートから「不安の解消」につながる回答が多かった。 ○児童会・生徒会の合同会議は、オンラインと対面による会議で計2回実施できた。また、合同挨拶運動でも、「おはよう消毒」等、工夫のある取組を行った。

家庭、地域との連携、情報発信	(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発アタタの発行(学期1～2回程度)、有線放送による取組紹介リーフレットの作成(2月保護者参観等で配布、説明) ウ ホームページによる広報活動(久美浜学園のページ作成) (2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進 (3) 学校運営協議会の取組を通した「久美浜を支える人」の協議 (4) 地域学校協働本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援 (5) 久美浜学園PTA・保護者会との連携による家庭教育支援	○コーディネーターの活動により、様々な取組を様々な機会を通じて広報できた。保護者アンケートでは、学園取組に対する肯定的な意見が増えている。しかし、今年度は事業の中止等があり、分からないという意見もあった。 ○コロナ禍により、ボランティアの皆さんの活動や6つの地区区長会等への発信等が実施できなかったが、次年度も、学園活動への協力や周知を引き続き行っていく。 ○学校運営協議会は3回実施し、学園基本方針を説明した。3つの部会で「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議し、学校から児童生徒の課題について提起した。また、夏季全体研修会では、協議会会長の講話等により、教職員の地域への具体的な理解を進めることができた。 ○久美浜学園独自のPTA・保護者会が一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」等10年間を見通した取組に一步步つながってきている。
----------------	--	---

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○これまでの5年間の活動や実践を整理し、本年度(6年次)からは新たな中期展望を設定し取組を進めることができた。年度ごとに丁寧に評価しながら、実践と検証を続けていく。 ○コロナ禍の中で、ICT活用や取組の工夫により、教職員及び児童生徒園児の交流を実施し、理解と対話の継続を図ることができた。 ○学力向上に係って、教育課程拡大会議を開催し、中学校における現状や課題から、付けたい力について協議することができた。 ○テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を目指し、授業公開・交流会を実施し、ICTを活用した授業研究を深めることができた。また、各校研究の共通視点でもあり、教職員の意識も向上できた。 ○経営会議の方針のもと、企画運営会議が事業を運営し、教育課程会議が学習指導等に関する内容の具現化を図り、相互に共有して進める運営の機能化を図ることができた。 ○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・事業後の児童生徒・保護者アンケート等、幼小中のつなぎや周知が更に進んだ。 ○4PTAと3保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園PTA・保護者会の基盤がより確かなものになった。 ○学校運営協議会で「久美浜を支える人」について、3つの部会で学校からの課題を提起して話し合った。また、夏季全体研修会では、教職員の地域への具体的な理解が進んだ。 ○共同事務室の取組として、小学校入学用品や返金規定、備品等の共通化・共用化、各種業務の見直し等を進めることができた。 △「主体性」「ICT活用」等を視点とした授業改善について、各校の研究成果や学園授業研究成果をまとめ、分析、検証を行う。 △幼児教育・保育における取組について学び、幼児から小学校への接続やその意義についての研修機会を確保する必要がある。 △久美浜学園の児童生徒の課題として、不登校の増加がある。学園全体の概要や傾向は共有することはできたが、具体的な成果につなげることができなかった。 △連携部会の取組は回数が限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることは難しかった。	・これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、保幼小中一貫教育推進計画の共通理解を図る。また、学校園所公開や交流会を引き続き進める中で、保幼小中に係る共通視点を明確にした指導方法等の継続性について、研修及び協議を行っていく。 ・学力向上について、拡大教育課程会議において、生徒実態や課題を共有するとともに、解消のための具体的な方策を検討する。また、「学力向上プログラム」へ落とし込み、検証と実践を積み重ねていく。 ・研究テーマや学力向上、系統的な指導等の具現化を目指し、部会内容や体制の工夫、ミッションの具体化・焦点化、実践の検証の見える化等、連携部会の運営を工夫する。 ・「主体性」「ICT活用」等を視点とした授業改善について、各校の研究成果や学園授業研究成果をまとめ、分析、検証を行う。 ・授業研究に踏み込むため、各校重点研究における研究授業に参加しやすくするために、教育課程会議が主となって日程調整を行う。 ・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の状況から、学園全体での醸成すべき視点(非認知的能力等)を見出す必要がある。また、肯定的評価を基盤として、学園の教職員の指導観をすり合わせ共通化していく。 ・教育相談部では、傾向把握や未然防止、初期対応について、スクールカウンセラー等の講師を招聘する等、より実践的な研修を行い、各校内へも広めていく。 ・校種間での情報連携や家庭支援連携を進め、不登校の未然防止や早期対応に努める。 ・園所の「目指す10の姿及びそれに向けた取組や保育」を理解するとともに、保幼小の連携の深化を進める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組むため授業スタイルの確立も進める。 ・行動連携事業は、オンラインを活用した実施方法を引き続き検討する。 ・運営面では、これまで進めてきた部会・会議や事業が制限される状況で、改めて事業等の意義について再確認でき、改善・精選を行っていく。

令和3年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立峰山こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	本年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔でつながろう。心とこころ!!” ～はなそう・つたえよう・みんなのおもい～ (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。	○保護者と連携を持ちながら、園児自らが感染症予防に進んで取り組んでいけるように安心・安全な生活や活動をすることができた。 ○様々な実体験や感動体験を通して、学びに向かう姿勢や豊かな言葉力に繋げることができた。 ○園児の主体的な活動を認め、言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進めたことで、達成感や満足感を味わい自己肯定感に繋がっていくことができた。 △開かれた園として地域への情報発信が、ホームページのみで十分とは言えなかった。 △職員全員での研修時間の確保が難しく、資質向上に努めることができなかった。	・園児自らが健康や生活の仕方に関心を持ち、リズムある生活が習慣になるようにする。 ・様々な体験を通して、豊かな感性や言葉の力を養う。 ・園児の主体的に取り組む姿を認めながら、他者と関わる力を育てる。 ・保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 ・地域社会に開かれた園として、情報発信に努める。 ・滑らかな接続ができるように、峰山学園(保幼小中一貫教育)の連携を深める。
評価項目	重点目標	成果と課題(自己評価)
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子どもの育成 ・意欲を持って学ぼうとする力の育成 ・コミュニケーション能力の育成と適切な人間関係の育成 ・園小の円滑な育成	○経営会議の中で各学校や他園の状況を聞くことで、自園で進めている教育・保育の成果や課題を明確にすることができた。言葉の力の大切さ、やり遂げる満足感、自己肯定感を持てる活動など、職員間で話し合いを深め、実践へとつなげることができた。 ○参観や担任会など、限られた時間ではあったが、園児や児童、生徒の状況を知り、縦の繋がりとして学ぶことができた。教育フォーラムでは公開保育を行い、自園においての教育・保育を改めて振り返る良い機会となり、学びと実践につなげることができた。 ○私立園とは学園や市の担任会を通して、互いの情報交流や保育内容を学ぶことができた。実践に活かすことができた。 △感染症拡大防止により様々な研修や交流が中止となり、Zoomや書類のみの報告となった。他校の活動や取り組みなど、直接、意見を聞くことができず、学びを深める所まで行かなかった。

教育課程	・感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ・基本的な生活習慣や態度を育てる。 ・自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。 ・日常的に園内外での安心・安全に過ごそうとする姿勢・態度を養う。	・園内外の自然の中で発見や感動体験を増やし、考えながら遊ぶ機会を持つ。 ・あいさつデューを設定し、挨拶をすることの大切さを知らせる。 ・登園時間や園児の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 ・生活点検表などを活用し、生活習慣を整える。 ・活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをもとに考えたり知らせたりする。また、様々な場面で交通安全や危機管理について学び合う。	○様々な体験が学びに繋がりがり、感動体験を通して、学びに向かう力や豊かな言葉の力に繋げることができた。 ○感染拡大防止による生活様式に子ども達も順応しながら進んで感染防止に努め、安全で安心した生活を送ることができた。 ○子ども達の主体的な活動を大切にし、思いや考えを言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進めることで達成感や満足感を味わい、自己肯定感につながっている。 △毎月1日はあいさつデューとしたことで、人との関わりや言葉の大切さを意識する機会にはなったようだが、実際に進んで挨拶をする姿にはつながらなかった。 △交通ルールモデル園となることで、5歳児を中心に合図の理解はできるようになったが、散歩に行く機会があまりもてず、体験を通しての安全指導が不十分であった。
子育て支援	・子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。	・保護者の思いに寄り添いながら丁寧に対応をする。 ・園児の実態を把握し、保護者との連携を丁寧に行い、個々に合った支援や対応をする。	○担任からの状況報告や連絡・相談を園全体で連携し、適切に対応することができた。 △コロナ感染予防での緊急事態宣言やまん延防止対策のため、園を開放する場を制限したり保護者同士が交流したりする機会があまりもてなかった。
研修 (教員の資 質向上・人 権教育)	・園内研修の充実を図り、保育教諭の資質向上(人権を含む)に努める。	・年間研修計画により保育教諭の資質能力の向上を目指した研修に取り組む。 (公開保育・担任会・事例研修) ・園内研修の内容を工夫し、研修の充実を図る。 (職員会議を利用する等、時間の確保に努める。)	○感染拡大防止の観点から研修等の中止やWeb研修となることが多かったが、正職員・会計年度職員の積極的な参加ができた。園内でDVD視聴や紙面での意見交流、教育フォーラムでの公開保育や担任会での研修を活かし、園での教育・保育の振り返りや学びにつなげることができた。 △日々の教育・保育活動の中で、全職員で園内研修などをする時間や場を作りことが難しいため、内容や状況に合わせてグループ会議を進めてきたが、そのための会議時間の組み方や意見をまとめていくのに時間がかかった。
次年度に向けた改善の 方向性	・峰山学園の一員として子ども達の園の情報を経営会議の中で積極的に伝え、一貫教育での縦の繋がりを大切にしながら連携を深めていく。 ・PDCAサイクルに基づいた質の高い教育・保育の実践に努めていく。 ・思いや考えを出し合いながら、身近な人と関わり、実体験や感動体験を大切にし、生活や活動を進めていく。 ・開かれたことも園として、日々の活動や行事の実施の仕方など工夫し、保護者や地域の方と共に教育・保育や活動を進めていく。 ・安全教育や危機管理について、園児と共に学びながら、安心安全な園づくりに努めていく。		

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立大宮こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成 ・健康で安全に活動する子ども ・身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども ・人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども ・素直で思いやりがあり積極的に関わり合う子ども		○大宮学園の教育の推進により、保育所・こども園・小中連携活動の充実を図ることができた。 ○主体的な活動や体験活動の充実、心の教育の充実により、生きる力の基盤となる力の育成を図ることができた。 ○大宮こども園の教育活動を丁寧にホームページやたより等で発信し、教育活動への理解を広げることができた。 △園外・地域活動・保護者との活動・子育て支援活動等が、コロナ対応により縮小となった。		・アプローチプログラム改善、園小連携活動、共同研修を進め、園小の効果的接続を充実させる。 ・日常教育・保育、異年齢交流、体験活動の充実をさせ、生き生きと遊ぶ力、言葉で伝え合う力、互いに思いやり協同する力を育成する。 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に係る理論及び実践についての研修を充実させ、指導力向上を図る。 ・家庭・地域との連携を密にし、教育・保育活動や子育て支援の充実を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・「ことばの力」「思いやり」「つながる力」を高め、生きる力を育成する。 ・幼児教育から小学校教育への円滑な接続のために、園小による教育活動や研修を充実させる。 ・大宮学園「家庭の心得」の理解を得て、各家庭での取組を進める。	・言葉を介し、人の心を豊かに感じる場を大切にす る挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流に 取り組む。 ・年間を通して、小1プロブレム解消に向けた園小連 携活動、園小の円滑な接続を図るためのアプローチ プログラムに取り組む。 ・具体的な課題を共有するために、保護者会と連携、 園だより、懇談会、子育て支援等に取り組む。	○挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流で、言葉を介して互いに関わり合う場を充実させることにより、互いの思いやりの会話が生まれ、友達を大切に关わる姿に広がりが見られるようになった。 ○コロナ感染防止を図りながら小1プロブレム解消のための園小連携活動、大宮学園のアプローチプログラムに基づいた教育活動を進め、小学校入学に向けての心構えを育てることができた。 ○年間を通して、保護者会連携、園だより、懇談会、子育て相談、連絡ノート等を活用し、園生活の様子や子育て状況を共有することにより、各家庭への子育て支援を進めるとともに、共通課題である生活リズムに対する意識を高めることができた。	
教育課程	・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 ・身近な環境や自然に自ら関わり、事象に関心をもち、発見や考えたことを生活に取り入れようとする力を育成する。	・体を大切にすることに心をもち、方法を身に付け るための健康・安全教育、食育に取り組む。 ・発見や感動を体験させるため、園内外の自然や自然 物との関わる活動に取り組む。 ・室内外の遊具や用具を使い、友達と関わったり体を 動かしたりすることを楽しめるようにする。	○生活習慣や規律の習得では、日々の健康チェックにより自 己の体調を知ったり、食育活動では、栄養士から体の働き・ 栄養などを学んだり、栽培活動を通して主体的な行動が見 られるなど、健康な体について意識するようになってきた。 ○同年齢・異年齢で泥んこ遊び、自然物制作、色水遊び、サ ーキット、築山すべり等に取り組み、体を動かすことを楽 しみ、発見や感動を豊かに言葉や体で表現し、友達と関わ りながら夢中になって活動を進めていく子どもの姿が見ら れるようになった。	

教育課程	・コミュニケーション能力、思いやる心、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。	・コミュニケーション能力を高めていくために、表現を楽しむ活動、思を伝え合う活動、話し合い活動に取り組む。 ・楽しさや嬉しさ、葛藤・折り合うことを経験するための、集団遊びや異年齢交流に取り組む。	○発表会での創作劇やお話づくりなどで表現活動を楽しみ、保育者・友達と思いを伝え話し合う中で、言葉を紹介して意思の疎通を図ることができた。 子ども達も、日を追うごとに自分らしい言葉で思いを伝え、訴え合い遊びの輪が広がってきている。 ○感情的に行き違いや欲求の対立に丁寧に関わり、振り返りや話し合いを充実させることにより、互いに思いを受け止めたり折り合いを付けたりしながら解決策を見つけていくようにした。 △コロナ感染防止のため、活動や行事を中止・延期・縮小せざるを得ず、全園児で行う予定であった運動会・発表会など学年別で行うなど、異年齢交流の場が少なかった。
子育て支援	・保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように家庭教育支援や子育て支援を充実する。 ・社会環境や家庭環境の変化を理解し、対応しながら保育を充実する。	・家庭教育への支援を充実させるため、懇談会・たよりや子育て相談・ドキュメンテーション等に取り組む。 ・発達特性や成長に応じた、保護者に寄り添った子育て支援に取り組む。 ・子育て支援センターや一時預かり保育・預かり保育を周知する。	○懇談会・たより・ドキュメンテーション等、園から丁寧な発信を行うことで、「大宮こども園」の教育・保育への理解が広がり、家庭・地域との連携を充実させることができた。 ○子育て相談を丁寧に進めることにより、個に応じた子育て支援を進めることができた。 ○社会・家庭環境の変化への対応を図るための情報発信に努め、子育て支援施策への理解を広げることができた。 △保護者との直接会話の機会の減少により、日々のタイムリーな子育て支援が十分には実施できなかった。
家庭・地域との連携	・園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実する。 ・地域の環境や人材を活用し、体験活動を充実する。	・園からの丁寧な発信や連携の工夫を行う。 (園だより・クラスだより・ホームページ・懇談会・参観・電話連絡等) ・保護者会・活動支援ボランティアの協力を得て、園周辺自然環境・施設を活用した園外教育活動に取り組む。	○コロナ対応を図りながら、園と家庭、保護者同士の連携の方法を工夫し、保護者会の運営や活動を充実させるための支援を行い、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくことができた。 △コロナ対応により、地域連携では、田んぼでの泥の感触遊び、地域の施設では、老人とのふれあい交流などを実施することができなかつた。また、園外活動や地域ボランティアの活用による絵本の読み聞かせなどを縮小せざるを得なかった。
次年度に向けた改善の方向性		○言葉を介した関わり合う教育活動を充実させ、大宮学園で進める基盤となる、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○園小の円滑な接続の実効性を高めるため、アプローチャプログラム改善、園小連携活動・指導方法に係る共同研修の充実を図る。 ○心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもを育成するための日常の教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○コロナ対応により縮小した園外教育活動、小中一貫教育活動、保護者連携活動、子育て支援等、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力の向上、教育活動の充実を図る。	

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立網野こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』 ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもたちの育成 <テーマ> 『どきどき わくわく きらっ! ひとりひとりがかがやいて』	・経営会議で学園としての方向性や課題等、共通理解したことを職員に報告したり、園で話し合ったりすることはできたが、全職員で「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を検証するまでには至らなかった。 ・コロナ対策を行ないながら、同学年、異年齢での関わりやつながりがもてる活動を進めてきたことで、園児の中には、主体的に生活や活動を進めようとする姿が見られた。 ・全クラスの懇談会や個人面談等、日と時間を考慮して開催したところ、多くの参加があった。園や家庭での様子を伝え合ったり、保護者の悩みを共有し話し合えたりした。 ・家庭との連携を密にしながらか生活習慣の大切さを伝えてはきたものの、登園が遅くなるまた、朝食を摂らない等の現状があり、引き続きの啓発が必要である。 ・園内研修の機会が少なかつたが、OJTを大切にすると話合ひ、資質向上に努めた。	・網野学園の課題や取り組み等を園内で共通理解するとともに、学園独自のアプローチプログラムの検証と今年度作成予定の長期モデルプランの検討をする。 ・コロナ対策を講じながら、活動や行事の在り方を全職員で検討するとともに、園児の主体性を重視した教育保育を進める。 ・園児の成長を願い、保護者の思いや悩みを共有しながら子育て支援を行う。 ・健康的な生活習慣の自立と園内外での安全指導や安全対策に万全を尽くす。 ・園児理解を基盤とした教育・保育を目指す上で、職員同志の同僚性やOJTの充実を図る。
評価項目	重点目標	成果と課題(自己評価)
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・「網野学園」の教育目標をもとに、基本方針や取組内容を理解しながら教育・保育を進める。(確かな学力の育成・規範意識の醸成・豊かな人間性等) ・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を強化する。	○研究主題やその捉え方、仮説等に基づいて実践したり、教育・保育計画を手に取りながら、取組内容の共通理解をしたりする等、基本方針をベースに教育・保育を進めることができた。 △出前講座や教育フォーラムの資料をもとに園内研修をしたが、3つの資質能力を取り立てて実践につなげることはできなかった。 ○長期モデルプランを作成するにあたり、園と小学校との教育の具体的な内容を改めて確認する中で、共通理解をすることができた。 ○コロナ禍であったが、学習発表会のリハーサル見学は、5歳児にとって自園の発表会に対する刺激となった。

教育課程	・楽しい園生活を過ごせるようにする。 ・主体的な活動、対話的な活動をくり広げられるような環境づくりをする。 ・人となりが合うことの喜びを味わえるようにする。	・遊びの中の学びを見据えながら、集団の中で一人一人が生き生きと園生活を過ごすことができるような環境を整え、実践する。(園生活の充実) ・生活習慣の確立を基盤に、安心安定した園生活になるよう園児と保育教諭等の信頼関係を図る。(心の居場所づくり) ・園児が主体的に協同的な遊びを展開したり、知的好奇心を揺り動かしたりしながら遊ぶことができるような環境の工夫や援助をする。(遊びの充実) ・友達のよさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じられるような取り組みをする。(同年齢・異年齢児との関わり、言葉でのやりとり等)	○園児の姿をベースに、遊びや環境構成の在り方の重要性を職員全体で確認し、学びを実践につなげることができた。 ○網野学園の『家庭学習頑張り週間』を機に、生活習慣づくりと読み聞かせの大切さが保護者意識につながり、効果的であった。 ○運動会や発表会に向かって取り組むプロセスの中で、日々の遊びを生かすことができた。常に遊びの重要性を感じ、つなげていった成果である。 △感染対策を講じながら、できる限り異年齢の関わりを意識して来たが、3学期後半はコロナ感染を避けるため、年齢ごとの生活を余儀なくされた。
子育て支援	・家庭と連携し、「共育で」を目指す。 ・未就園の親子の保育体験を行い、子育ての安心安定を図る。	・保護者に園児の様子を知らせ、成長や課題を共有し、子育てに関することを共に考える場をつくる。(園だより、クラスだより、懇談会等) ・日頃から保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決に向けて進めていく。 ・「園開放日」や子育て支援センターでの親子の情報を基に、保護者同士が交流できる場を設定し、お互いが楽しんだり悩みを交流したりできるような雰囲気をつくる。	○クラス懇談会や参観日、運動会や発表会等、感染対策を講じながら実施することができた。園児の様子を実際に参観すること、保護者は園生活に対する安心感をもち、園児の確かな成長を感じていたようである。 △来園者を温かく迎えることで、職員との話のしやすさを感じられたようだったが、コロナ禍で、園開放の参加は少なく、保護者同士の交流はできなかつた。
(A)研修 (教員の資 質向上・人 権教育)	・園内研修やチーム研修等を通して、全職員の資質向上を目指す。	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、京丹後市の指導の重点、網野こども園教育・保育計画等を読み解き、教育保育の重要事項を共通理解する。 ・網野こども園の教育・保育について全職員を対象に園内研修を実施し、教育や保育の在り方について発信する。 ・園全体の教育・保育の質が向上するように、同僚性、OJT、ToDoリストを最大限に活用する。	○指導計画の検討や反省、毎日の朝礼時等に、園での喫緊的課題や今後の対策等を管理職の立場から職員に伝えてきた。園内研修をする機会は少なかったが、それに準ずる成果はあったと感じる。 △要支援児への支援策や遊びの捉え方、環境構成等、様々なことについて日々職員間でやり取りしやすい雰囲気をつくってきた。しかし、保育教諭によって感覚や意識の差があり、OJTの成果が積み上がりにくかった。
次年度に向けた改善の方向性		・今年度作成した網野学園長期モデルプログラムをもとに、再度、既存のアプローチプログラムの質の向上を図る。 ・今年度のコロナ感染拡大から見出した取組みを来年度の年間行事計画等に反映させ、見直しをもった教育保育活動につなげる。 ・子育て支援の充実を図るため、要支援児の主訴を踏まえた適切な個別支援をしたり、心から保護者に寄り添ったりして園児や保護者のウェルビーイングにつなげるよう努める。	○指導計画の見直し、3つの資質能力を視点とした実践研究をする。

令和3年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名〔 京丹後市立丹後こども園 〕

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
評価項目 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	重点目標	・丹後学園の教育目標を踏まえ、学園の経営方針に基づき研究や取組を進める。 ・保幼小接続部会を通して、小学校との連携を密にスムーズな接続を図る。	・保育教諭との信頼関係を基に、園児が主体的に人、もの、自然に関わり、伸び伸びと園生活を送れるような環境づくりに努める。 ・様々な活動や体験を通して、体を動かす楽しさを味わい、主体的に取り組もうとする意欲を育む。また、その中で自分も友達も大切にすること教育・保育を実践する。 ・丹後学園内で校種間連携を深め、継続した園児の発達や学びとなるようにする。 ・地域の自然に接したり、また、人との交流を通して豊かな心を育む。 ・幼児期に育みたい資質・能力を踏まえ、園児一人一人の成長を見据えた教育・保育を進める。
	具体的方策	・丹後学園保幼小中一貫教育に関する会議や公開保育等に積極的に参加し、学園の教育目標や各校の取組について理解を深める。 ・保幼小連絡会の中で園児の情報を伝え、小学校教育につなげるための連絡シートをよりよいものにするため、見直しや改善を行う。 ・アプローチプログラムやスタートカリキュラム等を活用して、教育・保育内容を検証しながら取組を進める。	△新型コロナウイルスの影響で、各校園所の行事等の取組の制限から参観する機会が少なく、系統的な指導を見ることができなかつた。 ○丹後学園内で発行された学園ニュースを職員が読むことで各校の様子や授業の取組内容など、重要なポイントを知ることができよかつた。 △新型コロナウイルス感染症予防の為、保幼小接続部会を開くことができず、連絡シートの改善には至らなかつた。 ○入学して間もない1年生の授業参観を通して、1年生の様子を共有できてよかつた。また、丹後学園で検討してきたスタートカリキュラムを活用し、こども園で育んできた学びが小学校に繋がっていることが良く分かつた。

教育課程	・安心・安定の中で、園生活が送れるように関わる。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえる環境づくりをする。 ・異年齢活動を通して、いたわりの気持ちや憧れの気持ちを育む。 ・自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉で表現する力を養う。	・園児や保護者に丁寧な挨拶や対応を行い、居心地のよい環境づくりや関わりを進めていく。 ・体操、マラソン、サーキット遊び等友達と一緒に体をを使った遊びを積極的に取り入れ、健康な体づくりをする。 ・栽培活動、チーム活動、クッキング、散歩等で異年齢交流を行い、憧れやいたわりの気持ち、心の葛藤を経験させる。 ・園内外の自然体験を通して、感じたことや考えたことを言葉で表現することを楽しくめるようにする。	○朝、職員が玄関で登園してきた園児とその保護者を明るく迎えるようにしてきたことで、登園時の姿から体調や心情を知ることができ、より丁寧に接することが園児の安心安定した生活につながった。 ○健康な体づくりを行うため、気候や発達に合わせた活動を行うことができた。異年齢児での活動はコロナ感染対策を考えると出来ないことが多かったが、『見て・真似て・やってみよう』とする憧れの気持ちをもち、自分の気持ちや考えを伝えられる経験や自分の気持ちに折り合いをつける経験を積み重ねてきたことで、思いやりの気持ちを育むことができた。
子育て支援	・園児や家庭にとって効果的な支援を行う。 ・未就園児の子育ての安定を図り、不安を解消する。	・保護者が、園児の成長に気付き、子育ての喜びを感じられるように園だよりやクラスだよりの発行と日々の連絡や相談を丁寧に行う。 ・子育てに悩みや不安の相談、疲れを抱えている保護者へのリフレッシュ支援を行う。(預かり保育、一時預かり保育制度の活用) ・子育ての楽しさや難しさ等が相談できるように、未就園児の親子が交流できる時間や場を設定する。(地域子育て支援センター・子ども園開放等)	○クラスだよりは園児の様子を写真で載せ、カラー印刷で発行した。カラー刷りは子どもたちの様子や表情がよくわかり保護者に好評だった。 ○一時預かり保育や預かり保育利用が多く、子育て負担の軽減につながることができた。 ○子育て支援センターの利用者が多く、未就園児の親子の憩いの場(心地よい場)を提供することができた。 △コロナ禍のため、園児と保護者・未就園児の交流をもつことができなかった。
家庭・地域との連携	・健康な体に必要な生活習慣や態度を身に付けるため、家庭と連携をする。 ・地域のよさを活かした教育保育活動を推進する。	・一人一人の園児の生活環境を把握し、家庭や学校等と連携を図りながら、個々に応じた指導を行う。 ・園児が健康で安全な生活が送れるように家庭に協力を求め進める。(健康チェック、生活点検、感染症予防対策等) ・丹後地域のいろいろな場所に出掛け、自然に触れながら地域の人の話を聞き、行事の伝承や活動に興味や関心をもちさせる。	○保護者の協力で年間を通して健康チェック(体温測定)を行うことができた。日々の体調の変化にも気付くことができ、様々な感染症の流行も防ぐことができた。 ○幼児は生活点検表を付けることで、生活習慣を身に付けているための意識づけを行うことができた。また、園児の生活状況をj知ることjで個別に助言や指導をすることができた。 ○散歩や遠足で、地域の様子や神社の伝説を聞いたり、御参りの仕方などを教わったりして地域のことを知るきっかけになった。 △コロナ禍での緊急事態宣言やまん延防止のため、いろいろな人と交流する活動ができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に遊ぶ園児を育成する。 ・いろいろな人やものに関わる中でコミュニケーション能力の育成を図る。 ・様々な地域の特色を教育・保育活動に活かし、豊かな心と健康な体を育む。		

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立弥栄こども園〕

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
「みんなだいすき つながるえがお」 ～やってみよう！もっとやりたい！ 夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。		○行事や遊びを見直すことで、子ども達が遊びを考え、主体的に活動する姿が見られるようになった。 ○子どもたちの日々の活動や遊びの様子を、クラス懇談会、毎月のクラス便り、行事の掲示等で知らせることができた。 △小学校との連携では、それぞれのカリキュラムを通してお互いが学びあえる研修まで進めることができなかった。 △園生活や遊びが十分に楽しめるように9時までの登園を伝えているが、家庭の生活リズムの捉えの違いから登園が遅く、遊びに入れない子どももいた。		・基本的な生活習慣を身につけ、見通しをもって生活を送ることができるように関わる。 ・園児自らが周囲の環境に関わり、活動を展開する充実感を味わいながら発達に必要な経験を積み重ねるための環境構成や援助を行う。 ・いろいろな人との関係を築くために、あいさつや言葉の大切さについて理解させる。 ・園の情報を積極的に発信し、家庭・学校及び関係機関、地域との連携を行い、充実した教育保育を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	『弥栄学園』の連携 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの児童生徒の育成 ○自分からやってみようという意欲をもって取り組む子ども(知) ○思いやりのある子ども(徳) ○進んで体を鍛える子ども(体)	・学園経営会議に出席し、園児・児童・生徒の実態を把握し、共通の課題について取り組み、また個に応じた支援を行う。 ・小学校、中学校と連携し、系統的な指導を行うために、園児・児童・生徒間の交流や教職員の合同研修会等を行う。 ・小学校への滑らかな接続ができるようにアプローチプログラムの検証を行い、共有し合える場を設ける。	○学園経営会議や電話などで、言葉(話し方・伝え方)や不登校について、情報のやり取りを行い、個に合った支援を進めていくことができた。 ○合同研修(授業研究会)に参加し、共に授業の進め方について系統的な視点をもちて教育・保育を進められるような話し合いを持つことができた。 △一年生との遊びの交流はできたが、コロナ感染予防(緊急事態宣言・まん延防止等)のため予定していた教職員への公開保育や生活科の授業体験ができなかった。 ○保幼小合同会議でアプローチプログラムの検証を行うことで、こども園の教育・保育を知ってもらえたことができた。	
教育課程	○基本的な生活習慣を身につけ、見通しをもって行動する園児を育てる。	・園児一人一人の生活実態や発達に応じて、必要な生活や活動の習慣を身に付けるための環境構成や支援方法を考え、実践を進める。	○活動やコロナ感染予防のため、生活点検表を毎日付け、提出すること、園児自身が健康であることの確認ができたこと、その行動を保育者に認めてもらったりすること、生活習慣が身に付き、自信となっている園児が増えてきた。	

教育課程	○園児自らが主体的に生活や遊びができるようにする。 ○他の園児と関わる機会を大切に、人と関わる楽しさを体験させる。 ○安心安定した中で、感性や表現力を豊かにする。	・園内外の自然の中で、五感が感じられるような経験ができる機会をもち、感動を言葉や行動にできるようにする。 ・園児の行動やつぶやきに耳を傾け、友達との遊びにつながるように職員間での情報交換や環境づくりを行う。 ・感じたことや考えたことを伝えることができるように、絵本や物語等の読み聞かせから、表現の仕方等を知らせる。	○保育教諭が園児の発想を丁寧に受け止め、共に遊び、面白さを伝えながら、遊びを工夫していくことで、園児はイメージを膨らませ、遊びを発展させ楽しむことができるようになってきた。 ○園児の現状に合わせ、一つ一つの行事を全職員で見直し確認していくことで、園児・職員の動きに変化が見られ、自然と異年齢児と関わる姿が見られ、目的を持って遊ぶようになってきた。 △日々の活動の振り返りでは、捉え方の不十分さから園児の遊びが広がらないこともあった。 △情緒の安定を図るため、絵本や物語等の読み聞かせや個々への関わりを持ってきてきたが落ち着いて聞けない園児もいる。	○保育教諭が園児の発想を丁寧に受け止め、共に遊び、面白さを伝えながら、遊びを工夫していくことで、園児はイメージを膨らませ、遊びを発展させ楽しむことができるようになってきた。 ○園児の現状に合わせ、一つ一つの行事を全職員で見直し確認していくことで、園児・職員の動きに変化が見られ、自然と異年齢児と関わる姿が見られ、目的を持って遊ぶようになってきた。 △日々の活動の振り返りでは、捉え方の不十分さから園児の遊びが広がらないこともあった。 △情緒の安定を図るため、絵本や物語等の読み聞かせや個々への関わりを持ってきてきたが落ち着いて聞けない園児もいる。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるように支援する。	・子育てを楽しむことができるように、保護者の話に耳を傾け、成長と共に喜び合えるような場や時間を設ける。（登降園時、懇談会、園開放等） ・親子の会話や触れ合いの時間をもてるように、絵本の貸し出しを行う。 ・未就園児の保護者が、育児を楽しんで行えるよう相談に乗ったり、遊んだりできるよう地域子育て支援センターや園を開放する。	・子育てを楽しむことができるように、保護者の話に耳を傾け、成長と共に喜び合えるような場や時間を設ける。（登降園時、懇談会、園開放等） ・親子の会話や触れ合いの時間をもてるように、絵本の貸し出しを行う。 ・未就園児の保護者が、育児を楽しんで行えるよう相談に乗ったり、遊んだりできるよう地域子育て支援センターや園を開放する。	○コロナ感染予防の為、日々の様子を伝える時間が短くなったが、毎月のクラス便りや個人懇談会などで園児の活動や様子を伝えることができた。 ○絵本の貸し出しを毎週行うことで、家庭での親子の触れ合いのきっかけとなり、返却時には園児の嬉しいような表情や言葉を聞くことができた。 ○支援センターの登録者が毎月増えてきている。気軽に相談できる雰囲気を作ってきたことで利用者同士の会話も増え、楽しむ姿を見せている。
家庭・地域との連携	○保護者との連絡・報告を適切に行い、協力関係を築く。 ○地域の伝統的な生活や行事を知り、いろいろな経験をさせる。	・園の方針や活動の様子を伝えるために、園だよりやホームページを充実させる。 ・祖父母や地域の社会人講師を迎え、経験したことを伝えてもらったり、触れ合ったりして経験を豊かにする。	○園だよりやクラスだより、ホームページなどに活動の様子を写真やエピソードを添え、具体的に伝えることができた。 ○散歩に出かけた際には、地域の人と挨拶を交わし、田畑の活動を質問したり、話をしたことをきっかけに園の栽培活動の指導に来てもらったり、国営農地での芋ほり、また、琴と絵本の読み聞かせなどで表現の仕方を知り、様々な人と触れ合ったり体験したりすることができた。	○園だよりやクラスだより、ホームページなどに活動の様子を写真やエピソードを添え、具体的に伝えることができた。 ○散歩に出かけた際には、地域の人と挨拶を交わし、田畑の活動を質問したり、話をしたことをきっかけに園の栽培活動の指導に来てもらったり、国営農地での芋ほり、また、琴と絵本の読み聞かせなどで表現の仕方を知り、様々な人と触れ合ったり体験したりすることができた。
次年度に向けた改善の方向性	○公開保育などを通してこども園の教育・保育を伝え、つながりのある教育活動を充実させながら、地域の子ども像の育成に努める。 ○地域に根ざした教育・保育が充実していくように、コロナ感染予防対策を講じながら地域のひとふれあう機会を増やし、次への活動へつなげる。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちや発達に合わせた援助・支援の充実・環境構成をしていく。			

令和3年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立かぶと山こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
こども園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～いっぱい遊ぼう！一緒に遊ぼう！～ 友達っていいな～ - 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かにたくましく、生きる力を育てる。 - 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 - 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。	○久美浜学園の会議を通して子どもの実態を交流することとで、指導や支援の仕方について共通理解することができた。また、保幼合同研修会として初任者教諭の公開保育を行い、質の向上に引き続き校種間の連携を大切にしていきたい。 ○全園児が園周辺の自然環境を取り入れた遊びや活動を進めることができた。 △全身を使った遊びの環境を活用し、落ち着いて話を聞いたり、集中して取り組んだりする園児を育成する。 ○職員が温かい雰囲気の中で保護者を受け入れるように努めてきたことで、信頼関係が構築されていった。 △安心安全な教育・保育を進めるため、状況に応じて危機を回避する対策を見直す。 △コロナ禍での保護者や地域を巻き込んだ体験活動を模索していく。	・一人一人が安心して自己発揮できる環境や関わりを工夫し、自己肯定感を育む。 ・身近な自然を活用した遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境を工夫し、豊かな感性や表現力を養う。 ・友達と関わったり協同的な遊びや活動を繰り返したりしながら、豊かな人間性の基礎を培う。 ・地域の人や自然、文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。 ・安心安全な環境のもと教育・保育の向上に努める。
評価項目	重点目標	成果と課題(自己評価)
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・久美浜学園の教育目標、目指す子ども像に向けて、基本方針を理解して取組を進める。 ・保育所、園、小学校と連携し、相互理解を深めながら一貫性・連続性のある指導に努める。	○久美浜学園年度末大会において、他校種の先生方へ園所の乳幼児教育・保育について伝え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有や乳幼児教育・保育の連続性・内容や指導への理解につなげることができた。 ○町内3園所で行った公開保育が、自園の保育を振り返り、久美浜学園の指導の重点や取組を職員間で共通理解する機会となった。 △5歳児が小学校入学に向け、コロナ禍でも学校生活への期待がもてるような工夫や交流の場をもつことができなかった。

教育課程	・楽しい園生活を繰り広げる。 ・主体的、協同的に活動する力を育てる。 ・人とつながりあうことの喜びを味わい、人と関わる力を養う。	・園児一人一人の生活背景を理解し、肯定的に園児の姿を受け止め、自信をもって自己を発揮できるようにする。 ・「子ども園で～がしたい」「友達と～が遊びたい」と思えるような居心地がよく、夢中になって遊ぶことができる環境づくりを行う。 ・身近な自然や自然物を取り込んだ感動体験を増やし、考えながら遊ぶ機会を取り入れて活動する。 ・コロナ禍での異年齢児や地域との交流を行い、遊びや体験を通して人を思いやる気持ちや人と関わる楽しさを感じられるように進めていく。	○保育者が園児一人一人のよさと課題に寄り添い受け止めることで、丁寧な支援を行うことができた。また、友達のよさを認め合う時間（振り返り）を設けたことで、自信をもって伸び伸びと自己発揮できる姿へとつながった。 △職員間で遊びを深められる環境について学び合う時間がしかりもてななかったため、夢中になって遊ぶ環境づくりが十分に整えられなかった。 ○地域や保護者、社会人講師の支援を受け、自然環境を生かした保育を進め、色々な感動体験を味わう機会をもつことができた。 ○コロナ禍でも、異年齢の交流を意識した生活や遊びを進めてきたことで、自然な形で友達を思いやる姿を見せるようになってきた。
子育て支援	・保護者が安心して子育てができるように支援する。 ・家庭の教育力向上を図るとともに家庭と連携し、「共育」を目指す。	・保護者が話しやすい雰囲気を感じ、何気ない話や相談に耳を傾ける。 ・未就園児や在園児の親子が楽しい雰囲気の中で交流できる場を設定し、子育ての楽しさを伝える。 ・保護者に園児の様子を伝えるため、参観やたより、ホームページ、ドキュメンテーション等で信頼される園づくりに努める。	○送迎時や参観などの機会を捉え、丁寧にコミュニケーションをとってきたことにより、少しずつ保護者と信頼関係を育むことができた。 △支援センターでは、コロナ禍での配慮のもと親子で遊ぶことができたが、園内での親子交流など子育てを共有できる場はもつことができなかった。 ○ホームページや写真の掲示・面談などをこまめに行うことで、保護者と子どもの育ちや園での様子を共有することができた。
危機管理	・事故や感染症対策を徹底し、発生を防止する。 ・全職員が危機管理意識をもち安心・安全な環境と保育を努める。 ・園児目らが危機回避するための安全教育を行う。	・全職員が危機管理意識をもち、日々丁寧に園児の様子を観察し、報告・連絡・相談等を行い、保育体制を確立していく。 ・全職員が園児の心と体が傷つかないよう配慮した環境づくりや言葉掛け・関わりのもち方を学ぶため、園内研修を設定する。 ・園児目らが危険回避する意識を高める。（毎月の避難訓練や防災、交通安全の参加、また健康に関する話を定期的にやり取り実践していく）	△職員の報告・連絡・相談等、共通の理解のために短時間ではあるが終礼の時間を当ててきたが、できないことが多かった。 ○人権教育について参考資料の配布や園内研修を行い、園児への言葉掛けや接し方について日々、振り返りながら考える機会をもつことができた。 ○地域の駐在所による交通安全教室や防犯訓練等を行い、一人一人が自分の命は自分で守るという意識をもち、安全に過ごすよう努めた。
次年度に向けた改善の方向性	・本園の教育・保育計画を見直すとともに、市や学園で掲げている教育方針等を職員間で共通理解し、実践を積み上げていく。 ・久美浜学園の取組を保護者に周知し、小中一貫教育への理解を深められるよう努める。 ・園児が自然体験や環境学習を進めていく中で、SDGsが意識できるような保育を重ねる。		

令和 3 年 度 学 校 評 価 自 己 評 価 報 告

学校名〔 京丹後市立峰山小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら主体的に生きることができ力を育てる。 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 3 学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。		○児童が自ら考え諸問題を主体的に解決する学級活動、特別活動の取組が進展した。結果として、児童の良好な関係性や自律的な判断力・行動力が高まった。 ○不登校(傾向)児童への支援、愛着形成不全等の心理的課題や発達障害等への支援が進展した。結果として、学校不適応(特に不登校)が改善した。 △基礎的・基本的な知識や技能等の学力を高めることは、やや不十分であった。	全ての児童が伸びがながりながら、将来の社会的な自立を目指して力を伸ばし合う学校づくりを行う。そのため、 ○学び合える子 ○自分で考え行動する子 ○仲間と力を使える子 を目指す児童像とし、身に付けさせる力の具体的目標を6点設定して学校経営を進める。 それらに取り組み重点的な場として「①授業改善 ②特別活動 ③児童支援」を置き、目標の達成に迫る。
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○児童の主体的な学び合いによる学習を通して、将来に生きて働く知識・技能、思考力、自律的に判断し行動する力、他者と協働する力などの「質の高い学力」を伸ばす。	①かわり合いの中で学ばせる。伝え合い、話し合い、学び合いによる教科指導をする。 ②非認知的能力を育成する授業づくりを重点に位置づけ、組織的に実践的な研修を行う。 ③授業づくり月間等を設定して、すべての教員がオープン授業等による日常的なスキルアップに取り組み。 ④児童の学び合いを深めるために、電子黒板やタブレット端末等のICT機器を活用する。 ⑤指導教諭による専科授業・T T授業により、指導教諭の指導力を普及する。	○話し合いや教え合いなどによる主体的・対話的な学習形態が日常的になった。結果として、児童アンケートで「授業がよく分かる」「自分の考えを伝えている」がともに90%となるなど、児童は学習を概ね肯定的に評価している。 ○電子黒板やタブレット等のICT機器の日常的な活用が進み、学び合いの質が向上した。 ○各教員が年間に複数回の授業公開を行い、指導力を高め合うことができた。 △三密回避の授業のため、話し合いや教え合いなどの量の確保が困難で、「話し合うと学習がよく分かる」85%にとどまるなど、昨年度以上の進展は見られなかった。
生徒指導	○多様な児童が認め合い育ち合う力をはぐくむ指導を通して、共感的な人間関係を醸成する。 ○組織的な児童支援を通して、不登校や不適応、いじめを未然防止する。	①児童が自ら決定し、話し合い、問題を解決する自律的で問題解決的な学級経営や特別活動を行う。 ②本校が付けたい力と「各学年で目指す姿(峰山学園共通)」を学級経営に位置付け、実現を目指して取り組む。 ③不登校や学校不適応を未然防止するため、毎週1回の児童支援会議を中核に置き、学習指導・教育相談・特別支援等の多面から計画的・組織的に児童支援を行う。 ④スクールカウンセラー、関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を強化する。	○運動会、学習発表会、マラソン大会などを児童主体の取組に改善し、自律性を高めた。90%以上の児童が「問題を話し合って解決している」「自分の仕事をやりきっている」「助け合っている」などと肯定的に評価している。 ○関係機関と連携して不登校児童への個別支援を組織的に実施し、出席率が昨年度40%から本年度70%以上となった児童がいるなど、不登校(傾向)の状況が改善した。 △3名が本年度に新規不登校となっており、こども園等との連携や不適応防止の取組を一層徹底する必要がある。

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体 育）・安全	○感染症予防に自ら取り 組む態度と基本的な生 活習慣を高める。 ○交通事故防止を徹底し、 児童の安全を守る。	①新型コロナウイルスをはじめとした感染症に関する知識や生活様式、基本的な生活習慣の大切さに関する授業を、すべての学年で継続的に行う。 ②家庭やPTA、峰山学園と連携し、SNS・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の学習・研修・啓発を進める。 ③PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組を行う。	①新型コロナウイルスに関する科学的な知識や予防について学ぶ授業を毎学期行うとともに、校内での感染防止対策を徹底した。その結果、児童の感染確認はあったものの、校内での大規模な拡大には至らなかった。 ○PTA、ボランティア組織による地域ぐるみでの登下校見守りが毎日行われ、児童の無事故が継続できた。 △SNS等でのトラブルはなかったものの、ネット視聴により生活が乱れる児童が増加している。	○新型コロナウイルスに関する科学的な知識や予防について学ぶ授業を毎学期行うとともに、校内での感染防止対策を徹底した。その結果、児童の感染確認はあったものの、校内での大規模な拡大には至らなかった。 ○PTA、ボランティア組織による地域ぐるみでの登下校見守りが毎日行われ、児童の無事故が継続できた。 △SNS等でのトラブルはなかったものの、ネット視聴により生活が乱れる児童が増加している。
特別支援教育	○将来の社会参加に向けた自立を支援するとい う立場から、児童一人一 人の教育的ニーズを整 理し、すべての児童が自 分らしさを伸ばし合え る環境をつくる。	①どの児童もわかりやすい一斉指導や、どの児童も参加できる集団活動を目指して授業や行事をつくる。 ②特別支援教育コーディネーターと児童支援部会を中核に置き、通常の学級における支援を強化する。 ③本校独自の特別支援教室を設置し、個別支援を行う。 ④特別支援学級児童一人一人に応じた教育課程を編成・実施するとともに、交流・共同学習の質を高める。 ⑤保護者と定期的な懇談を行い、合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的配慮を行う。	○学びにくさや集団参加の苦手さなどがある児童に対して、行事設計の工夫、個別支援や合理的配慮を徹底した。結果、すべての行事等に当該児童が参加できた。 ○「先生は自分のよさを分かってくれる」「先生は気軽に相談できる」と感じている児童が94%となった。 ○特別支援学級独自の生活単元学習や自立活動などを創意工夫することにより、児童が着実に能力を伸ばし、特別支援学級や特別支援教育への理解と信頼、評価が高まった。 △愛着形成に課題のある児童や、厳しい状況に置かれている家庭への支援をさらに工夫する必要がある。	○学びにくさや集団参加の苦手さなどがある児童に対して、行事設計の工夫、個別支援や合理的配慮を徹底した。結果、すべての行事等に当該児童が参加できた。 ○「先生は自分のよさを分かってくれる」「先生は気軽に相談できる」と感じている児童が94%となった。 ○特別支援学級独自の生活単元学習や自立活動などを創意工夫することにより、児童が着実に能力を伸ばし、特別支援学級や特別支援教育への理解と信頼、評価が高まった。 △愛着形成に課題のある児童や、厳しい状況に置かれている家庭への支援をさらに工夫する必要がある。
開かれた学 校づくり	○保護者や地域社会との 連携・協働を通して、教 育活動を工夫改善し、児 童の学びを深める。	①地域性を生かし地域の人材を活用した特色ある学 習活動を創意工夫して実施する。 ②学校の方針や情報、教育活動を様々な手段で発信す る。 ③学校評議員、学校関係者評価委員、学校（学園）運 営協議会の意見・評価から学校経営等を改善する。 ④大学等の研究機関と連携した実践研究を行う。	○峰小ガイドブック、各種たより、ホームページ等での情 報の積極発信が信頼を得た。ホームページを毎日更新 し、1日1000アクセスを超えるようになった。 △新型コロナウイルス感染防止対策のために、保護者、地 域人材、学校評価関係者等の来校が制限され、連携の量 が十分に確保できなかった。	○峰小ガイドブック、各種たより、ホームページ等での情 報の積極発信が信頼を得た。ホームページを毎日更新 し、1日1000アクセスを超えるようになった。 △新型コロナウイルス感染防止対策のために、保護者、地 域人材、学校評価関係者等の来校が制限され、連携の量 が十分に確保できなかった。
次年度に向けた 改善の方向性	(1) 学び合う学習指導、育ち合う学級経営が適切に進められるよう、校内や峰山学園での研修を一層充実する。 (2) 児童の自律的・自治的な活動をさらに進め、自ら考え判断し、協働し、挑戦する力を高める。 (3) すべての児童に学校での学びを保障する観点から、一人一人の児童や家庭の状況を的確に把握・共有し、関係機関と連携したチーム支援を一層強化する。 (4) こども園や中学校との連携を強化し、長期的に個々の児童の成長発達を見ることができるようになる。	(1) 学び合う学習指導、育ち合う学級経営が適切に進められるよう、校内や峰山学園での研修を一層充実する。 (2) 児童の自律的・自治的な活動をさらに進め、自ら考え判断し、協働し、挑戦する力を高める。 (3) すべての児童に学校での学びを保障する観点から、一人一人の児童や家庭の状況を的確に把握・共有し、関係機関と連携したチーム支援を一層強化する。 (4) こども園や中学校との連携を強化し、長期的に個々の児童の成長発達を見ることができるようになる。	(1) 学び合う学習指導、育ち合う学級経営が適切に進められるよう、校内や峰山学園での研修を一層充実する。 (2) 児童の自律的・自治的な活動をさらに進め、自ら考え判断し、協働し、挑戦する力を高める。 (3) すべての児童に学校での学びを保障する観点から、一人一人の児童や家庭の状況を的確に把握・共有し、関係機関と連携したチーム支援を一層強化する。 (4) こども園や中学校との連携を強化し、長期的に個々の児童の成長発達を見ることができるようになる。	(1) 学び合う学習指導、育ち合う学級経営が適切に進められるよう、校内や峰山学園での研修を一層充実する。 (2) 児童の自律的・自治的な活動をさらに進め、自ら考え判断し、協働し、挑戦する力を高める。 (3) すべての児童に学校での学びを保障する観点から、一人一人の児童や家庭の状況を的確に把握・共有し、関係機関と連携したチーム支援を一層強化する。 (4) こども園や中学校との連携を強化し、長期的に個々の児童の成長発達を見ることができるようになる。

令和 3 年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども		規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎として「深い学び」を目指す指導の在り方について研究が進んだ。「分かる・できる」授業づくりと「お互いを認め合う」学級づくりを土台とし、今年度も「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け、コミュニケーション能力の育成を柱として教育活動を進める。		目指す子ども像を具体化する重点 1 自ら考え判断し、表現する力を向上させる。 2 自らの時間と力を周りの人々のためにもつかい、他者に貢献する態度を育てる。 3 自らの目標を設定し、自分で調整しながら根強く、やり抜く力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策		成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 目標(評価)が明確で児童に分かりやすい授業を計画的に進める。 2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。	1 コミュニケーション能力の育成を柱とし、ねらいが明確で児童が分かる授業を研究授業等によって教員が学び合う。深い学びになる「指導」と「評価」の研究を通して新学習指導要領において育成を目指す資質・能力について理解する。 2 学びの自立を目指すため、発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。		○コミュニケーション力を伸ばすため、どのように授業を構想するかを授業研究によって学び合えた。 ○峰山学園の家庭学習頑張り週間と合わせ、本校では旬間として年3回取り組んだ。自分で学習計画を立てて学習を進められる児童が増えた。
生徒指導	1 支援を必要とする児童へのきめ細かな目標設定を行う。 2 自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を積極的に関わり入れ、児童の自己肯定感を高め、学び合う集団(学級)をつくる。 3 自分の力と自分の時間を周りの人のために使うことを価値付けする。	1 特別支援教育部、教育相談部が連携し、支援を必要とする児童を的確に把握しアセスメントを行い、保護者とともに目標を設定し、指導支援を進める。 2 授業づくりを通して学級づくりを行うことを全教員で確認し、授業で自己存在感・共感的な人間関係・自己決定する場を設定する。また、日々の肯定的評価を積み重ね、自己肯定感を高めるとともに、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進める。 3 学級活動や異年齢集団での活動における、行動価値として、他者貢献の視点を常に伝えていく。		○支援を要する児童のエピソード記録を週1回教員で共有し、組織的に支援を行うことができた。 ○月・学期1回の保護者面談を継続し保護者とともに目標を共有して支援をすすめることができた。 ○必要に応じて臨床心理士の助言を求めた。 ○言葉や行動を「つなぎ」「応える」ことを続け、相手意識を高めることができた。

健康（体育）・安全	1 全校的な感染症予防や体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、自分自身の身体に関心を持たせる。 2 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成するために、自分で目標設定できる力を付ける。	1 体育部、健康安全部等が中心となり、感染症予防の取組を継続的にを行い、保護者にも啓発することによって身体への関心を高める。また、体育の授業と連動させた持久走や縄跳びを継続的に実施し、体力向上と粘り強く頑張ろうとする態度を高める。 2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を達成段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○「いさなご小学校感染症予防マニュアル」を作成し、状況の変化に伴って更新し教育活動を行うことができた。 ○学期・取組ごとに自分の目標を設定し、取組過程を丁寧に扱い意欲を高められた。 △コロナ禍のため、全校的な取組を実施できなかったが、活動人数や方法などを工夫することにより体力向上に努めた。
人権教育	1 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるようにする。 2 発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。	1 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他者への思いやり」についての指導を重視する。 2 互いの個性や価値観の違いを認め、得意なこと認め、さらに伸ばす指導を行う。	○新型コロナウイルス感染症についての指導により、悲しい思いをすることを避けられた。 △年間を通して友達、自分を大切にする指導を行った。自分がしていることがいじめに繋がらないことへの意識は低い。その気付きを高めるためにも、教職員の人権に対する研修を充実させる。
研修（資質向上）	1 職員の指導力向上に向けた研修を積極的に進める。 2 峰山学園が目指す保幼小中10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	1 峰山学園における研修会、校内の授業研修等を行う。適宜、評価を行い、日々の実践と結びつけた価値づけを行う。 2 峰山学園の「(0) I～III期における「目指す姿」」を共有し、その実現に向けた取組のあり方（I期前半、後半、II期における指導のポイント）について研修を進める。	○全ての教員が校内授業公開を1回以上実施し、事後研究会を行い、互いの指導力向上に努めることができた。 ○峰山学園 I～III期における「目指す姿」を意識した指導を行うため、改めて「目指す姿」達成のために必要なことを研修できた。
次年度に向けた改善の方向性	・教員が一人一人の様子を細かに把握し、お互いを認め合う学級経営を土台として「分かる・できる」授業づくりを進める。 ・将来の社会的自立に向けて、学習指導要領で示されている各教科における「育成を目指す資質・能力」を明確にし、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指して研究を深めていく。 ・外部機関と連携して指導の方向性を明確にし、個に応じた支援を進める。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立しんさん小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人ひとりが自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を組織的に進める。 2 豊かな人間関係を構築し、自ら学び続ける意欲と態度を醸成する。 3 児童実態を的確に把握し、学力向上に向けた組織的な研究を行う。	具体的方策 1 授業の中で積極的にICT活用を進める。使うことで慣れることと、その積み重ねからの効果の共有をねらいとする。 2 主体的・対話的で深い学びの実現のための校内研修会やグループ研究を計画的に実施し、模擬授業を指導力向上の場として取り組みを進める。 3 指導と評価の一体化による、指導の工夫・改善を行う。 4 言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を目指し児童に自己肯定感を育む。生徒指導の三機能を生かした授業づくりを学園組織と連動し追求する。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) [笑顔あふれる楽しい学校] ～わくわく Let's アップデート～ ◇やればできる自分に出会う(一人で) ◇みんなで学ぶから深まる(みんなで) を大切にして、学園評価・学校評価の結果に基づき教育実践の改善を図り、学校経営を充実させ、地域・保護者から信頼される学校を目指す。
	生徒指導	1 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。 2 生徒指導の三機能を生かした授業作り、学級経営を行う事で、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。	成果と課題(自己評価) ○一人1台の端末を使うことに慣れ、興味を高め、効果的な活用を模索し学びを深めることができた。 ○模擬授業を学びの柱として、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究会を行うことができた。 △児童アンケートの「学習がわかる」の項目では93%の肯定的な回答があったが、7%の児童への手立てを進める必要がある。 ○「自分にはよいところがある」の項目では、肯定的な回答が93%で昨年度より10%の伸びが見られた。	○生徒指導の三機能を生かした学級経営により、落ち着いた教育環境づくりができた。「学校が楽しい」の項目では、96%が肯定的な回答だった。 △不登校傾向への対応は、教育相談部を中心に組織的な支援を行っているが、継続的な取組が必要である。また、いじめアンケートの結果は、丁寧に関き取り等を行い、早期の解決を図った。 ○「なぜ、何のために」を考えさせる指導により、「ルールを守っている」の項目では、97%の児童が肯定的な回答であった。

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作り、スポーツに親しむ能力や態度を育成する。 2 家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。 3 基礎的な生活習慣の確立を目指す。	1 朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通し基礎体力の向上を図る。 2 発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、SNSに関わる教室に取り組む。保護者への啓発を行う。 3 安全ボランテニアと連携し見守り活動を充実する。 4 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張る週間」を設定し生活習慣を確立する。 5 栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。	△運動面でも多くの制限があり、十分な成果につながったとは言えない。 ○薬物乱用防止教室、非行防止教室、SNS講習会等を計画的に実施した。 ○今年度も安全ボランテニアの皆さんに見守り活動を大変充実していた。 △生活習慣の確立では、特に「早寝」において保護者アンケートでは肯定的回答が80%を下回っており、改善の取組が必要である。
特別支援教育	1 障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。 2 発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。 3 自閉・情緒学級を強みにし、特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。	1 合理的配慮を含めた個別のニーズに応じた支援を目指し、専門機関と連携し検討、改善を加えていく。 2 保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。 3 専門機関と連携し、様々な障害等、様々な視点から理解教育を進める。 4 特別支援学級児童や学級に対する理解教育を取組や行事と関連させて行う。	○苦手のある児童への専門機関と連携した取組を進め、指導・支援を行った。 ○定期的な面談等を行い、適切で効果的な支援の検討をし、取組を進めた。 ○専門機関と連携し、理解教育を進めることができた。 △次年度に向けて、さらに特別支援学級ならではの支援や指導のあり方を追究し、3つの学級存在が全校の児童にとってもプラスとなるような教育活動を進めていく。
研修（資質向上の取組）	1 保幼小中一貫教育において峰山学園の「I～III期における『目指す姿』一覧」を教職員が共通理解し、系統的な指導を積み上げる。 2 初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。 3 教師力の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。	1 校内研修会で峰山学園が目指す「I～III期における『目指す姿』一覧」の共通理解を図った上で、学級経営方針を4つの柱で立案し実践を進める。 2 視点を明確に持ち組織的に授業研究を推進する。（児童同士の対話に焦点化） 3 校内での初任者研修を通して、全ての教職員が再認識したり日々の指導に生かしたりできるよう工夫する。 4 新学習指導要領全面実施に係るカリキュラムマネジメントの視点や評価について研修を深め、検証・改善を進める。 校内研修会が教師の学び合いの場になるよう企画運営させることで、各主任の力量アップを図る。	○峰山学園が目指す「I～III期における『目指す姿』一覧」の4つの柱を学級経営方針に反映させ、実践を進めることができた。 ○確かな学力の育成に向け、重点教科を算数科とし、指導と評価の一体化を目指した。各テストの結果は概ね平均程度であった。 ○次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業の指定校として、実践研究を行った。生き生きと英語を話す児童の姿が見られるようになった。 △ペアやグループでの活動に制限があり、目指す授業スタイルにはたどり着かなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・タブレットや電子黒板、デジタル教科書等、ICT活用によるGIGAスクール構想への対応を考慮した研修（授業研究）を、年間計画をもとに全教職員で組織的に進める。 ・組織的・協働的な取組を大切にしたい学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校づくりをさらに進めていく。 ・各種学力テストや児童・保護者アンケート等の項目を学校経営方針とつなぎ、教育活動の充実を図る。		

令和 3 年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。 (目指す子ども像) ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども	評価項目	重点目標	つながる笑顔があふれる学校づくり「ながおか大作戦」 ① 質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 ② 一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 ③ 人を思いやる豊かな人間性の育成 ④ たくましく健やかな心身の育成 ⑤ 安心・安全で信頼される学校づくり ～レッツゴー！あしたへ～	
	教育課程 学習指導	・主体的・対話的で深い学びの実現と自己肯定感を高める「わかる」「できる」授業づくり ・目標と指導と評価の一体化 ・言葉の力の育成 ・全校ドリル活用 ・峰山学園家庭学習が並び週間の活用と補習の充実 ・ICTの利活用		
生徒指導		・人を思いやる豊かな人間性の育成 ・不登校、いじめ等さまざまな課題に対するきめ細かな生徒指導の展開	○教育活動全般において、「主体的・対話的で深い学び」「生徒指導の 3 機能」を強く意識することができた。 ○「ながおか大作戦」を教職員・児童が意識し、具体的な取組を進め、安心できる学校・学級づくりを行った。 ○生徒指導部、教育相談部を中心に、機能的に対応する中、コロナ禍、不登校児童 0、全員登校 5 割以上が達成できた。	
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として		・市小研、学園保幼小中一貫教育の研究と連動し「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。『豊かにつながり、学び合う中で育まれる確かな学び』～課題に向き合い、聴き合い、深め合う子ども達の姿を目指して～」を研究主題とし、算教科授業を軸に、「主体的に学ぶ力」「非認知能力」を育む研究を進める。 ・学習指導要領の理念のもと、児童実態に応じた目標を設定し、評価まで見通した授業づくりを行う。 ・ノート指導、トークタイム等の工夫、各期のねらいや接続を意識した系統性のある指導を進める。 ・全校で週 2 回(月・木)のドリルタイム、週 1 回(火)補習の活用・充実を図る。放課後補習では、「ジュニアわくわくスタディ」等を活用する。 ・学園家庭学習が並び週間では、目標の明確化、家庭との連携等、学校全体の動きをつくり学習意欲を向上する。 ・ICT を効果的に活用する授業づくりに係る研修を行う。	成果と課題 (自己評価) (案) ○低・高学年グループで授業研究を進め、峰山学園秋季研修会を節として、協働的に授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した。児童が考えを対話により深めたり、友達の考えを認めたりなど、つながりの中で主体的に学ぶ姿が見られた。 ○毎週木曜日のトークタイムの充実を図り、児童の表現力、コミュニケーション能力を高めた。 ○家庭学習が並び週間を 2 週間の取組とし、自主学習等のノートを担当以外も見えて言葉かけをし、意欲向上と内容充実につながった。 △タブレット活用が進み、高学年を中心にロイロノートで提出・交流をし、ドリルパークの漢字や計算の学習に取り組むなど、個別最適な学び、協働的な学びを追究するツールとしてきた。さらに、タブレットの活用を進め、家庭学習の習慣化や内容の充実を図る。	

健康（体 育）・安全	・健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 ・危機管理の充実と安心・安全な学校づくり、環境整備	・不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組を推進する。 ・目標を明確に体力づくりの取組を充実する。 ・PTAのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、生活ががんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。 ・生命やかからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。 特に、新型コロナウイルス感染症予防については 主体的に取り組むことができるように指導する。	○不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実及び、SC・SSWの活用等の取組を推進することができた。 △健康的な生活習慣の確立が困難な児童に対して、家庭と連携し組織的に、食・睡眠など個別のニーズに応じた指導・支援をさらに進める必要がある。 ○感染予防対策について、朝会・学級指導・保健だよりなど多様な発信をすることができた。
人権教育	・一人一人のよさを認め合うとともに、多様性を受け入れ誰とでも仲良くできる児童の育成	・特別な教科道徳、人権学習等で豊かな人間性を育むとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。 ・人権週間（6月前半～後半）、人権月間（11月下旬～1月中旬）で課題に応じたテーマを設け取り組む。 ・人権問題学習では、身の回りの生活の中から課題を見つけ教材化、各教科や道徳における人権学習を進め普遍的・個別的なアプローチを行う。学校・学級だより等や授業公開を通して保護者等に啓発・発信をする。	○人権週間・月間に、学級の実態に応じた目標や具体的な取組を行い、人権朝会等で交流・振り返りをすることにより「人権を大切にす」学校づくりができた。 ○人権講話により車いすスポーツについて知るとともに体験もでき、障害についての理解とちがいを認め合うことについて考えることにつながった。 △感染予防のため、人権学習の授業公開ができなかったが、コロナ関連の人権も含めて発信していく。
特別支援教育	・児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	・学校生活全般における UD のよさを活かした指導を充実し、誰もが安心して学習環境づくりを推進する。 ・行事や体験活動を工夫し自己肯定感を向上させる。 ・コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制の構築及び他機関との連携を図る。	△学校生活全般において UD のよさを活かした指導を充実し、安心して学習環境づくりをさらに推進する。 ○コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制の構築及び他機関との連携を深めた。 △児童・保護者に対し、さらに特別支援教育について啓発する必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	1 児童の学力向上をめざし、よりよい生活習慣を確立し心身ともに健やかな児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、組織的に研究を推進する。 2 全ての児童に対して個別の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 3 児童の実態を家庭と学校で共有し、よりよい生活習慣を身に付けさせ、SNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「主体的に取り組む家庭学習」「よい睡眠」「よい食事」が自分の未来をつくることを児童が理解できる取組を進める。 「今の自分が未来の自分をつくっている」→「今何をすべきか」「なぜしなければならないか」→「主体的に動く」		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立大宮第一小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「学校教育目標」(長期目標) ◆ 自他を尊重し、自ら学ぶ 「目指す学校像」 ◇ 一人一人が輝き、生き生き活動する学校 【児童】 ◇ やりがいを持って自分の力を発揮する学校 【教職員】 ◇ 安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇ 他地域に誇れる地域とともにある学校 【地域の方】		○ △ 単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を年間を通して確実に進めることができた。さらに、学習上配慮を要する児童等への具体的な手立てを明確にした指導支援について進めていく必要がある。 ○ 学力の基盤となる協調性・自制心・やり抜く力について、人権にかかわる取り組みや日頃の特別活動、各担任等の指導支援によって、全体としては積極的に育成に努めることができている。 △ 学級経営上一部社会的行動がとりにくい児童がある。また、不登校についても、組織的な対応をしながら大きく改善した児童がいる半面、様々な要因から内面的な困難さのある児童もある。		「子ども一人一人の居場所を大事にする中で、生きる力・自立する力をつけることを意識して学校経営を行う」 ① 多様性を積極的に肯定する。 ② 一人で全部完全な人間でない、補い合うことができるからチームのメリットがあると考える。 ③ みんなが安心して気持ちよく働ける職場にする。 経営のキーワード 「チーム第一小 一協働し、子どもの力を伸ばすことで自らの人間力を高める」	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成果と課題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	・ 読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を計画的に進める。 ・ 知識・技能を用いて活用する力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を積極的に進める。 ・ 感情をコントロールする(協調性)、集団の中で自分を律する(自制心)、自主的に粘り強く取り組む(やり抜く力)態度を積極的に育成する。	・ 学習指導部、研究推進委員会を中心に、基礎学力の定着のため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい(具体的手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。12月のDRTの標準得点において昨年度より伸ばすことを目指す。 ・ 身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成するため、研究推進委員会が中心となつて「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を特別活動・教科の授業研究の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。また、ICTを活用した授業改善を進める。 ・ 協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級・学校の取組及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。生徒指導の3機能を生かした学級経営をすすめるとともに、特別支援教育の視点を大事に居場所のある学校となるよう取り組む。		○ 2～6年のDRTの結果、昨年比同等以上が国語215人66.8%、算数251人78.0%となり、全体としてテストに現れる力を多くの子が伸ばすことができた。一方で、昨年以下だった児童への対応も含めて進めていく。また、知識・技能等の学力を定着させるための取組として、授業における理解の工夫や定着のための取組など時間が限られている中で進められている。 ○ 話し合い活動について各学級で研究を進め力をつけ、各教科での学習に生かしていくことができてきている。また、ICTの活用がどの学級でも日常のこととなりつつあり、表現方法の広がりや思考を深めるツールとして活用できてきている。 ○ 日々の学級経営の中で、肯定的な評価を大切に自己肯定感を高める雰囲気作りが進められた。その結果、各学級で発達段階に応じて協調性・自制心・やり抜く力などを身に付けることができてきている。 ※DRT全体の状況から指導方法を、個別の結果から指導内容を見つめなおしていく。 ※話し合い活動の技能を全学級で高め、各教科で進めている授業改善につなげていく。 ※3つの力の育成につながる指導・支援がどのようなものか、考え方や実践を交流し学びあいたい。	

生徒指導	- 発達段階に応じた「友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う」気持ち育成する指導を進める。 「不登校」、「いじめ」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。	- 特別活動、学級活動、道徳科を中心に全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人とかかわりに関すること」「友情・信頼」についての指導を重視する。 - 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えていくことで、自己肯定感を高め、自分の特徴に気付き、長所を伸ばそうとする態度を促進させる。その結果として、学校・学級に一人一人の居場所があるように丁寧な取組を進める。	- 特別活動の様々な取組を通して、自分と他との関係を考え、折り合いをつけることの大切さを学ぶことができた。その結果として、学級や異年齢集団等での互いを大切に思う思いや行動が高まっている。 - 不登校傾向を表す児童に早く気づき、その対応を組織的に行うことができた。その中では、常に居場所の確保に努め、また保護者とともに歩むことを大切にしている。 ※来年度のスタートに当たって、クラス替えの場合を除いて、今年の積み上げがリセットされることなく進められるように工夫する。 ※来年も続くと考えられるコロナ禍でも何とか学校の良さを伝えられるように工夫していく。
健康（体育）・安全	コロナ禍における全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、体力づくりの推進と学校を休まない意欲を高める。	体育の授業と運動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすること、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。	- 非常に厳しいコロナ禍での教育活動であるが、全職員で情報共有をしながに進めることができていた。学校閉鎖や学級閉鎖も経験したが、その都度、全職員で対応や感染防止の取組を進めることができた。 ※コロナ禍による体力・心理両面からくる影響に対して、可能なことでの取組を検討していく。
特色ある学校づくり	特別活動の研究校として、社会的自立を目指した教育活動の在り方について、特別活動の分野から研修と実践を重ねる。	- 学級活動や児童会活動等の授業や活動の考え方や指導の在り方について理論研究を進める。 - すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりの指導方法を発達年齢に応じた身につける。 - 本年度の府小研 2 年次研究発表会及び令和 4 年度近畿特別活動研究大会の準備を進める。	- 本校の重点研究を通して、今現在の子どもの生活や人間関係を豊かにすることにつながっていると実感している。 - 研究推進部の丁寧な計画と推進によって、見通しを持った取り組みとなっている。 ※すべての学級で研究が実践につながるように来年度 3 年次の研究を通じて高めていきたい。
地域とともにある学校づくり	保幼小中一貫教育の推進による PTA・保護者会、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。	- 学園の保幼小中一貫教育にかかわる取組のねらいをより明確にし確実に実施するとともに、中学校卒業時を見通した教育活動を推進する。 - 本校 PTA や学園学校運営協議会との連携を通して、保護者や地域と一体となった取組を計画的に実施する。	- 大宮学園の保幼小中一貫教育の取組を通して、接続を大切にする雰囲気大切にされている。 - 学校運営協議会を中心に、地域の方々との連携がよく進み、安全や挨拶の取組など大きな支えになっている。 ※教職員の相互理解や指導の一貫性を着実に進めるとともに、地域や保護者の方と連携した取組となるよう進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	- 来年度も DRT の結果で前年度より更に、個々・全体の標準得点を伸ばすことを目指す。 - 話し合い活動のスキルを全学級で伸ばし、肯定的な雰囲気と居場所のある学級づくりを進める。 - コロナ禍における様々なリスクを減らすための取組を進めるとともに、心身ともに豊かな成長を伸ばせるように何ができるかを考えて取り組み。 - 地域と家庭との連携をベースに、様々な意見をもとにより良い教育活動が進むよう、発信と改善を進める。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 大宮南小学校 目指す学校像 (1) 学級づくりを基盤にして、質の高い授業づくりを追及する学校 (2) 全ての児童が大切に育てられている人権の風土のある学校 (3) 家庭・地域と共にある信頼される学校	評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	
教育課程 学習指導	【主体的に勉強する子】 ①基礎学力の向上を目指した授業づくり ②「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善 ③言語活動の充実を目指した授業づくり ④授業とリンクした家庭学習の更なる充実		・個に応じたきめ細やかな指導やドリルタイムやステップ等を利用した反復学習を進める。 ・算数科を重点とし、研究授業を柱として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。 ・大宮学園「言語活用カリキュラム」を活用した取組を進める。 ・家庭学習がたっぷり時間を設定したり、大宮学園「家庭学習の手引き」を活用したりすることで、家庭学習を充実させる。	○本校を会場として大宮学園授業研究会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現による算数科の授業改善を行うことができた。それ以降も、自校で研究を継続することができた。 ○大宮学園「言語活用カリキュラム」に加え、本校独自の『話し合いのポイント』を作成し、話し合い活動の充実を図った。 △下校の時刻の繰上げに伴い、放課後補習の時間の確保が難しい。反復学習のための時間確保が必要である。 △家庭学習頑張り旬間がマンネリ化している。更なる充実を図っていく必要がある。
生徒指導	【自分も友達も大切にする子】 ①「自他を大切にすること」を育成するための教育活動の充実 ②いじめの防止・不登校の未然防止を徹底させる。 ③規範意識の向上 ④ふるさと・人を大切にする心の育成		・大宮学園「人権教育カリキュラム」を活用し人権意識を育成したり、人権学習の充実を図ったりする。 ・生徒指導の三機能を生かした授業改善により、授業づくりと学級づくりの一体化を図り、学級経営力の向上を目指す。 ・いじめを許さない心、思いやる心を醸成し、明日も行きたくなる学校づくりを進める。 ・自分から進んで挨拶ができる子を育てる。 ・自分で正しく判断し行動できる子どもを育てる。 ・地域の人材から学ぶなど、丹後学を進める。	○全教職員で全児童を優しく包み込むことのできる学校にするため、肯定的評価を大切にし、教職員同士が互いに認め合い、繋がり合えるよう職場を作りを大切にしました。 ○授業の中に生徒指導の3機能を取り入れ、お互いに認め合うことのできる学級を作っていた。 ○いじめの早期発見、不登校の未然防止に向けて、連絡・報告・相談を大切にし、組織的に解決策を考えることができた。 ○学校が楽しいという児童がほとんどである。また、不登校傾向の児童を早期に発見し、個を大切にしている指導をすることで、毎日全児童が元気に登校している。

健康（体育）・安全	【たくましくチャレンジする子】 ①体力向上の取組 ②基本的な生活習慣の確立 ③健康安全教育の充実	・新体力テストなどを活用し、児童の体力・運動能力の実態を把握し、全校的な体力づくりの取組を進める。 ・家庭と連携し早寝・早起・朝ごはん等の基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。 ・災害や事件・事故、感染症から身を守るための健康安全教育を推進する。	○三密を避けるための創意工夫をしながら、マラソン大会や運動会、体力作りの取組を実施することができた。 ○安心安全な学校生活を送ることができるよう、「新しい生活様式」に基づいた感染症対策を行うことができた。 △コロナ禍の中、体力作りに制限がかかり、計画通りに取組を進めることができなかった。
⑤ 特別支援教育	① 特別な教育支援の必要な児童へのニーズに合わせた支援	・児童の実態や発達段階を的確に把握し、適切な教育課程を編成すると共に、個別的教育計画を立てて指導する。 ・児童・保護者のニーズに合わせた個別的教育支援計画を作成し、保護者と連携した指導や支援を進める。 ・校内教育支援部が機能化する体制づくりを整え、とともに、外部機関も利用し、特別支援に関する理解を深める。 ・全校児童の相互理解と互いに学び合う好ましい人間関係を育成し、多様性を認め合うことができる学校風土づくりをする。	○配慮を要する児童の支援の方法について、学校での見える実態のみならず、家庭環境や児童の内面理解等も大切に、関係諸機関と連携し、組織的協働的な話し合いを大切にしながら互いに考え、することができた。 ○保護者との面談や会話を大切に、保護者の思いや考えを受け入れながら、学校としての指導・支援の方法を伝える等、家庭と連携しながら支援を行っていった。 △保護者と学校の連携のみでは、家庭環境的に支えきれない家庭が複数あるもので、要対協等関係諸機関と連携しながらの取組が必要である。
① 開かれた学校づくり	保護者・地域から愛され信頼される学校 ①地域と共にある学校 ②教師力の向上 ③組織的・協働的な推進体制の確立	・学校により・HP・学級通信等を活用し、学校の様子を発信していく。 ・PTA や大宮南小子ども見守り隊と連携し、児童の安全確保のための環境づくりを推進する。 ・教師力の向上を図り、信頼される教員を目指す。 ・教育目標・教育スローガンの具現化に向けての協働的な組織体制を設定し、信頼される学校を作っていく。	○担任と保護者との連絡を大切にしたり、各クラス学級通信等を活用し丁寧な学級の取組や児童の様子について知らせたりするなど、家庭との連携を大切にしたり。 ○行事や取組のお知らせや変更について、学校だけでなくHP、PTA メールで丁寧にお知らせすることができ、計画の見直しや変更を丁寧な連絡することができた。 ○安全ボランティアの立ち番及び教職員やPTA の安全パトロールにより、安全に登下校することができた。
次年度に向けた改善の方向性		・学校生活全体で「主体的・対話的で深い学び」を大切に、変動の多い社会の中でも、臨機応変に対応し、主体的・協働的に創意工夫することのできる力を育てていく。 ・「ICTを活用する力」等今求められている力と従来からなされてきた普遍的な力を両輪にした教育活動を進めていく。読書指導を大切に、本好きな児童を育てる。 ・感染症対策や健康安全教育を行い安心安全な学校を基盤とし、その時の情勢を把握しつつ、子ども達につけたい力を明確にし共通理解しながら、見通しをもち創意工夫した教育活動を展開していく。 ・関係諸機関と連携しながら、配慮の要する児童の実態を把握したりすることで、個に応じた指導の方法を見つけ、粘り強く支援や指導をする。	

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○目標達成のための活動を仕組み、運営することができた。 ○授業改善や家庭への啓発などの取組を通し、意欲的に学習に向かえる児童が増えた。 △児童の自己肯定感が低い。 △「振り返り」を含むPDCAサイクルの技術的な研修の積み上げはできなかったが、効果や生かし方についての検証が不十分であった。		1 網野学園保幼小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進するとともに、全教職員が学校経営に参画する。 2 「自分も友達も大切にできる子」の育成を目指し、「友達と考えを交流することができ」「自分や友達の良いところを見つめることができる」「いろいろなことに挑戦し、次につながることをできる」をキーワードとした学校経営をする。	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	1 個の興味関心を引き出し、個に応じた指導を確立し「わかる」「できる」「考える」授業を進める。 2 振り返りを行い、自らの学びと成長を確認できる活動を行う。	1 学習意欲を喚起する授業展開とねらいが明確で「わかる・できる授業」と、身に付けた知識・技能を活用し考え、友達と交流する中で、さらに深めることができる授業の実践研究を行う。 2 個の興味や理解に応じた授業が進められるよう、積極的にICTを活用する。 3 多様な学習形態や学力補充・家庭学習などにより、基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4 振り返りを通してより学びを確かにし、体験活動を経験値として積み上げていき、次につながるような活動を仕組む。	○「見通す・振り返る」に特化して研究を進め「わかる・できる授業」を目指す授業改善に生かすことができた。 ○全学級でICTを活用した授業を進め全学級で積極的に活用した。 ○TTT授業、習熟別授業、個別指導を行い、児童への学習支援を進めることができた。 △効果的なICTの活用については、個に応じた指導や支援には更なる研究が必要である。 △体験活動を通して経験値の積み上げに関しては、成果については共有することができなかった。		
生徒指導	1 自他ともに大切にすることを育てる。 2 教育相談を基盤にした生徒指導を充実させる。 3 発達段階に応じた「思いやり」の心の心を育成する指導を進める。	1 生徒指導の3機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場)を大切にしたい教育実践を進める。 2 カウンセリングマインド、コーチングの手法を意識した生徒指導を充実させ、学級経営に生かす。 3 道徳教育を中心に、特別活動・学級活動、教科指導を通して、道徳教育・人権教育を推進し、友達と互いの良さや頑張りを認め合う活動を進める。また、達成感や充実感を友達と感じ合い自他とともに大切にすることを育てる。	○不登校傾向児童の対応方法や本人を含む家族への支援について、専門家の意見を参考にしながら方針を立て確認しながら進めることができた。 ○複数の部が連携し方針立ててを行い事前の家庭との連携では複数体制で対応することができた。 △様々な活動を通して自己肯定感が高まってきたものの、まだ高学年を中心に低さが見られるため、更に意識した取組や活動が必要である。 △規範意識に課題が見られ指導に繋がらなかった。		

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 体を動かすことの心地よさを感じる指導を推進する。 2 積極的にチャレンジし、自らの成長につながっていることを実感する指導を進める。	1 個に応じた目標や短期（各単元）目標を設定させ、自信をつけさせたり、次の活動への意欲を高めたります。 2 目標が達成できよう支援を行い、達成感や取り組みだことに対する充実感が得られる取組を仕組む。また、児童の相互評価と指導者による適切な評価と価値付けを行う。 3 振り返りを行い、自他の成長に気づくことで、より確かな学びとする。	○体育でも「見通し」「振り返り」を行うことで、目標設定の具体化や自分の成長を振り返ることに繋げることができ、意識を高めることができた。 ○ICT 機器活用により、個別の課題設定や相互評価、個別指導を効率的に行うことができ、学習意欲の喚起、指導と評価の一体に繋げることができた。 △一部児童に目標に対する意識の低さや前向きにチャレンジしないことへの消極的な姿が見られた。課題分析の甘さと指導の工夫が十分ではなかった。
研修（教職員の資質向上）	1 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた教員研修を充実させる。 2 プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法を活用し、学校経営参画を促す。	1 研究推進部を中心に授業改善を行う。また、効果的な ICT 活用を目指し、研究授業・公開授業を行い学び合う。 2 課題の抽出、設定、解決方法などの決定・取組過程を全教職員がかかわること、主体的な課題解決、学校経営参画に向けた動きを作る。 3 教科担任制を通して、カリキュラムマネジメント強化、学校経営参画意識向上と経営力強化を目指す。	○研究推進部を中心とし、単元構想を基にした授業改善を進めることができた。本校オリジナルの構想シートを活用し、該当単元を中心とした全体的な学習活動を見通すことができた。 ○時間割調整の難しさはあったが、授業時間やカリキュラムマネジメントの意識が高まった。 ○全学級で ICT を活用した授業を進め、長期欠席児童へのオンライン授業の提供も行うことができた。 △課題の整理と解決に向けて PCM 手法を十分に活用することができなかった。
特色ある学校づくり	1 地域の歴史、文化を大切にし、愛着をもたせる。 2 地域人材を積極的に活用する。	1 地域の歴史や文化、特色を生かす教材研究を行う。 2 地域の人材を生かした体験活動を充実させる。 3 「地域からの学びは地域に返す」ことを活動理念とし、地域への愛着を育てる。	○地域の歴史、産業を生かした学習活動ができた。 ○地域の高校生と共に海岸清掃と漂着物観察を行い、その結果を地元と台湾の高校生と交流することができ、児童の課題意識が高まった。 ○地域教材の開発を進めることができた。 △保護者や関係者に対して学級・学校通信等を通し発信することができたが、地域への発信が不十分であった。 △地域教材の開発を進めてきたが、実際の学習活動に生かし切れていない部分があった。
次年度に向けた改善の方向性	・不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への支援方法の更なる充実 ・授業改善、学力充実に繋ぐタブレットの有効活用の研究と検証 ・非認知能力の育成を目指した授業改善と研究	・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の充実 ・自己肯定感を高める指導・支援方法の更なる研修と実践 ・地域教材の開発と運用と地域人材の活用、地域への情報発信	

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
網野学園保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	重点目標 【よく学ぶ学校】 ・学習集団の育成 ・基礎・基本の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・家庭学習習慣の定着	前年度の成果と課題 ○スキルタイムや回復指導等による基礎基本の定着。 △思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための授業改善と毎日の自主学習習慣の定着。 ○組織的対応によるいじめや問題事象の早期発見・早期解決、及び家庭との連携による登校渋り、不登校の未然防止。 △積極的な生徒指導及び他学年とのつながりの弱さ。 △SNSの使用についての系統的な指導と家庭との連携。 ○地域との連携による安心・安全な登下校。 △学校公開機会の減少。	(1) 授業改善を進め、確かな学力を育成する。 【よく学ぶ学校】 (2) 互いの違いを認め合い、仲間とつながることができる力を育成する。【いじめこちの良い学校】 (3) 生き生きと元気に、仲間と共に粘り強く最後までやり抜く力を育成する。【毎日登校ができる学校】 (4) 地域と連携し、全校児童が安心して学校生活を送り、力を最大限発揮できる教育環境をつくる。 【信頼される学校】
	生徒指導	重点目標 【いじめこちの良い学校】 ・互いの良さでつながれる学級集団、人間関係の構築 ・規律を守り、いじめ・暴言等を許さない機運の醸成 ・「いじめ」等、問題事象の早期発見・早期解決	生徒指導 ・日々の関わりや異年齢活動の中で、生徒指導の3機能や言葉で伝え合うことの大切さを意識した指導を行う。 ・道徳教育や人権教育の充実、いじめや暴言・暴力等を許さない機運を高める。 ・行事や取組のねらい、過程、振り返りを大切にする中で価値づけを行うとともに、仲間とつながることの大切さを学ばせる。 ・網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールを守ることや当たり前のことが当たり前にできることの大切さを考えさせ、行動実践に繋げられるようにする。 ・いじめ、問題事象等の対応は、窓口を一本化し、事実を正確に確認した上で迅速、丁寧、組織的な対応を行う。	○運動会や大縄大会等の異年齢活動を通して、高学年がどうしたらよりよい取組になるかを考え、実践することで全校のリーダーとして力を発揮することができ、自己有用感を高めることができた。また、低学年は集団の一員として最後まで頑張ることの大切さや達成感を味わうことができた。 ○取組の経過を大切にしたい指導を行い、仲間の良さや頑張りを認め合える関係づくりを行った。 △ルールの大切さが行動実践に繋がらない児童もあり、その意味や価値を落とし込んでいく必要がある。 △いじめ・問題事象への対応は生徒指導部を中心として迅速かつ組織的に行ったつもりではあったが、学校評価アンケートでは16%の否定的な回答があり、真摯に受け止めなければならない。

健康（体 育）・安全	【毎日登校できる 学校】 ・家庭との連携に よる基本的生活 習慣の育成 ・目標に向かって 意欲的に頑張る 力（非認知能力） の育成	・毎朝の児童の様子を把握し、担任や該当分掌と連携した指導や取組を行い、より安全な登下校の確保や登校しづまり傾向の早期発見・早期解決を行う。 ・家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSC、SSWの活用により、個に応じたきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・非行防止教室、薬物乱用防止教室、自転車教室等により安全についての意識を高める。 ・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、生活リズムの確立、ゲームやSNSの使用についてのルール作り等、家庭やPTAと連携する。 ・目標に向かってやり切ることや粘り強く取り組むことの価値づけや肯定的評価を大切に、非認知能力を高める。	○登校指導や下校時のパトロール等で実態を把握し、課題に対する指導を行ったことで改善が見られるようになってきた。 ○配慮を要する児童や支援を要する家庭に対してケース会議やSC・SSWの活用、専門機関等との連携を行うことで、児童の安定に繋げることができた。 ○学習や行事等で肯定的評価を大切にしたり、個人内評価を大切にしたりすることで、粘り強く最後までやり切ろうとする姿が見られた。 △網野学園情報機器アンケートより、情報機器の使用（時間、頻度等）について課題があったが、児童自らが主体的に考え、使用について見直すまでの指導が不十分だった。
開かれた 学校づく り	【信頼される学 校】 ・保護者、地域、 関係機関との連 携を大切にした 学校経営	・子どもたちの小さな変化を見逃さず、きめ細やかに家庭と連携する。 ・PTA役員等との情報共有を丁寧に行い課題解決に努める。 ・地域人材を生かした教育活動や見守り活動を進める。 ・学級だより、学校だより、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。	○全校児童を全教職員で見ることと児童の小さな変化に気づき、課題解決に向け家庭と連携することができた。 ○学校公開する機会が減ったため、ホームページで学校の様子を見てもらえるよう更新を行い、発信することができた。＊ 1日平均閲覧数 約600回 ○読み聞かせやミシン、書道等の学習や登下校の見守り活動等に地域人材を積極的に活用し教育活動を進めることができた。
特別支 援 教育	・個に応じたきめ 細やかな支援体 制の構築 ・多様性の理解	・個に応じたきめ細やかで適切な指導支援を行い社会的自立ができる力を身に付けさせる。 ・特別支援コーディネーターを中心として、児童の実態把握、指導の方向性を確認し、組織的な指導を行う。 ・特別支援教育を基盤とし、互いの良さや違い、多様性を認め合い、つながりを大切に行える学級経営を行う。	○個々の児童への適切な支援を行えるよう特別支援教育コーディネーターを中心として部会やケース会議を適宜もち組織的に進め、適切な支援を行うことができた。 ○取組や行事等を通して、一人一人の良さや違いに気づいたり、互いの考えや意見の違いを認め合えたりする関係を育むことができた。
次年度に向けた改 善の方向性	1 確かな学力の育成 2 コミュニケーション力の育成 3 特別支援教育の充実 4 PTA・地域との連携による安全な教育環境づくり 5 働き方改革の推進		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立島津小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○外国語教育を重点に研究を進め、子どもたちのコミュニケーション力が向上し、他教科及び学級や全校での活動等、様々な場面において生かすことができた。 ○特別支援教育に視点を当て、落ち着いた学級経営を継続することとで、学校全体の安定を築くことができた。 ○健康管理及び感染症対策を実施したこととで、全員出席の日が大幅に増え、健康な心と体につながることができた。 △新学習指導要領のめざす授業改善や基盤となる学級経営力等教職員自らの力量を更に高めていく必要がある。		生き生きと学び、いつでもどこでも児童が輝く楽しい学校～島小の子どもたち成長のために～チーム島小 1 全ての教育活動において短期目標（合言葉）を位置づけ、「島小システム」による学校経営を進める。 2 教職員が安心して気持ちよく働ける職場にするとともに適材適所で校務を分掌させ、相互に関わり合いながら組織的に機能させる。 3 児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）	
教育課程 学習指導	・ 網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。 ・ 網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	・ 網野学園「これだけは！」を実践し、随時、肯定的評価を入れながら全校でやり切る。特に、授業編の3つの柱を授業研究会や日頃の授業とも連動させ、学びを深める。 ・ 「読む・聞く・話す・書く」の活動を授業の中で丁寧に進め、じっくり考える力を伸ばす。 ・ 学園の取組と連動して、家庭学習頑張り週間を実施し、効果を高める。自主的に学習する力を伸ばす。	○ 網野学園「これだけは！」を実践するため「ATV」「BMW」の合言葉を基に、児童の変容に繋げた。 ○ ICT 機器を活用し、視覚的な支援をしながら授業改善を行うことができた。 ○ 自主勉強の有効性を実感させ意欲的な学習に繋がった。 △ 今後も落ち着いた学級経営を継続するとともに、主体的に学び合う力を向上させていく。	
生徒指導	・ 網野学園「これだけは！」を基に、気持ちよく生活するための必要なマナーやルールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進める。 ・ 生徒指導の3機能を生かし「いじめ」「不登校」などの諸課題に対し、未然防止に向けて日常的な指導や相談活動を充実させる。	・ 生徒指導の3機能による学級づくりを進め、児童相互及び教職員との信頼関係に基づく好ましい人間関係を育成する。 ・ 全ての計画に、短期目標（合言葉）が実践できる内容を含意図的に取り入れる。 ・ 豊かな人間性を育むために、児童会活動を通して異年齢活動を進める。 ・ 日々の子どもたちの様子を全教職員で見守り、情報交流を丁寧に行うことで、「いじめ」や「不登校」の芽を逃さない。また、常に起こり得ることを想定しながら危機感を持って教育活動を進める。	○ 生徒指導の3機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、つながりを広めたり深めたりする取組を進めた。 ○ 2 カ月スパンの「合い言葉」は、児童及び教職員に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○ 全教職員で全児童を観ていくことを基本とし、共通理解のもと一致した指導をすることで、安定した学級・学校となってきた。 ○ 年度当初、学校に来にくい児童が見られたが、家庭と連携を進めながら改善した。今後も各機関や家庭と連携し丁寧に指導を続けていく。	

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づく取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、様々な取組を通して粘り強く活動する心を育てる。 ・安全な生活を営むための対応力を育成する。	・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・当たり前のことが当たり前にできる子どもを育てるために、基本的な生活習慣や日常的な学校生活、家庭学習等1日の流れの確立を目指して粘り強い声掛けと保護者連携を進める。 ・苦手なことでも互いに励まし合い粘り強く頑張ったことが「よかった」と実感できる取組を仕組み、自尊感情を高める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」について事例を教材化して考えさせ、正しく判断できるようにする。	○コロナ感染症対策として行っていた手洗い・換気について意識化が高まり欠席日数の減少に繋がった。（全児童登校 110 日 2/28 現在出席停止含まない） ○学期に 1 回ずつ行われる学級懇談会で生活点検の結果やゲーム・SNS に関する内容を取り入れて交流することができた。 △年 3 回生活点検を実施したが、課題のある児童が固定化してきている。今後、睡眠時間・メディアコントロール等の改善に向けて継続的な取組が必要である。
研修（資質向上の取組）	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行うため校内研究・研修の充実を図る。 ・特別支援教育の視点を基に、児童理解の力量を高めるとともに、支援を必要としている児童に対して、組織的な取組を進める。	・外国語教育を研究の柱とし、「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもとの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 ・評価の在り方について実践をしながら研究を進める。国立政策研究所研究協力校として進めていく。 ・ICT を活用した授業を実施するため研修を充実させ授業改善を図る。 ・児童の実態把握を行いながら、外部の専門機関と連携し特性についての知見を広げる。また、特別支援教育の視点を生かした指導・支援を行い一人一人の自立を目指した取組を進める。	○「主体的・対話的で深い学び」について研修を深め、指導の在り方を協議し互いに学び合うことができた。 △更に授業改善を進めていくとともに、1 人 1 台の端末を利用した授業改善を図る必要がある。 ○直山視学官に授業参観及び講義をしていただき意欲と授業改善に繋がった。 ○医療機関や SC や SSW と連携しながら、児童の見方や対応の仕方等、継続的な取組を丁寧に進めた。
特色ある学校づくり	・網野学園保幼小中一貫教育を基に、中学校卒業時の姿を明確にしながらか教育活動を推進する。 ・学園で連携しながら外国語教育を推進したり豊かな体験を基にした国際理解教育を実践したりする。 ・地域に学び地域とともに歩む学校にする。	・昨年度の島小システムや方向性を継続し内容の充実を図る。特に、学園の教職員で常に交流しながら目指す姿の指標を検討し、本校の教育活動においても常に意識していく。 ・外国語教育で付けたコミュニケーション力了他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。 ・教科や総合的な学習の時間等において、「琴引き浜」等様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々と交流や学びを大切にする。	○身に付けたコミュニケーション能力を様々な場面で発揮し、自分の思いや考えを堂々と表現できる児童が増えた。 ○高学年の様子から刺激を受け取り入れる学年が多く、学びが全校に広がった。 △コロナ感染症対策のため学ぶ機会が制限され、思うように総合的な学習等を進めることができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	1 新設される自閉・情緒学級を学校教育の軸にして教育的ニーズに応じた支援を適切に進める。 2 「主体的・対話的で深い学び」について更に研究を進め、学力向上を目指した授業改善及び 1 人 1 台の端末を活用し子ども達の能力・適性や興味関心に応じた最適な学びを充実させる。また、教員の ICT 活用能力の向上を目指す。 3 網野学園の教育活動の積み重ねを土台として、小中連携・小中連携を充実させ、より具体的に焦点化した取組を通して一歩ずつ改善していく。		

令和 3 年 度 学 校 評 価 自 己 評 価 報 告

学校名〔 京丹後市立橋小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学び遊ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きややりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども	評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望のもつ児童を育てる。 2 主体的・対話的で深い学びの具現化に向け、学級づくりと授業づくりを連動させ、言語活動を充実させる。	前年度の成果と課題 ○地域のつながりを大切にした活動を大切にし、児童に豊かな体験を通じた学びの場を設定することができた。 ○働き方改革を具体的に進め、会議の精選やペーパーレス化、休憩時間の確保ができた。 ○児童の興味関心を大切にした学習の展開を進めてきた。 △学習内容を定着させるために時間を位置付ける等、単元として授業を構成することに課題が残った。 △児童の自己肯定感や、主体性が低い。 △校内の授業研究として、研究授業を通じた協議の場が少なく、研究テーマの具体化が弱かった。 △保護者対応等の初期対応に課題があり、より組織的に、いねいに進める必要があった。	【教育活動の目標】 「つながり、たくましく生き抜く輝かにたちっ子」の育成 ～智慧を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ 【教育活動の具現化に向け】「たちな、つながり、プロジェクト」 た：つながろう、たくましく生き生きと ち：智慧をみがこう、知・主体的な学習者の育成 ば：場を大切にしよう、徳・豊かな人間関係を築く児童の育成 な：何事もやりぬこう、体・強い心と体をもつ児童の育成 「風通しの良い職員室」 「主体的・対話的で深い学びの授業改善」 「働き方改革の推進」「学校・家庭・地域の連携」
	評価項目 生徒指導	重点目標 1 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。	前年度の成果と課題 ○豊かな人間性を育てる。 ・生徒指導の三機能を働かせた授業や、学級経営を行う。 ・考える道徳の授業を通して多面的・多角的な考え方を育てたり、人権学習の充実を図ったりすることで豊かな人間性を培う。 ・地域とのつながりや外部講師等の活用により多様な人との関わりから豊かな人間性の素地を養う。 2 認め合える集団づくり ・特別活動部や生徒指導部の連携した取組によって、異年齢集団活動を通して豊かな関わりを経験させる。 ・認め合える集団づくりを通して、児童の自己肯定感を高める。 3 教育相談部、生徒指導部等の連携、機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・解消を行う。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 【教育活動の目標】 「つながり、たくましく生き抜く輝かにたちっ子」の育成 ～智慧を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ 【教育活動の具現化に向け】「たちな、つながり、プロジェクト」 た：つながろう、たくましく生き生きと ち：智慧をみがこう、知・主体的な学習者の育成 ば：場を大切にしよう、徳・豊かな人間関係を築く児童の育成 な：何事もやりぬこう、体・強い心と体をもつ児童の育成 「風通しの良い職員室」 「主体的・対話的で深い学びの授業改善」 「働き方改革の推進」「学校・家庭・地域の連携」
評価項目 成果と課題 (自己評価)		具体的方策 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行う。 ・算教科を重点教科とし、研究推進部を中心とした組織的な授業研究を進める。 ・単元構想シートを活用した授業づくりを行う。 ・ICTの活用により、児童の興味関心を引き出す授業展開を工夫する。 2 学力向上の取組を進める。 ・担任と専科教員、特別支援教育指導員、スクールサポートマンの連携や、外部資源の活用により、個に応じた効果的な指導を行う。	成果と課題 (自己評価) ○校内と網野学園の授業研究会を合わせて 4 回実施し、授業づくりについての研究を深めた。 ○ICTを活用した授業改善や授業中のオンライン授業等を実施し、校内で成果を共有できた。 ○地域の人材を活用した補習や、特別支援教育に関わる人的資源の活用により個に応じた指導を充実させた。 △学年により国語・算数の学力課題が大きく、十分な課題解決には至らなかった。学力の二極化に対して、下位層への補習等の場を設定しているが、授業との連携等で課題が残り、十分な成果が上げられなかった。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 【教育活動の目標】 「つながり、たくましく生き抜く輝かにたちっ子」の育成 ～智慧を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ 【教育活動の具現化に向け】「たちな、つながり、プロジェクト」 た：つながろう、たくましく生き生きと ち：智慧をみがこう、知・主体的な学習者の育成 ば：場を大切にしよう、徳・豊かな人間関係を築く児童の育成 な：何事もやりぬこう、体・強い心と体をもつ児童の育成 「風通しの良い職員室」 「主体的・対話的で深い学びの授業改善」 「働き方改革の推進」「学校・家庭・地域の連携」
評価項目 生徒指導		重点目標 1 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。	前年度の成果と課題 ○豊かな人間性を育てる。 ・生徒指導の三機能を働かせた授業や、学級経営を行う。 ・考える道徳の授業を通して多面的・多角的な考え方を育てたり、人権学習の充実を図ったりすることで豊かな人間性を培う。 ・地域とのつながりや外部講師等の活用により多様な人との関わりから豊かな人間性の素地を養う。 2 認め合える集団づくり ・特別活動部や生徒指導部の連携した取組によって、異年齢集団活動を通して豊かな関わりを経験させる。 ・認め合える集団づくりを通して、児童の自己肯定感を高める。 3 教育相談部、生徒指導部等の連携、機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・解消を行う。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 【教育活動の目標】 「つながり、たくましく生き抜く輝かにたちっ子」の育成 ～智慧を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ 【教育活動の具現化に向け】「たちな、つながり、プロジェクト」 た：つながろう、たくましく生き生きと ち：智慧をみがこう、知・主体的な学習者の育成 ば：場を大切にしよう、徳・豊かな人間関係を築く児童の育成 な：何事もやりぬこう、体・強い心と体をもつ児童の育成 「風通しの良い職員室」 「主体的・対話的で深い学びの授業改善」 「働き方改革の推進」「学校・家庭・地域の連携」

健康（体 育）・安全	1 何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。	1 体力の向上 ・体力づくりの取組などを通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。 2 主体的な児童の育成 ・児童が挑戦できる場の設定や、目標をもって取り組むための支援や肯定的な評価を大切にしたい取組を進める。 ・振り返りの場を大切に、主体的な姿勢を価値付けることで次への意欲を高める。 3 健康の維持 ・生徒指導部や養護教諭等が連携し、生活リズムを整える取組を進めるとともに、生活習慣等に課題のある児童や家庭に対して丁寧な支援を行う。	○中間休みを活用して目標をもったマラソン練習や縄跳び等、体力づくりの取組を進めた。 ○学校行事に向けた取組では、日々の振り返り活動を中心に児童の主体的な取組を進めた。 ○長期休業期間明けには、生活点検の取組を行い、家庭と連携して規則正しい生活習慣づくりを進めた。生活習慣に課題のある児童には、保護者面談の設定等を設定して改善に努めた。 △密を避ける等、コロナ禍への対応により体力づくりの取組や体育での運動量を十分に確保することができなかった。 ○△新型コロナウイルス感染症予防について指導し、基本的な予防習慣を身に付けさせるよう努めた。しかし、低学年での確実な実施には課題が残った。
人権教育	1 道徳や人権学習を充実させ、コロナ禍における	1 人権教育年間計画に沿った学習を進め、個別の人権問題にも触れる機会を大切に。 2 教職員の人権意識を高め、コロナ禍における人権的配慮についても意識した学習をすすめる。	○年2回設定している人権旬間には、学級内の人権関係の見直しや課題解決に向けた話し合いだけでなく、人権教育年間計画に沿って個別の人権問題（LGBT等）にも触れる学習を設定して取り組んだ。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大による人権侵害が起これないよう、各学級での事前指導や個人情報管理に努めた。 ○△小規模校のため、人間関係の固定化が見られ、機会毎に改善の取組を行ったが、指導の継続が必要である。
研修（資質 向上の取 組）	1 学校課題を踏まえた研修を行い、克服を目指す。	1 学校課題を焦点化し、共有化するための研修と、課題解決のための主体的な関りを生み出す研修の場を設定する。	○学力課題に対して、授業改善につながる研究を進めるとともに、診断テスト等の結果から課題を整理し、克服に向けた計画の立案等を行った。 ○特別支援教育に関わる指導や支援について、児童の実態交流や、理論研修により充実を図った。 △少人数のため、授業と学力実態の把握、指導の改善等を短いサイクルで行っていききたい。 △特別支援教育指導員のような専門性の高い教員を活用した研修を設定できず、残念であった。
次年度に向けた改善の方向性		・特別支援教育の充実と、理解教育を進めることで、児童が安心して学べる環境を整える。 ・教職員の人権感覚を高め、人権学習を柱としたより良い人間関係づくりの取組を進める。 ・児童の自己決定の場を効果的に設定し、主体的な活動の場を生み出せるよう行事・取組を工夫する。 ・校内の授業研究組織を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力課題の克服を目指す。 ・ICTを活用した授業改善や、コロナ禍における家庭教育・オンライン授業等の充実に努める。 ・来年度2月に予定されている本校での網野学園授業研究会の場を活かし、研究推進部を中心とした授業改善の動きを活性化させる。	

令和 3 年 度 学 校 評 価 自 己 評 価 報 告

学校名 (京丹後市立丹後小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 目指す学校像 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良く努力する学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校	評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ・丹後学園の研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」～生徒指導の三機能を生かして～のもと、確かな学力の育成を図る。 ・「学び合い」を通して、「わかる」「できる」を実感させ、「深い学び」につながる授業づくりを進める。	具体的方策 ・「主体的・対話的で深い学びのある」授業を目指して、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業づくりを進める。 ・各教科の授業において、自分の考えの発言や対話、言語活動を重視した指導を行う。 ・令和 3 年の京都府学校給食研究会研究推進委嘱校研究発表に向けて、特に「食に関する指導」を中心に引き続き研究を進めていく。 ・タブレット・電子黒板等の ICT 機器を効果的に活用した授業づくりを進める。	成果と課題 (自己評価) ○授業研究部を中心に、全学年で研究授業を行うなど学力向上に向けて全教職員で取り組めた。ICT 機器を活用した授業づくりも大きく進んだ。 ○京都府学校給食研究発表に向けて全教職員で力を合わせて取り組むことができた。この取組で教職員が 1 つになる事等ができ、大きな成果が得られた。児童への給食アンケートなどからでも成果が見られた。 △引き続き、学力向上に向けての様々な取組を進める必要がある。
	生徒指導	・生徒指導の 3 機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・丹後学園の生活のきまりを守り、教師が児童の良さをまわした児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、意識して伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消のために教育相談部を中心に面談等の実施を行うとともに情報を共有し、組織的な対応をチームで行う。	○学校全体が落ち着き、子ども達の挨拶の声が大きくなるなど児童の変容が見られた。 ○特別活動部を中心に、異年齢活動を行う事で、お互いの学年が学び合える良いサイクルとなった。 △教育相談部を中心に面談を実施し、不登校の未然防止や解消に努力を重ねてきたが、引き続き組織的に取り組む必要がある。

健康（体育）・安全	・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 ・困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。	・期間を決め計画的に体力向上の取組を体育の授業と運動させながら実施する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響等で運動不足にならないように、全学年体育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○中間休みの体力づくりでは、3密を避けるために3グループに分けて、ストレッツ、リズム運動、5分間走のエクササイズ大会において、目標を持たせながら取り組めた。当日は、参加者全員が走り切ることができた。 △コロナ禍で運動会やスケート教室、駅伝大会や等が中止となったり、大縄大会等の異年齢活動等が規制せざるを得なかった。
危機管理	・3つの安全（生活・交通・災害）を大切にし、安心安全な学校生活を送らせる。	・登下校時のこここカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 ・登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などを行うことで教育環境を整える。 ・新型コロナウイルス感染症予防の対策を徹底し、児童が安心して学校生活が送れるようにする。	○感染予防に向けて、年間を通して全校舎の換気や消毒を行い、マスクの着用や手洗いなどの感染予防に努めてきた。 ○登下校時等に、こここカーによる校区内の巡回指導や学校支援ボランティアとの連携を行う事により、交通事故の発生を抑えることができた。
開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすいタイムリーな情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。	・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する。 ・無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。 ・また関係諸機関等との連絡を密に取り協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書の興味を高め本好きな児童を増やす。	○学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する事ができた。 ○△コロナ禍の中で、多くのPTA行事などが中止せざるを得ない中ではあったが、できる形で工夫してPTA活動を行う事が出来た。 △緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外部人材の活用がかなり制限された。
次年度に向けた改善の方向性	・生徒指導の3機能を生かした「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり」をすすめる。 ・児童の主体的な活動を通して、意欲と自己肯定感を高める。 ・丹後学園の指導の重点でもあるコミュニケーション能力の育成をさらにすすめる。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立宇川小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子ども们的育成 ○目指す子ども像 (1)言葉で伝え合い、主体的に学ぶ子(知) (2)自分を大切にし、人を思いやれる子(徳) (3)粘り強く身体を鍛える子(体)		○重点教科を国語科とし、学力の伸長を目指した授業研究をはじめとする取組を実施できた。また、読書活動の推進や家庭と保護者と連携した家庭学習定着の取組など、学力の基盤づくりに積極的に取り組んだ。少人数の良さを生かした学級経営や全校体制での教育活動を推進できた。 △学力についてはまだまだ課題が大きい。引き続き、誰もがわかる喜びやできる楽しさを享受できるような授業改善を追究するとともに、ICT利活用による新しい学習形態についても研究を進める必要がある。 ○素直で優しい児童の育成が進んでいる一方、積極性に欠けたり指示待ち傾向が見られたりするところは、今後の課題である。 △コロナ禍にあって学園・地域と連携した取組には一定の制約がかかり、例年通りにはできないことが多かった。		◇へき地・小規模校の特性を生かし、地域と連携した特色ある学校づくりを行う。 ◇新学習指導要領の目指す学力の定着を目指し、さらにICT機器を利活用した授業改善に全校体制で取り組む。また、学力の基盤づくりの取組を引き続き行う。 ◇子どもたちにとって安心・安全な居心地の良い学校運営に努める。(いじめの解消、不登校の未然防止) ◇特別活動や異年齢活動など子どもたちが活躍できる場面において、主体性・積極性を育み、互いを思いあえる楽しい教育活動を推進する。 ◇丹後学園として縦横の連携を大切にしながら、0～Ⅲ期までを見通した保幼小中一貫教育を推進する。
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策		成果と課題 (自己評価)
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 「できる喜び」「わかる楽しさ」を実感できる授業、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指し、学力の定着・向上を目指す。 2 少人数であることの特性を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指す。	1 国語科を重点教科とした授業研究を全学年で実施し、成果と手法を全ての授業実践に波及させることで、児童一人ひとりの確かな学力を育成するための授業改善を進める。 2 個々の学力課題を丁寧に分析し、児童の困り感に寄り添った指導を推進する。 3 読書活動、家庭学習、ドリルタイムの充実などを図り、学力のベースづくりを継続的に行う。		○全学年において研究授業を実施し、指導の系統性を確かめながら深く読み取る国語科の指導方法とタブレット端末の活用について研究を深められた。 ○“かがやきノート”や“計算チャレンジ”に取り組んだ。家庭学習の取り組み方に向上が見られたり、計算力向上の学級目標を達成できた学級が多くあったりした。 △全校的には『読むこと』に関する課題がまだ残る。より効果的な授業改善を進める。
	1 生徒指導の3機能を活かし、自己有用感と自己肯定感の醸成を図るとともに、進んで学校生活に係ろうとする態度を育成する。 2 人権意識の高揚と規範意識の醸成を目指す。	1 特別活動や異年齢集団活動を通して、互いを認め合うことのできる望ましい人間関係を構築させる。 2 人権に関する研修を充実させアンテナを高く張りつ、いじめ防止基本方針に則った取組を年間を通じて行うことで、いじめの早期発見・解消と安心できる友達関係を構築させる。 3 あらゆる場面で規範意識の醸成を図る指導を取り入れる。		○異年齢集団活動を年間通して計画的に仕掛け、学年間での交流や協力する取組を行い、豊かな人間関係づくりを進めることができた。 ○定例のいじめ対策委員会では、アンケートや日常の観察を元に児童の様子を共通確認し、いじめの芽を摘むよう組織的に行動できた。 △自己肯定感が低かったり自己表現が苦手な児童に對して、より対策を工夫したりする必要がある。

健康(体育)安全	1 体力の向上と基本的な生活習慣づくり 2 安全に生活するための知識と判断力を身につけさせる。 3 将来の夢や希望に向かって何事にも粘り強く取り組むことのできるこころとからだを育てる。	1 全校一斉での体力づくりの取組や外遊びの奨励、体育科の指導を通して運動に親しみ、体を動かすことで体力の向上を図る。「げんき貯金」の取組を計画的に行い、望ましい生活習慣を身につけさせる。 2 日常の学校生活の中で健康に関する取組を継続して行い、健康に関する知識と判断力を身につけさせる。 3 キャリアパスポートなどの活用で、自分の将来に目を向けさせ、目標に向かって日々努力する大切さに気づかせる。	○中間マラソンや中間なわとびに取り組み、校内タイムトライアルや短縄発表会に向けてスキルや体力の向上を全校体制で進めた。遠泳大会は校内水泳検定として実施し、スキルと泳力の向上を図り、ほぼ全員が目標を達成できた。 ○“げんき貯金”の取組では、一人ひとりの課題に目を向けながら基本的な生活習慣の確立を図り、結果について学年ごとにお便りで啓発した。 △外遊びをする児童が少ない。
特別支援教育	1 個別の教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に推進する。 2 理解教育を推進する。	1 サポート委員会(特別支援教育部+教育相談部)を中心とした組織的で継続的な支援体制と見守り活動を行う。 2 個別の指導計画・支援計画等に基づいた指導を、年間を通して行う。 3 関係機関との連携を密に取りながら、支援の必要な児童に対する効果的な指導について研修を進める。	○配慮を要する児童について組織的に把握するとともに、指導方法について共通確認して指導した。 ○学校・家庭からの児童支援について、懇談の機会を持ち合理的な配慮について同一歩調で進められた。 △個別に支援が必要な児童に対し、体制的に支援の幅が広がらなかった。
特色ある学校づくり	1 僻地・小規模校の特性を生かして地域と連携した教育活動を進め、ふるさとを愛し未来を展望できる児童を育成する。	1 総合的な学習の時間や生活科の授業などに地域教材・地域人材などを活用した学習を取り入れる。地域とのかかわりを学習活動に位置付け、地域社会との交流や情報発信に努める。	○「児童の学びを止めない」を合言葉に、ほぼ全ての行事を中止にすることなく、できる形で実施し、児童の達成感や満足感が得られるよう、小規模校ならではの工夫ができた。 ○タブレット端末の活用について、授業内だけでなく家庭への持ち帰りも全学年で推進した。
次年度に向けた改善の方向性	◇児童一人ひとりの丁寧な状況分析をもとにした学びについて研究推進する。 ◇今年度もコロナによる教育活動の制限などがあり、地域との交流や校外での学びの機会が持ちにくい状況が続いた。今年のようにできる形を模索しながら『児童の学びを止めない』教育活動を進める。 ◇ICT活用をさらに推進し、丹後学園での連携を重視しながら、へき地・小規模校ならではの取組を推進する。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立吉野小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。	1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。	○どの学年も、生徒指導の3機能を生かし、落ち着いた学級経営と授業づくりを進めることができた。 ○コロナ禍ではあったが、学園の授業研究会の取組を活用したり、外部講師を招いたりして校内研修を充実させることができた。 ○学習評価の在り方に関する校内研を実施し、新学習指導要領に示された目標を意識して児童の学習評価をすることができた。 △児童の読解力を高めるために、さらに読書活動の充実を図る。 △ICTの効果的な使い方を交流し、日常的に授業の中で有効に活用していく。		1 落ち着いた学級経営と効果的な授業づくりを進めるために、生徒指導の3機能を意識した授業を行う。 2 主体的・対話的で深い学びにつながる授業を行い、児童の学力の向上を図る。 3 家庭・地域・関係機関との連携を深め、特色ある学校作りを進め、郷土を愛する心を育てることにより「生きた力」の育成に努める。 4 ICTの効果的な活用をすることにより、ユニバーサルデザインの授業を行い、発達課題のある児童も意欲的に学習に向かえるようにする。	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりの推進 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体化させた指導を推進する。 (1) 特に1学期は授業スタイルの定着とともに、落ち着いた学習環境を整える。 (2) 授業づくりを通して学習意欲の向上を図る。 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践を進め、教員の指導力の向上を図る。 (1) ICTの効果的な活用を研究する。 (2) 出前講座を活用する。		○●どの学年も、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを意識して取り組み、概ね落ち着いた学級経営を行うことができたが、一部の学年で、2学期終わり頃より教員と児童の関係がうまく結ばなくなり、生徒指導部を中心に、全校体制で関係が改善するように努めた。来年度はさらに児童理解を図り、指導方法について研修を行うようにする。 ○全学級研究授業に取り組むことができた。また、センターの出前講座を2度実施し、授業づくりの具体について学ぶことができた。 ○●ICTの活用については、どの学年もできたが、さらに効果的な活用については、今後も引き続き研究を続ける必要がある。 ○読み聞かせ・本の紹介などの取組を進め、読書に親しむ児童が増えた。	

生徒指導	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営の推進 2 いじめ・不登校の未然防止 3 良好な人間関係づくり	1 自尊感情の育成 生徒指導部を中心に生徒指導の3機能を生かした学級経営を意識した取組を行う。 2 いじめ等の未然防止・規範意識の高揚 (1) 教職員の人権意識を高める研修をする。(児童の実態交流を通して) (2) 情報モラルの指導・法やルールに関する教育等を行う。 3 望ましい集団活動や体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。	○生徒指導部を中心に、生徒指導の3機能を生かした学級経営についての校内研修を行い、指導の経過を交流すること、若い教員の人材育成をすることができた。 ○いじめの早期発見に努めることができたが、取組を進めても、改善に長期間かかる事象もあった。 ○情報モラルの学習は、講師を招き全校で実施することができ、身近なゲームなどについても、具体的に学ばせることができた。 ●コロナ禍で実施できない活動もあったが、できる範囲で行事や異年齢活動を行い、学年の枠を超えた集団活動に取り組むことができ、コミュニケーション能力を育てることができた。
健康(体育)・安全	1 食育・健康な心と体づくりの取組推進 2 危機管理意識の高揚と事故の未然防止	1 コロナウイルス感染対策を徹底させ、食育の推進と、年間を通じた体力づくりを進める。 2 校内研修を行い、教職員の危機管理意識を高めるとともに、報告・連絡・相談体制の徹底を図り、早期発見・早期対応に努める。	○コロナウイルス感染対策を徹底させることにより、検温・マスクの着用・手指の消毒などを習慣化させることができた。 ○児童の些細な変化を共有することにより、組織で対応することができた。
特別支援教育	1 特別な教育支援が必要な児童の課題・障害に応じた支援や、指導方法の改善 2 家庭や関係機関との連携	1 必要な児童の教育支援計画・個別の指導計画を整備し、保護者と共通確認のもと指導に当たる。 2 理解教育を計画的に進めるとともに、特別支援教育に関わる研修を行い、児童の指導に生かす。	○必要な児童について、複数で定期的な保護者面談を行い、外部専門機関との連携を図り指導にあたることができた。 ○特別支援コーディネーターを中心に、理解教育を進めることができた。 ●特別支援の必要な児童が、年々増える傾向にある本校では、保護者・外部専門機関との連携がさらに必要である。
特色ある学校づくり	家庭・地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	1 地域の伝統や校風を大切に、本校の特色である異年齢集団活動の充実を図り、教育活動に生かす。 2 郷土への愛着と誇りを育む。 (1) 保護者・地域人材の積極的な活用を図る。 (2) 丹後学を通して総合的な学習の時間を充実させ、郷土を愛する心を養う。	○家庭・地域の協力を得て、田植えなど異年齢で体験できた行事もあるが、新型コロナウイルス感染予防のため、体験できなかったこともあった。しかし、できる範囲で郷土を愛する心を育てるために、農業・丹後ちりめん・赤米など、地域人材に指導を受けながら総合的な学習を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・生徒指導の3機能を生かした授業づくりを通して、安定した学級経営ができるように組織で取組を進める。 ・ICTの効果的な活用をさらに進め、授業改善を図る。 ・発達課題のある児童に対して、外部専門機関との連携を図り、本校の実態に応じた適切な特別支援教育を進められるようにする。		

告 報 値 評 已 自 値 評 校 學 度 和 3 年 令

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子		○単元に効果的に位置付けた言語活動を推進し、校内の掲示物や児童発表にはその成果がよく表れた。 △園小連携の交流活動では、小学校側の指導の視点から活動を進めたため、年長児側からの交流の目的が不明確となった。 ○生徒指導の3機能を重視した特別活動を実施することで、学級内のコミュニケーションが深まり、問題事象は例年より減少した。 ○「感染症対策の基本」を作成し、「授業や活動を通じて定着させる」ことで、健康に関する児童の意識が高まり、体調不良による欠席者は例年より減少した。 △コロナ禍でSUN・インターネット利用者が増え、それによるトラブルや睡眠不足等の問題が起こっている。		確かな学力の育成 いじめ・不登校の未然防止 健やかな身体力の育成 特別支援教育の充実 特色ある学校づくり	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実 2 各教科等における言語活動の充実 3 学園課題・学校課題克服に向けた保幼小中一貫教育の推進 4 効果的なICT利活用の推進	① 学力調査における質問紙調査と教科結果の関連性・学力結果の推移等を分析し、支援が必要な児童により重点的な指導を行う等の効果的な指導を推進する。 ② 子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む授業を推進する。 ③ 教科間や学級間を越えた意図的、計画的な言語活動を推進する。 ④ 保幼小中一貫教育の接続学年における一貫性・連続性のある指導を推進する。 ⑤ 教育活動の基盤的なツールとして活用できることを目指し、児童がICTを日常的に活用できる環境づくりと並行してICTを活用した授業づくりを推進する。		○各種学力検査結果を分析し、課題を中心に教員全体で共通理解を図り、学力補充の取組につなげた。 ○どの学級も単元のまとめ学習には言語活動を取り入れることが多かった。そのため学級間で学習のまとめを発表し合う等の取組が頻繁に行われた。 ○どの学級もタブレットを活用した授業に取り組み、すべての児童がタブレットの活用に関わり親しんだ。特に高学年においては、その長所を生かして授業以外の活動にも活用していた。 △保幼小中一貫教育の1・6学年の交流活動は、目的が明確なため、コロナ禍においても内容を工夫しながら実施することができた。しかし、他学年については目的が曖昧になり活動ありきの交流となった。	
生徒指導	1 自己有用感の育成 2 不登校やいじめの未然防止、解決に向けた早期発見・早期対応	① 生徒指導の3機能を生かした学級経営を基盤に、自分の存在が確認でき、自己有用感を高め合えるような異年齢関係を育てる取組を推進する。 ② 日常的に会議や職員室で児童の実態交流を行い、児童の不応を少しでも早く発見し、問題が複雑かつ困難になる前に、チームによる支援につなげる。 ③ 保護者面談・家庭訪問等を積極的に行うことを通して直接、間接に信頼関係を積み重ね、問題行動の早期発見・早期対応につなげる。 ④ 気になる児童については、積極的にアセスメント(見立て)を行い、なぜそのような状態に至ったのか、児童の示す行動や背景や要因、情報を収集して分析し、明らかにする。		○学校行事を中心に異年齢集団による取組を感染症対策を講じながら工夫して実施した。学級経営の成果が各取組で生かされるとともに、各取組が学級児童の仲間意識をさらに高めるといったサイクルにつながった。 ○職員会議では毎回児童の実態交流を行い、報告された児童については教育相談部等の対応につなげた。 △本校の問題事象の多くは、発達障害に係る場合が多い。今後も教員の専門的知識・技能の向上を図ると同時に丁寧な対応等を進めていく必要がある。	

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 体力づくりの推進 2 健康課題への対応	① 自己のめあてをもって楽しく安心して運動に取り組めることを基本にした運動量のある体育授業を推進する。 ② 新体力テスト結果の分析から本校における課題を把握し、課題となる運動能力を高めるための取組を推進する。 ③ 感染症対策を切り口に、健康に関する事項についての正しい知識とそれに基づき望ましい行動化を目指し、全ての教育活動に感染症対策の視点を取り入れた取組を推進する。	○本校の実態に応じた「感染症対策の基本」を学級指導や特別活動等の行事や取組に反映させた。「授業や活動を通じて理解させ定着を図る」ことで、健康に関する児童の意識が高まった。 ○運動等が制限される中でも、体育においては活動内容を工夫して一定の運動量を確保することができた。 △新体力テストの分析が十分行えなかったため、課題となる運動能力を高めるための視点を教科体育に計画的に取り入れることができなかった。
特別支援教育	1 切れ目ない支援の充実 2 バランスの良い集団指導と個別支援の充実	① 個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用し、学校と保護者が将来を見据え、協働して児童を支えるための指導・支援を進めるとともに、学級担任以外の教員等と共通理解を図り、その協力を求めるための効果的なツールとして活用を図る。 ② 中学校への適切な引継ぎを進めるために、関係教職員による互いの学校見学や、児童・保護者の中学校見学の機会を設ける。 ③ 日常的に通常学級担任等と通級指導担当と情報を共有し、通級による指導を通常学級での指導に生かす視点を持たせる。 ④ 生徒指導部と連携し、未然防止の観点から個別支援と集団指導の2つの視点での対応を進めるとともに、発達障害等について考慮すべき事象に関しては、指導により自覚を促すやり方ではなく、きっかけや前後関係も含めて要因を分析し、児童の適切な行動変容へとつなげる。	○SSW、SC等の活用による多角的なアセスメントを行うことで、児童への対応の幅が広がっており、教員の人材育成の場となっている。 ○中学校と定期的に情報交換を行い、支援体制の状況把握に努めた。進学における引継ぎについては、管理職と連携して関係者による連携や相談・検査・保護者懇談等が年間を通して実施できるようにする。 △問題事象等が発生すれば、多くの教職員が関わり丁寧に対応できるが、その過程では行為や該当児童に目が行きがちで、対処療法的な指導となっている。
特色ある学校づくり	1 郷土の素材を生かした学習活動の推進	① 地元産食材や郷土食に係る学校給食を切り口に、食に関する知識や体験を広げ、食の選択や判断ができる力を育成するための取組を推進する。 ② 地域学習や地域人材を活用することを通して、学校と連携・協働する。	○感染症対策のため地域人材の活用等に一定の制限はあったが、総合的な学習の時間や社会科等での学年も地域人材を活用した学習活動を計画し、その成果を発表会で報告することができた。 △感染症対策もあり、計画していた食に関する取組が年間を通して実施できなかった。
次年度に向けた改善の方向性	①働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。 ②信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を心がけるとともに、危機管理意識を全教職員がしつかり持ち、日々の教育活動に取り組む。 ③保幼小中一貫教育を最大限活用して不登校の未然防止や予防を意識した学校の取組を進める。		

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標【久美浜学園全体】 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 目指す子ども像【久美浜学園全体】 (1) 意欲的に質の高い学力を身に付けようとする子ども(知) (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心を持つ子ども(徳) (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども(体) 重点目標【久美浜学園全体】 「意欲的に生活・学習に取り組む子どももの育成」 ～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～ 指導の重点『学力の向上』 ①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長 ③家庭学習時間の確保 校訓「一生懸命」を意識した教育活動の推進	評価項目 教育課程 学習指導 生徒指導	「目標の明確化」「相互の関わり」「肯定的評価」を常に意識する。 ○落ち着いた学習環境づくりを基本とし、学習内容の基礎基本の定着を図ることができた。また、ICTの活用等による学習意欲の向上や視覚支援等の指導の工夫を見出すなど、授業改善を進めることができた。 ○学校に来にくい児童についても、落ち着いた学級経営や家庭との連携を丁寧に進める中で、改善が見られる児童が増加した。 △「学力の向上」及び「主体的に学ぶ力」の育成を目指し、生徒指導の三機能を生かした学級づくり、学習内容の確実な定着させる授業づくりを行う。 △教職員の授業準備や研修の内容充実、時間確保を進め、教職員自らの授業実践力や学級経営力の向上を進める。	目指す学校像【久美浜小学校】 「児童の学びを高め合い、家庭・地域とつながる学校」 目指す児童像【久美浜小学校】 「つながり、たくましく 生きぬく」久美っ子 ～将来の社会的自立へ～ 特色ある学校、を目指す。 ①「主体的・意欲的に学習する児童」の育成 ＝「主体的な学び」 ・「対話する力」を「深い学び」へ ・「わかつた喜び」を大切に ②「地域とともにある学校」づくり ・子どもの元気を地域に ・学校、社会教育、地域との連携、協働 (PTA、公民館、区等) ・久美浜を支える人づくりの取組 ③本物に触れ、出逢う「社会に開かれた教育課程」推進 ・外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験等 ・ICT (電子黒板、タブレット等) を効果的に活用した授業	
保幼小中一貫教育の諸計画 各学年の重点等を基盤として		具 体 的 方 策 「主体的・意欲的に学習する児童へ」 ①「主体的な学び」を目指す、その根本となる基礎基本の定着を図る「わかつた喜び」の活用等 ②ICT(タブレット)の活用等を関連付けた研究を目指す。 ③見える学力としての12月のDRTの結果(標準得点)を昨年度よりも学級平均の向上並びに個人別に伸ばす。 ④「本物に触れ、出逢う【社会に開かれた教育課程】」外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験等 ⑤地域の人的物的資源を有効に活用させていただく。クラブ活動、授業の外部講師、学習支援ボランティア等	成果と課題 ○10月学園授業研究会を通して授業改善を図り、授業力向上の学び合いを深め、研究が進んだ。 ○「本物に触れる教育」を推進(地域人材を講師に招待) ○「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、外部の方の声を学校経営に生かすことができた。(学校評議員、民生委員、保護者の声) ○学校目標を常に振り返り進行管理を行った。：毎月評価 △コロナ禍で1、3学期と外部の方の学校への規制がかかり人的資源の有効活用が困難であった。さらなる授業改善の推進、課題解決学習につながる個別指導を図っていく。今後、地域資源を有効に子ども達に還元していく。	
生徒指導	豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合おう。	生徒指導3機能を土台とした学級経営 指導の重点化～五作り～「学び高め合う授業」と「支え認め合う学級」 ① 生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業作り ② 児童の居場所・絆づくり(集団、体験活動) ③ 不登校傾向、いじめ等を全校一致した組織的指導 ④ 特性、学習進度に応じた個別最適な学びの場作り	○学校目標「つながり」と学級経営、学校行事が一致した協働的な動きができ、学校が1つの方向で動くことができつつある。結果、児童、教職員とも2語のキーワードを意識できた。○不登校傾向児童がゼロのまま今年度も推移し、教室へ向かうことができた。○家庭的に支援を要する子ども学校に慣れ、教室では楽しく過ごせた。○いじめ事象もなく一定安定し全教職員できめ細かな指導ができた。○あいつを身に付けていることができなかつた。(地域の方からの声) △コロナ禍で互いに協働し合う行事活動が制限され、自治的な活動が抑制された。	

 各学園の重点等を基盤として
 保幼小中一貫教育の諸計画の重点等を基盤として

健康(体 育)・安全	何事も最後まであきらめず にやり通すたくましい強い 心を育てる。	目指す児童「たくましい 久美っ子」につながる具体策 ①掃除を協力してする子どもを育てる。・根気強く、一 つのことを最後まで協力して行う態度を育てる。 ②日常生活を当たり前にやり切る子どもを育てる。 ③基本的な生活習慣、家庭学習、日常的な学校生活等、 いろいろな事に挑戦し目標を持って取り組む子ども を育てる。(校内外各種大会、コンクール等) ④運動に親しみ、体力の向上を図る。(朝マラソン等) ⑤家庭と連携し、基本的な生活習慣、望ましい食習慣の 育成を図る。	○「あいつつくろうよ」等キヤッチフレーズで伝統的な生 徒指導の取組が本校の強みとして生かされ続けている ○全児童が長欠なし、不登校傾向なし等安定した出席日数 であった。(昨年度に続き、長欠児童の報告なし) ○安心安全な環境作りが進んだ。(事故災害報告なし等) ○人間関係を良好に保った。(学校評価アンケート高い率) △コロナの影響で、マラソン、駅伝、大縄跳び、朝の体力 作り等体力向上策が制限された。 △学園の家庭学習がより一層長期休業後の生活習慣が 課題に残り連携を一層図る必要がある。 ○「地域」とともにある学校作りが2学期は若干進んだ。 ・外部講師の依頼(水源の森調査活動、牡蠣の学習、しめ 縄作り、チーム遠足時の校外での学習、保育所との連携、 お茶会、読書ボランティア 他) 地域に子ども達の元気 を発信 ○職員研修で「地域」をテーマに学園全体での研修が深ま った。 △コロナ禍の影響を受けたが、社会に開かれた教育課程を 次年度生活科、総合を核に一層進めていく。
開かれた 学校づく り	社会に開かれた教育課程 の実現に向けたカリキュラ ムマネジメントの推進を図 り「地域とともに育つ学校」 を目指す。	特色ある学校「地域とともにある学校」づくり ① 子どもの元気を地域に発信する ② 学校、社会教育、地域との連携、協働 (PTA、公民館、民生委員、区 等) ③ 「久美浜を支える人づくり」の取組 ④ 情報を関係機関、家庭・地域に適切に提供し信頼され る学校づくり	○区長会、自治会、民生委員、公民館各種地域の団体との 連携協働が進み、学校と地域とのつながりが深まった。 ○ホームページ更新を2学期以降進めアクセス数がアッ プした。 △今後も家庭との連携を丁寧に進める。(学校評価アンケ ート 授業の様子がわかりにくい評価が15%低下) △授業参観が年間2回の実施に終わり、コロナの影響で保 護者理解が弱く次年度に課題を残した。 △児童会行事のさらなる斬新な動きの発信と更新 △ホームページ更新を進める。
特色ある 学校づく り	学園目標「ふるさとを愛 す」学校として、「家庭・地 域とつながる学校」を目指 す。	① 家庭・地域社会と連携を図り、教育活動の推進、健 全育成に努める。 ② 学校や担任の教育方針(願い)が一層見える学校だ よりや学級通信になるようにする。HPの更新を定 期的に行う。また、授業参観、PTA会議、懇談会等 で積極的に情報の公開を行う。 ③ 「久美っ子見守り隊」の活動の充実・発展をめざす。 ④ 外部アンケート、学校評議員会議等を行い、学校運 営の改善に生かす。 ⑤ チーム教職員、協働性の推進に向け、「目指す児童 像」に向けPDCAサイクルで検証。 ⑥ 新型コロナウイルス感染症に配慮し今年度ならで はの有機的な実践。 ⑦ 児童主体の企画・運営を率先し取り組ませる。	○「あいつつくろうよ」等キヤッチフレーズで伝統的な生 徒指導の取組が本校の強みとして生かされ続けている ○全児童が長欠なし、不登校傾向なし等安定した出席日数 であった。(昨年度に続き、長欠児童の報告なし) ○安心安全な環境作りが進んだ。(事故災害報告なし等) ○人間関係を良好に保った。(学校評価アンケート高い率) △コロナの影響で、マラソン、駅伝、大縄跳び、朝の体力 作り等体力向上策が制限された。 △学園の家庭学習がより一層長期休業後の生活習慣が 課題に残り連携を一層図る必要がある。 ○「地域」とともにある学校作りが2学期は若干進んだ。 ・外部講師の依頼(水源の森調査活動、牡蠣の学習、しめ 縄作り、チーム遠足時の校外での学習、保育所との連携、 お茶会、読書ボランティア 他) 地域に子ども達の元気 を発信 ○職員研修で「地域」をテーマに学園全体での研修が深ま った。 △コロナ禍の影響を受けたが、社会に開かれた教育課程を 次年度生活科、総合を核に一層進めていく。
次年度に向 けた改善の 方向性	目指す児童「つながり、たくましく、輝く 久美っ子」像の具現化 重点 生活・総合の研究推進を核に、全ての教育活動において、「つながり、たくましく、輝く」久美っ子を育み、将来の社会的自立へ 強みを生かす久美小 1. 地域・保護者の支えを生かした教育活動の推進(下記:「本物に触れ、出会う教育課程」) 2. 生活総合で外へ発信、外から中へ(クラブ活動も、読書ボラ、保護者授業、見守り隊、等) 3. 安定した学級経営を進める。 : 生徒指導の3機能を生かす 4. 特性を踏まえた支援の充実 : 個別最適な学び 指導の個別化 + 学習の個性化 5. 斬新で、支え・相談し合える風通しの良い職員室を目指す。 6. ICT活用を今までの以上に推進 : 例 家庭とオンライン、児童朝会、健康教育、保護者アンケート 不登校傾向のゼロ維持のスキルを継続発展 : 皆で個々の児童を見る	目指す児童「つながり、たくましく、輝く 久美っ子」像の具現化 重点 生活・総合の研究推進を核に、全ての教育活動において、「つながり、たくましく、輝く」久美っ子を育み、将来の社会的自立へ 強みを生かす久美小 1. 地域・保護者の支えを生かした教育活動の推進(下記:「本物に触れ、出会う教育課程」) 2. 生活総合で外へ発信、外から中へ(クラブ活動も、読書ボラ、保護者授業、見守り隊、等) 3. 安定した学級経営を進める。 : 生徒指導の3機能を生かす 4. 特性を踏まえた支援の充実 : 個別最適な学び 指導の個別化 + 学習の個性化 5. 斬新で、支え・相談し合える風通しの良い職員室を目指す。 6. ICT活用を今までの以上に推進 : 例 家庭とオンライン、児童朝会、健康教育、保護者アンケート 不登校傾向のゼロ維持のスキルを継続発展 : 皆で個々の児童を見る	目指す児童「つながり、たくましく、輝く 久美っ子」像の具現化 重点 生活・総合の研究推進を核に、全ての教育活動において、「つながり、たくましく、輝く」久美っ子を育み、将来の社会的自立へ 強みを生かす久美小 1. 地域・保護者の支えを生かした教育活動の推進(下記:「本物に触れ、出会う教育課程」) 2. 生活総合で外へ発信、外から中へ(クラブ活動も、読書ボラ、保護者授業、見守り隊、等) 3. 安定した学級経営を進める。 : 生徒指導の3機能を生かす 4. 特性を踏まえた支援の充実 : 個別最適な学び 指導の個別化 + 学習の個性化 5. 斬新で、支え・相談し合える風通しの良い職員室を目指す。 6. ICT活用を今までの以上に推進 : 例 家庭とオンライン、児童朝会、健康教育、保護者アンケート 不登校傾向のゼロ維持のスキルを継続発展 : 皆で個々の児童を見る

令和3年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔 京丹後市立高龍小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — 1 基礎・基本の徹底 2 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) 3 家庭学習時間の確保		○学級経営や授業が成り立たなくなっている状況から一定脱することができ、落ち着いて話を聞いたり我慢強く学習に向かったりできるようになってきた。 △学級や児童によって学力の差が大きくなり、引き続き、児童が分かる・できる授業づくりの推進と、基礎的学力の定着が重要課題である。 △児童の指導をめぐる保護者対応で困難になるケースがあった。		◎『しっかり勉強・やさしい言葉』＋考えて行動 ○安心感のある学校 …勉強が分かる・できる、いじめがない ○期待感のある学校 …学校が楽しい、友達と遊べる ○考える力を伸ばす …自ら学ぶ・友達と関わる授業、読書
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	①児童が見通しを持ったり、できたことや分かったことを振り返ったりすることができている授業づくりを、ICTも活用しながら進める。 ②全校体制で個に応じた指導・学力補習体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 ③身に付いた知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を育成する授業を進める。	①タブレット端末や電子黒板等、ICTを有効に活用し、学習課題に見通しを持ち、授業の終末でできたことを振り返り、学力の定着を図る。 ②朝ドリル、放課後補習を設定し、全校体制で基礎学力の伸長を図る。また、ジュニアわくわくスタディ、学習支援ボランティアを有効に活用する。 ③校内・学園での授業公開、研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを進め、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。	○令和2年度より学園で先行してタブレット端末を活用しており一人一台端末へスムーズに移行できた。児童、教員のICT活用スキルが高まっている。 ○府学力診断テスト、CRT等において、基礎学力の充実の一定の成果が見られた。 ○低・中・高学年の算数科の授業研究、各ブロックの授業公開の取組により授業力の向上につながった。 △学年末に行ったDRTにおいては各学年で国語の課題が顕著に表れた。指導を見直すことや児童の、読む力、書く力、話す力等を高める授業や全校的な取組が必要である。	
	生徒指導	①自分や友達のよさを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ②友達の名前を正しく呼び、発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する。	①全教職員で全児童を見ることを基本とし、児童のよさやがんばりを積極的に見取って肯定的な評価をしたり、児童の不安や気になる様子等を把握したりする。 ②①を基盤としながら、友達同士の優しい言葉かけ、正しい名前での呼び方を定着させ、自己肯定感を高めることにより、いじめや不登校を未然に防止する。 ③「考えて行動する」ことを促し、その時々で望ましい言動について常に考えさせる。全校共通の月目標の取組を基盤として、目標設定、振り返りに基づく学級経営を進める。	○生徒指導部会で児童課題を共有し、各学期に全校目標を設定し、目標⇒取組⇒振り返りのサイクルで取り組んだ。全体的に落ち着いた学校生活や児童が考えて行動することにつながった。 ○教員の児童に対する肯定的で前向きな声かけを継続して行うことで、一人一人の児童の自己肯定感を高めることにつながった。 ○いじめ防止委員会を定例的に行い児童の気になる様子を共有した。また、いじめアンケート結果を全体で共有し早期発見や未然防止につながった。 △不登校児童(傾向を含む)については個別にケース会議を開きSC、SSW等と連携しながら取り組んでいるが、より深刻になっているケースもあり課題を残している。

保 幼 小 中 一 貫 教 育 の 諸 計 画 及 び 各 学 園 の 重 点 等 を 基 盤 と し て

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体 育）・安全	①感染症予防を基盤として、全校体力づくりの取組、運動会、マラソン大会等の行事等を通して、体力向上を図った り、粘り強く挑戦する心と体を養ったりする。	①感染症予防については、保護者・家庭に理解を得て、引き続き基本的な予防を、管理職が養護教諭と連携し責任を持って全校体制で行う。また、スクールサポータースタッフも有効に活用する。 ②インターネット、情報機器の使用について、情報モラル教育、各種資料の活用等を行い、家庭と連携して望ましい使い方を指導する。	○感染症予防については、これまでの経験を生かし、運営会議（三者）で方針を検討し全体で共通理解を図りながら進めることで、全体的には大きな混乱を招くことなく対応できた。 △タブレット端末の家庭での活用も進んだ。今後も児童への適切な活用に関する指導と共に、教職員の情報モラルの研修も必要である。
(A) 人権教育	①教職員の人権意識の向上を図り、一人一人の児童を大切にした教育活動を推進する。 ②人権学習の授業実践力を向上させる。	①職場人権研修担当を中心として、人権研修ハンドブック、コンプライアンスハンドブック等を活用した研修を充実させる。 ②人権月間を設定し、人権学習の指導内容について交流するとともに、校内、保護者に対して授業公開を行う。	○「やさしい言葉」を設定し年間を通して意識して生活すること、児童のトラブルは減っている。 ○人権月間を設定して保護者等へ授業を公開した。また、校内研修を行い様々な人権課題について学んだり児童の課題を共有したりした。
(B) 特別支援 教育	①特別支援教育を学校経営の重点課題に位置付け、児童の課題に応じた特別支援教育を推進する。	①新規開設した「自閉症・情緒」特別支援学級の指導について、全教職員で理解を深めるために研修を行う。特別支援教育コーディネーターを中心に、教育支援部会を定例化し、児童の実態・課題を見落としさないようにする。	○新設した特別支援学級（自閉症・情緒）については、特別支援教育コーディネーター、担任、管理職を中心に、保護者と連携しながらスムーズにスタートできた。該当児童の確かな成長にもつながった。
次年度に向けた改善の方向性	・児童の「読む力」「書く力」「伝える力」等が高める授業づくりを進めたい。 ・一人一人の児童が学年や発達等に応じて、自分で「考えて行動する力」を伸ばして行動する力」を伸ばして行いたい。 ・不登校児童について、保護者や関係機関と連携して、安心感のある居場所づくりに引き続き取り組みたい。		

令和3年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
1 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 2 めざす児童像 (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ○学力向上を図る学校づくり (1) 主体的な学びに向けた授業づくり (2) 基礎基本の定着を図る取組の充実	具体的方策 ・単元を見通して、学習内容（ねらい）の理解を明確にした「わかる」授業づくりを推進する。 ・基礎基本の定着や思考・表現・判断力を充実させる学習活動を推進する。（ICTを活用した授業展開の工夫等） ・学習規律（話す聞く等）の定着に向けた取組を充実する。 ・ドリルパーク等のタブレットを活用したドリル学習を行う。 ・家庭との連携を密にした学習習慣及び生活習慣を確立する。	成果と課題（自己評価） 【学力向上を図る学校づくり】 ○児童同士の考えを伝え合う活動により、ねらいに即した学び合いの大切さが明らかになった。 ○一部の学年では、算数科において習熟度別グループ学習を実施し、より丁寧な個別の学習指導を行うことができた。 ○タブレットのドリルパークを活用し、児童一人一人が自ら進んで取り組むことができた。 ○1月実施のDRTの結果は、どの学年も全国平均を上回ることであった。 △今後も落ち着いた学級経営を継続し、安心感の中で主体的に学ぶ力を向上させる。	教育活動推進のためのキーワード「尊重・協働・サポート」 1 目標・目的を明確にした上で具体的な方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。（組織や過程を活かした意思決定を大切に。） 2 子どもの「素敵な心」に寄り添い、互いに尊重し合い、正しい価値が通る落ち着いた学級経営を大切にすること。 3 肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導観について学び合い、教職員がコミュニケーションを大切にしていく。
生徒指導	○居心地のよい学校づくり (1) 安心と安定のある学級経営の充実 (2) 望ましい人間関係を築く力の育成 (3) 「いじめ」「不登校」等の未然防止に向けた日常的指導及び相談活動の充実	・生徒指導の三機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場）を活かした学級経営を推進する。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さをやがんばりを認め合える集団づくりを行う。 ・全校的な異年齢活動の取組等の節目づくりを行い、好ましい人間関係を育成する。（かかわり合う中で価値を見出したり、高学年のリーダー性を発揮させたりする。） ・的確な児童の日常的に状況を把握し、組織体制の中で情報の共有や見立て、方針を確認し取り組んでいくことで、「いじめ」や「不登校」の早期対応を行う。	【居心地のよい学校づくり】 ○問題事象もほぼなく、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができた。 ○数少ない異年齢活動において、児童相互の「かかわり合い」に視点を当てた取組を行い、周りの成長と共に喜び合う姿を多く見ることができた。 △不登校傾向児童に対して、取組の方針を家庭と共有して取り組むことができたが、引き続き、見立てと取組の工夫を検討しながら、継続的に取り組む必要がある。 △児童が安心できる学級づくりを継続する。		

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として

健康（体 育）・安全	○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	・朝の体力づくり（マラソン）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。（学園の課題に応じたメディアアカウントローの指導を行う。） ・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々や連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等）	○「苦手な子も挑戦できる」ことをキーワードにした朝マラソンを行い、ペア学年で励まし合いながら取り組むことができた。 ○定期的（学期1回）に生活習慣を見直す機会を持ち、メディアアカウントローにおいても各学年の指導系統表を作成することができた。 △登下校では、安全ボランティアの方にお世話になっているが、猿や熊等の出没に対する対応も行政との連携も取りつつ考えていく必要がある。
特別支援 教育	○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。	・配慮を必要とする児童の状況やその支援のあり方について、継続的に共通理解をしたり校内研修で深めたりする。 ・スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士等との外部との連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。 ・丁寧で継続的な面談を通して、保護者と支援の方向性や今後の進路についても確認し合い、適切な就学指導を行う。	○児童の支援に対して、保護者と継続的な面談を行い、具体的な状況や取組を共有し、適切な就学に結び付けることができた。 ○保護者にスクールカウンセラー等との面談をつなげることで、保護者の不安の解消や継続的な支援に結び付けることができた。 △今後も、支援の必要な児童に対して、保護者と支援の方向性や具体的な取組を共有し、共に考える姿勢を継続していく。
開かれた 学校づくり	○家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校づくり （1）意欲的に教育活動を推進する教職員の資質・能力の向上 （2）家庭や地域と協働する学校づくりの推進	・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。 ・学校評価や保護者アンケート、行事や取組の感想を活用し改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。	○コロナ禍で安易に中止とするのではなく、延期や縮小しながらも取組を何とか実施したいという学校の姿勢が実施後の感想から表れていた。 ○コロナ禍もあり来校する機会がないため、不定期ではあるが105回のHP更新を行い、63626件のアクセスがあった。（2/25現在） ○保護者アンケートを11月に早期に実施することで、学校評価に活かし、次年度に向けた改善につなげることができた。 △総合的な学習の時間等の教科を活かし、さらなる地域教材や人材を活用した学習活動を推進する。
次年度に向けた改 善の方向性	1 これまでの久美浜学園の教育活動の積み重ねを土台として、「主体性」を発揮するための土台となる「安心・安定した学級経営」「基礎学力の定着」について具体的な取り組み、一歩ずつの改善を目指す。 2 「児童相互とのかわり合い」を教育活動の重点的な視点として位置付けると共に、その指導を積み重ねることで、児童の「主体性」の基盤となる「安心感」の醸成を目指す。 3 本校の課題である「不登校」の解消に向けて、①「かわり合い」を通じた安心感の醸成、②「基礎学力」の定着、③継続的な状況把握と具体的な見立ての検討、を取り組んでいく。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山中学校]

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目 保幼小中一貫教育の諸計画及び 各学園の重点等を基礎として	教育課程 学習指導	重点目標	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 (社会的自立につながる教育) ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTを活用した授業改善の推進と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止	1 授業改善と学力の向上 ・新学習指導要領の全面実施を受け、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。特に生徒の「学びに向かう力」を高めるためのICT等を活用した環境整備や教師の適切な指導力の向上を図る。 ・「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究成果を学校全体で共有し、教科の指導に生かす。 ・社会的自立につながるための基礎学力の定着を生徒に徹底する。 2 豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にす言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。
	生徒指導	・生徒の『自ら』学ぶ力を高める環境整備や授業研究を推進する。 ・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。	【授業改善と学力の向上】 ○コロナ禍の条件の中であったが、ペアやグループでの対話型学習も大切にし、学びの集団作りを進めることで、意欲の向上や深い学びにつながる生徒の姿が見られた。 △大きな集団に対する不適応感を示す生徒にも寄り添いながら、生徒の可能性を引き出す学びの実現を図る必要がある。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○不登校出現率の減少を重点として取り組み、元年度出現率3.56%から2年度2.39%に減少させることができた。 △しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組の展開が今後重要である。	○生徒をつなぐ授業改善を進めることにより学習意欲が高まり、「学習に意欲的に取り組んでいますか。」という問いに90%の生徒が肯定的に答えている。特に3年生は昨年度78%から91%へと大きく改善した。 ○3学期は「ハートフル💡スタディ」を週2回実施し、基礎学力の向上に努め、力を発揮させることができた。 ○子ども達をつなぎ、寄り添う指導を展開することにより、新規不登校の出現を抑えることができ、不登校の出現率も2.18%と低い数字を維持できている。 △全体的には落ち着いた学校生活を送れているが、個々の生徒が抱える課題も様々であり、対応の難しさから問題行動の件数が増加することとなった。
成果と課題 (自己評価)		・一人一台のタブレット端末の活用等、ICT機器を有効に活用する環境を整備するとともに、「学びに向かう力」を高める授業研究を推進する。 ・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。		

健康(体育)・安全	・保健教育と管理の徹底を図る。 ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。	・確実な日々の健康観察と感染症予防対策の徹底を図る。 ・交通安全指導を繰り返し行い、交通事故防止に努める。 ・主体的に部活動に取り組むための指導を進める。	○緊急事態宣言中は生徒昇降口での毎朝の検温を実施する等、感染症予防対策を徹底することができた。その結果、校内での感染を未然に防止することにつながった。 ○交通事故対策を年間を通じて実施する中で、大きな事故の発生は防ぐことができた。 △コロナの関係もあり、部活動を十分に実施できず残念であった。
特別支援教育	・障害のある生徒への理解を深め、指導方法を研究する。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。	・特別支援学級が5学級になったことを受け、より一層特別支援教育の研修を積み重ね、聴覚障害のある生徒の進学・社会的自立を見据えた教育支援を組織的に展開する。 ・個別の教育支援計画等の活用を充実させ、生徒支援を進める。	○今年度から支援学級主任の立場を明らかにし、企画会議にも参加する中で、組織的な運営ができたことは今後の大きな指針となった。 △個々の課題に応じた支援を積み上げることができ、伸びた生徒も多くいるが、社会的自立を見据えた時に、進学校との連携をさらに進める必要を感じている。
人権教育	・人権問題についての理解や認識・実践力を高める。 ・教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。	・日常生活の中の活動や取組の中で人権問題に関する部分に視点を当て、人権問題の解決につながる行動力を培う。 ・各種会議の中で教職員の言動について振り返る機会を設け、生徒がのびのびと学べる環境作りを常に大切にす。	○教職員の言動については、機会ある毎に振り返り、常に「傾聴と対話」を意識した指導を心がけた結果、生徒達とは良好な関係が築けている。 △教職員の人権意識を更に高めるため、いろいろな人権問題について日常的に関心を持ち、その解決に向けた構想を持つ中で、指導力の向上を図りたい。
次年度に向けた改善の方向性	① 「令和の日本型学校教育」への理解を深め、全ての子ども達の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、ICT 環境の適切な活用について、教職員の力量形成を図る。また、常に「探求」を意識した教育活動を展開し、教科横断的な視点で子ども達が、「新たな価値を生み出す」ような教育活動を展開する。 ② 人権が尊重される学校環境を整え、子ども達個々の課題に応じた指導の幅を広げるための研修を積み重ね、「傾聴と対話」を第一とした教育を推進する。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立大宮中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1	夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成	○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 ○授業を公開し、お互いの授業から「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに生かすことができた。 ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組の充実を進めた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、全校で取組を進めることができた。 △新規不登校生徒もおり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。		1 質の高い学力の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善・授業づくり ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 2 生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援 3 人権教育を基盤とした指導の展開 4 特別支援教育の充実 ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 5 信頼される学校づくり ・家庭及び地域との相互連携の推進 ・外部関係機関との連携強化 6 大宮学園運営協議会との協働
2	学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着	○大宮学園合同授業研究及び合同研修会、校内授業研究を授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・各種テストの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着と根気強く取り組む力の育成を図る。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・ICTを効果的に活用するための研修を計画的に行い、授業の工夫・改善に積極的に生かす。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。		
3	健康な体と豊かな心の教育の充実			
4	信頼され、開かれた学校づくり			
5	教職員の資質能力の向上			
6	大宮学園保幼小中一貫教育の推進			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）	
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として	・小中の接続期（Ⅱ期）の指導方法の研究を通じた授業改善 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり ・丹後学の研究と推進 ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進	・大宮学園合同授業研究及び合同研修会、校内授業研究を授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・各種テストの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着と根気強く取り組む力の育成を図る。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・ICTを効果的に活用するための研修を計画的に行い、授業の工夫・改善に積極的に生かす。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。	○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 ○各種学力検査の結果を分析し、校内研修で交流協議を行った。授業改善や補充学習に生かすことで基礎学力の定着と向上が見受けられた。 ○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 ○ICTの効果的な活用に向けた校内研修を充実し、主体的で対話的で深い学びにつながる授業づくりを進めた。 △各生徒の学習状況を把握し、支援の在り方について共通確認し、個別の指導を充実する中で基礎学力の定着を図る。	

生徒指導	・小中の合同生指部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築	・学園人権・生指・特活部会での連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指導部会を開催し、日々の情報共有と指導の方向性を確認し指導の一致を図る。 ・不登校生徒の状況把握に努め、未然防止、初期対応を丁寧に行う。また、毎週の教育相談部会の機能化を図り、指導・支援を組織的に行う。 ・SC・SSW、関係機関との連携を強化する。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・研修を通して教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤にし、教育活動を推進する。	○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士、生徒と教師の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組を充実させた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化、一致した指導・支援に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、生徒の動きづくりと併せて取組を進めることができた。 △新規不登校生徒もあり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。また、引きこもりを出さないよう関係機関と連携していく。
健康（体育）・安全	・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進	・感染症対策を徹底し、安心安全な環境づくりを進める。 ・危機意識の醸成を図り、自らを守る行動を考えさせる。 ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため、部活動指導を充実させる。	○新型コロナウイルス拡大に危機感を持ち、感染防止を徹底させ、安心安全な環境づくりを進めることに努めた。 ○生徒会及び専門委員会活動の活性化を進め、学校生活の向上とともに、校則について生徒と共に見直しを行った。 ○部活動の縦のつながりを大切にして取組を進めた。
開かれた学校づくり	・地域の教育資源の活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会（コミュニティ・スクール）との協働	・保幼小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと連携し、大宮学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働を具体的に進める。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。	○京丹後警察と連携して交通安全の取組（自転車利用安全推進員）を地域に発信できた。 ○学園運営協議会との「見守り」とセットの「あいさつ」の取組をPTAや地域の方々とも連携しながら行った。 △コロナの関係で地域への公開ができなかった。
危機管理	・人権尊重の視点に立った指導の展開 ・人材育成の推進 ・コンプライアンス遵守の徹底	・一昨年度の「不適切な指導」に係る教訓を実践に生かす。 ・人権教育の研修を計画的に行い、常に共通確認した「大切にしたい指導」に立ち返り、指導や支援にあたる。 ・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底させる。 ・学年及び分掌主任の育成を図り、組織的に実践を進める。	○その都度、人権を大切にしたい指導・支援になっていくかを振り返りながら危機意識を持った実践を継続できた。 △生徒への指導支援の初動を大切にするとともに、生徒やその保護者の思いに寄り添った指導支援を丁寧に進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	1 大宮学園保幼小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「ICTも活用した精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2 学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園の授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。また、ICT（タブレット）を活用したテクノロジーやミラシード等の活用を効果的に進め授業の工夫改善を図る。 3 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能の強化を継続し、組織的にあたる。 4 大宮学園運営協議会との連携、協働を一層進め、より地域とともにある学校・学園を目指す。 5 新型コロナウイルスの感染防止を徹底するとともに、生徒にとって安心で安全な学校を地域とともにつくる。		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」の展開「つながろう仲間と つなげよう心を！」を生徒の合言葉に設定し、常につなぐを意識させ学校生活を充実させる。 1 指導の重点 (1) 学ぶ意欲、確かな学力の育成 (2) 豊かな人間性の育成、規範意識の醸成 (3) 不登校の未然防止と解決 2 具体的方策の明確化と進行管理 (1)「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進 (2) 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進 (3) 特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実
	教育課程 学習指導	1 授業実践力の向上を図る。 2 家庭学習時間を確保し、家庭学習の習慣化を図る。 3 教科横断的な教育活動を推進し、活用する力を育成する。	・言語活動を効果的に位置づけ、「主体的に学ぶ力」や「コミュニケーション能力」等の育成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 また、生徒一人1台のタブレットを授業改善手段として活用する実践研究を進める。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、習慣化を図る。 ・教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育活動を推進し、教育効果を高める。	
生徒指導	1 自己指導能力を育成する。 2 いじめ等の人権侵害を未然に防止するとともに、早期解決を図る。 3 不登校の未然防止と解決に向けて、取組を強化する。	・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒が意識し、教員・生徒相互の取組により自己指導能力の育成を図る。(居場所づくりと絆づくり) ・「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ」を合言葉に、実態把握、つながる場の設定、適時性ある肯定的評価の取組を積み上げる。 ・個々の役割を明確にし、チームとして取組を推進する。	○生徒は他者を大切にして規律ある生活を送り、物事に対して前向きに取り組んでいる。 ○二者面談等の相談活動を大切にし、生徒同士の良好な関係を築き、生徒を認め励ましながら組織的に指導を展開できた。 △不登校の解決に向けて、チームでの取組、関係機関と連携した取組を進めたが、課題を残した。	

健康（体育）・安全	1 体力の向上を図る。 2 望ましい食習慣を身に付けさせる。 3 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。	・各種体力テスト等の結果を踏まえ、健康増進・体力向上の取組も定期的に実施する。 ・毎月の食育の日、給食週間の取組をさらに充実させる。 ・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。	△コロナ禍による部活動の活動制限により、十分な練習時間の確保ができなかった。 ○給食の時間の校内放送、食育の日の取組、啓発資料の掲示等により、食育を充実させることができた。 ○津波を想定した高台避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室、「ゲーム・ネット講座」を実施し、安全に対する意識の向上と危機回避能力の向上に努めた。
特別支援教育	1 校内支援体制の機能化を図る。 2 個々の生徒や保護者のニーズを把握し、支援を充実させる。 3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善を図る。	・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図る。 ・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り連携した支援の継続に努める。 ・生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実し、有効な手立てを蓄積する。	○校内教育支援委員会や特別支援教育部会の機能化を図り、関係機関の助言を踏まえた支援に努めた。 ○個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、保護者と連携を図りながら支援の充実を努めた。 ○相談活動により学習や生活上の困難さを把握し、支援を継続することで、学校不適応の未然防止にもつながった。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくりを推進する。 2 双方向の情報交流を活かし、学校改善を推進する。	・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 ・たより、HP等を活用して情報発信に努め、積極的に学校公開を実施し、地域との連携を深める。 ・網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。	○保護者からの連絡・問い合わせ、生徒の学校生活上の課題等に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努めた。 ○コロナ禍で行事や授業の参観等の機会が減少する中、学校だより、HP、網野学園だよりを活用し、本校の教育活動や生徒の取組状況等を積極的に発信した。 ○網野学園学校運営協議会において、網野学園の取組に支援をいただいた。また、PTA本部役員会と連携・協力を図り、本校の教育活動を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性		・来年度も「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」という指導観のもと、「つながるう仲間と つなげよう心を！」を教職員・生徒の合言葉とし、常につながりを感じながら学びに向かわせるとともに、安心・安全な学校生活、安定した学校を維持・向上させる。 ・各分掌との連携・協働的な実践を通して、自己肯定感の醸成、学校不適応の未然防止等に引き続き取り組み。 ・生徒一人1台のタブレットを活用した授業を行い、生徒がより授業内容が理解でき学習に対する意欲がもてる効果的な活用方法の研究を行う。	

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹後中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	評価項目	重点目標	具体的方策	個々の生徒が自分にとっての本物(進むべき方向性)を定め、創造し生き生きと挑戦する学校にする ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～ ○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動すること、本物を目指す。	
	教育課程 学習指導	・互いの個性を認め合い、互いが高まり合うコミュニケーション能力の育成を図る。 ・GIGAスクール構想に則った一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。	・全ての教科でタブレットなどのICT機器の活用のスキルを高め、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、多様な学習形態の創出に努める。 ・新しい評価観点に基づいた目標と指導と評価の一体化した取組を、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・通年のドリル学習の一層の内容充実を図り、授業内容や家庭学習課題と関連付けるなど工夫し、継続的に取り組ませる。	○タブレット活用などは、教科授業に限らず、生徒会の議案書や選挙公報などのペーパーレス化、タブレットを持ち帰っての家庭での動画視聴など、特別活動も含めて多様な学習形態を創造すること、生徒の自己有用感や共感的態度の育成などに繋がった。 ○校内研修で3観点の関連や育成する資質能力をはっきりとさせ、評価材料の蓄積をICT活用と並行して授業内の活動で行い、指導と評価の一体化が進んだ。 ○通年のドリル学習の実施教科をこれまでの国数英に社理を加えて5教科とし、基礎基本問題を繰り返し、授業での学習内容定着を図れた。1・2年の少人数数級授業に加えて、3年英語も習熟度別少人数授業やT T指導を行い、個に応じた指導の充実が図れた。	
生徒指導		・仲間を思いやる校風の充実を図り、居場所づくりや絆づくりを推進し、不登校の未然防止に努める。 ・育てたい力を共有し、教職員の学級経営力の向上を図る。 ・安心できる仲間関係を築かせる。	・業間指導における生徒への寄り添い指導を全教職員で丁寧に行い、教育相談月間などで生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・生徒の協働的な活動の場の充実を図り、「将来の社会的自立」に向けた生きて働く指導を進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。	○全教職員での業間指導を年間通して実施するとともに、2分前着席を行うことで、学習規律の安定を生み出し、生徒にとって安心安全な学校生活につながるが、心の安定につながった。 ○立会演説会や立志式、合唱祭の中間交流会など、コロナ禍の制限下であっても、オンラインや録画、規模縮小などの工夫で、異年齢の意見交流や決意の交流、丹後中の伝統に触れる機会を大切にする中で、生徒の視野を広げる活動を進めた。 ○毎週のいじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会で、検討した週ごとの指導の方向性を全教員へ発信し、学校全体で指導にあたることができた。学期ごとの全教員による「相談タイム」やいじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につながった。	

健康（体育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さをもつて、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・新たな価値を生み出すことへの挑戦を続け、体育系・文化系部活動がかかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園一貫 PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、コロナ感染など対応など感染症予防など衛生面からも常に危機意識を持ち指導にあたる。	・様々な教育活動の場面を見ていただく機会を、保護者の方だけでなく、丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただく意見や感想を学校経営に活かす。 ・地域の取組への積極的な参加や、学校だより等の地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して中学校的状況を伝えると同時に丹後保幼小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。	○コロナ禍で活動の制限がある中ではあったが、各種大会や試合、発表や作品の作品展、日々の頑張りを発信する場として、限られた時間を大切にしておき、取り組む姿勢が生まれてきている。礼儀などを学ばせる場として部活動の指導にあたることを継続し、上位入賞を果たす部活や、文化面での入賞も多くあり、成果がみられた。 ○丹後学園 PTA・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動（NHD）や登下校指導は計画通り実施できた。また、子育て教育講演会を行い、子どもたちの教育環境づくりや保護者同士の連携が図れた。 △喫緊かつ重要な課題として、子どもたちを取りまく SNS に関する指導があげられる。コロナ禍の関係で、各校園所で、可能な範囲で実施した。感染症予防に係る新しい学校生活様式は、定着できている。
開かれた学校づくり	・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校 8 年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。		△学校や学園の行事や取組を広く案内するという計画は実施できなかった。丹後学園運営協議会の委員や保護者に限った案内となることが多かったが、可能な範囲での参観はいただいた。学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めたが、感染症防止のため制限の中での参観となった。 ○来校いただけない分、学園 H P や学園だよりなどの参観していただく予定であった行事内容の発信に努めることができた。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけでなく、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努めたが、実施は不十分であった。	
特別支援教育	・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切にして行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒について全教職員で課題共有を大切にし、校内委員会などの組織的な適切な支援を実施する。 ・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研や研修会などの充実を図り、また、切れ目なく学ぶことができて教育を進め、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。	○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。参観や懇談など小中の接続を丁寧に行い、個々の生徒の良さと課題を共有し、適切な支援につながる連携ができた。 △関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、支援の充実のための環境づくりと指導の充実を更に進めていく。	
次年度に向けた改善の方向性		・感染症防止を最優先に行い、地域に開かれた学校づくりに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えしていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導に努めるとともに、系統的な読む力の育成を重点研究テーマとして進めていく。 ・ICT 機器を活用した教材開発や本年度より実施となった学習指導要領に基づく評価の研究を深める授業改善を進める。		

令和3年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。	ICT機器の活用や、授業形態の工夫により意欲的に学習に取り組む生徒がふえた。また、繰り返しの学習の取り組みで、基礎基本の定着が進んだ。しかし、自分の考えや思いを発信したり、学んだことを活用、応用する点で弱い部分が見られる。 二者面談の取り組みや、業間の意図的な生徒との関わり、組織的な生徒の実態把握と指導方針の共有により、全体的に落ち着いた学校生活がおくれている。自分に自信が持てず、自己肯定感が低かったり、家庭環境や発達の問題から不安定になる生徒も見られるため、専門性に基づいた指導が必要である。	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）	1 教職員研修等、学校全体の指導力向上の取り組みを通じた人材育成 2 基礎基本の定着と、主体的・対話的で深い学びのための課題解決型学習の推進 3 特別支援教育の充実 4 学校の組織的指導力の向上
2	主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育てる。				
3	教育課程の編成と実施に努める。				
4	基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。				
5	知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。				
評価項目		重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）	
教育課程 学習指導		・ 主体的、対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり	・ ICT機器の積極的な活用 ・ 課題解決型学習の推進 ・ 学園授業研究会の実施と指導方法の改善 ・ 終SHR時の延長学習、教え合い学習での基礎基本の定着	○課題解決型学習に取り組むことで、他者の意見をふまえて、自分の思いや考えを発信することができた。 ○授業での電子黒板、タブレットの利用、オンラインでの集会等、ICT機器の活用が進んだ。 ○京丹後市や学園の授業研究会の取り組みで授業改善が進んだ。 ○教え合い学習の取り組みで、生徒同士、教師と生徒の学習を通しての信頼関係の深まりと基礎学力の高まりにつながった。 △学力の2極化が進む中、基礎学力定着の効果的な取り組みを継続的に行う必要がある。	
生徒指導		・ いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応 ・ 生徒指導の3機能を生かした実践の推進と自尊感情の醸成	・ 業間の関わりや二者面談等、生徒との信頼関係を構築するための活動の推進 ・ 定例のいじめ防止対策委員会、生徒指導部会、教育相談部会で実態把握と組織的な対応や指導の方針立て ・ いじめアンケート等、各種アンケートによる実態把握、早期発見、早期対応 ・ 人間関係づくりや自己肯定感を高める取り組みの推進 ・ ベテラン、中堅教員による学級経営や行事の取組みに関する研修 ・ SC、SSW、その他専門機関を活用した指導と教職員員の研修	○生徒との関わりやアンケート等で実態把握、情報共有を行い、生徒指導、不登校等に対する早期対応や指導を行った。 ○ベテラン教員による学級経営の研修で、指導のポイントを共有し指導力の向上と人材育成につなげた。 △多様化する生徒、複雑化する教育課題に対して、さらに組織的な対応や、専門機関の活用を推進していく。	

各学園の重点等を基盤として

及び

の諸計画

の一貫教育

の目標

健康（体育）・安全	・ 基本的生活習慣の確立 ・ 部活動の充実 ・ 保健、安全教育の推進	・ 部活動や保健指導による健康的な体力づくりと基本的生活習慣の確立 ・ 薬物乱用防止教室、性に関する学習、感染症予防等の指導による自分を守るための自律的態度の育成	○情報モラル学習会は、生徒自身が自らの行動を振り返る機会となり、非常に効果的であった。 △コロナ禍の行動制限により、生活リズムの乱れや体力低下が懸念される。継続して自律的な態度の育成に努める。
特別支援教育	・ 特別支援に関する専門的な知識と指導法の習得 ・ 特別支援コーディネーターによる推進体制の確立	・ 専門家の指導助言や研修による、特別支援に関する理解と適切な指導法の習得 ・ 気になる生徒の状況を把握し、適切に対応するため、特別支援コーディネーターが、学年や分掌をつなぐ組織体制の推進	○気になる生徒の状況を定期的に交流し、一人ひとりにあった対応や指導について共通確認を行った。 △適切な対応や指導のため、研修や実践を通して、教職員の更なる知識や指導力を高めなくてはならない。
研修（資質向上の取組み）	・ 校内研修による指導力の向上 ・ 研修会への参加と伝達講習	・ 課題解決や指導力向上のための校内研修の実施 ・ 各種研修会への参加、専門機関との連携と本校教職員へのフィードバック	○教育課題に応じて専門家を招いたり、校内の人材を活用したりして、知識と指導力を高める取組みを継続する。
次年度に向けた改善の方向性	1 授業研究会や課題解決型学習の取組みの成果を今年度のもので終わらせないよう、今後も継続した授業改善の取組みを行う。 2 基礎学力の定着、適切な人間関係による自尊感情、自己肯定感を醸成する指導を授業や学校行事、部活動等あらゆる教育活動の中でバランスよく行う。 3 現代の生徒の思いや悩みを的確に受け止められるよう、研修と実践を行い指導力の向上と人材育成に努める。		

令和3年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<久美浜学園> 指導の重点: 学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) (3) 家庭学習時間の確保 ◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にしている学校を目指す。 ◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 1 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善 4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」	評価項目 教育課程 学習指導 幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	重点目標 ◇根拠ある学力分析の上 に立った学力向上・授業づくり・ICT活用の取組 (1) 全教員による「主体的に学ぶ力を伸ばすための、ICTを活用した授業づくり」の展開 (2) 保幼小中一貫教育を軸とした中学校教育の展開	具体的方策 ◇学習指導要領完全実施に伴う授業改善と評価研究 ◇久美浜学園教育課程協議会として「各期における確かな学力の定着を目指した学力向上プログラムの構築」 ◇教的评价が可能な各学年の学力検査における学力向上を目指した方策づくり ◇「CBT調査システム構築・活用実証研究」と各教科におけるデータベースの活用した各種デスタの開発 ◇保幼小中一貫教育についての再学習と協働した展開 ◇小学校英語専科・文科省理科専科による小中一貫の視点での学力向上及び生徒指導の推進	成果と課題(自己評価) △全体的に学力は向上したが、教科や校種を越えた根拠ある学力分析と具体的手立ての立案、改善には課題が残った。 ○中学校学習指導要領完全実施に伴う研修や説明を丁寧に行なった。 ○ICTを活用した授業実践が大きく前進し、授業研究会も盛んに行われた。	1 保幼小中一貫教育の一層の推進 学園の教育目標に基づいた保幼小中一貫教育を一層推進することにより、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上や不登校の未然防止に努めるとともに、研究授業を含む全体研修や個別研修を充実させる。 2 教職員の資質向上 教員の人材育成に重点を置き、各コディネーターがマネジメントし、各分掌を横断的に連結させることにより学校組織力を強化するとともに、日頃の実践や研修をおして、個々の教師力の向上を図る。 3 キャリア教育の充実 学校運営協議会を軸とした地域連携を強化し、学園内、地域、高等学校と密接に連携したキャリア教育を充実させることにより、総合的な学習の時間のみならず、丹後学、道徳、進路指導、人権教育、各教科等において、自分のふるさとや持続可能な社会、進路や将来について考えさせる機会を意図的・総合的に設定する。 以上、1～3を教職員の協働により複層的且つ具体的に展開し充実させていくことにより、学校全体の肯定感の醸成や望ましい生活環境の整備を進めていく。

生徒指導	◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた取組 (1) 「生徒指導の一体的展開」のための組織改編と強化 (2) いじめの撲滅に向けた取組推進 (3) 人権を尊重できる学校づくりの取組推進	◇生徒指導及び教育相談の機能を統合した、全教職員で不登校解消に取り組むための組織の再編成 ◇いじめ防止基本方針の理解の徹底と保護者への広報 ◇場面指導や聞き取りと、心に迫る組織的生徒指導との要素分離、生徒指導の三機能を踏まえた指導の展開 ◇同和問題や、ハラスメント、体罰、職場人権等、法令遵守に関わる事項や人権にかかわる研修の定期的開催 ◇生徒や教員の個人情報掲載や連絡網の配付などの廃止、新たな「文書規定・個人情報保護ガイドライン」の策定等、個人情報の保護を徹底する取組 ◇ジェンダーに係る慣行の見直しと制服等の見直し	○穏やかで落ち着いた学校生活を送ることのできる環境が整ったことにより、学習に主体的に取り組むことができた。 △別室指導が充実し、改善傾向の生徒も増加した一方で、新たに1年生の新規不登校の欠席が増加し出現率は横ばいの状況のまま推移した。 ○効果的に方針立てするための組織改革を行うとともに、個別のケース会議をもつて対応にあたることで、関係機関との連携やカウンセラーの支援要請などを円滑に行えた。 ○ジェンダー平等やLGBTQに関する指導が充実できたとともに、スラックスの導入など新年度に向けた制服改定を進めることができた。
健康(体育)・安全	◇新型コロナウイルス感染症感染防止の取組徹底及び健康・安全教育の充実	◇緊急時対応訓練の実施(土砂災害、火災、不審者、地震) ◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニキュアの徹底 ◇健康・安全に関する教育の充実	○新型コロナウイルス感染症に係る感染防止の取組を教職員及び生徒が一体となり、タブレットによる毎日の健康観察や消毒作業などを日常的に徹底することができた。 ○新型コロナウイルス感染症に係る感染防止の取組を教職員及び生徒が一体となり、タブレットによる毎日の健康観察や消毒作業などを日常的に徹底することができた。
特別支援教育	1 校内指導体制の機能化 2 特別に支援を要する生徒に対する個別に応じた指導の充実	◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援の実施、自立活動に係る研修充実 ◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な相談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○コーディネーターが中心となり、諸計画書類等の整備や校内研修などを進めることができた。 ○よさのうみ支援センターの巡回相談の活用などにより、特別支援教育の視座に立った生徒指導や学校教育の見直しを図ることができた。
開かれた学校づくり	◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化 (1) 学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開 (2) 危機管理の徹底と正常な教育活動の維持 ◇「新・チーム久美中」の組織力を発揮するための改革の断行	◇学校運営協議会を校内の教育活動の依頼・選定窓口とした地域人材の積極的な活用 ◇市民・町民に開かれた学校を目指した久美浜学園としての活動・成果の積極的発信 ◇地元の高等学校を身近に感じることのできる久美浜学園が協働した合同プロジェクトの推進 ◇危機管理の徹底と、ウィズコロナにおける正常な教育活動の維持・継続 ◇働きやすい職場と保護者・市民の信託に応え信用される学校づくりの取組 ◇生徒指導や学習評価など教育活動全般における、説明責任を果たせる根拠ある指導の徹底	○久美浜学園の夏季全体研修会のテーマをコミュニケーション・スキルに置き、講義や学校運営協議会や地元高等学校からの課題提起を行うことにより、地域に溶け込んだ今後の学校教育の在り方について全教職員が学ぶ機会となった。 △コロナ禍において長期にわたって活動制限が行われたため、学校公開や諸関係団体との連携会議を行うことができなかった。また、学校行事についても保護者や地域への公開が困難であった。
次年度に向けた改善の方向性	・「学びの保障」と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 ・地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」と「開かれた教育課程」を進めるための戦略的カリキュラムマネジメントの推進 ・価値観の変化への対応と多様性へのさらなる寛容性を具現化するための教育活動の精選と新たな生徒指導及び教育相談の充実		